

# 元総社蒼海遺跡群（1）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

# 元総社蒼海遺跡群（1）

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



2トレンチ全景 国分尼寺・棟名方面を望む（南西から）



2トレンチH-11号住居 カマド袖補強材検出状況（西から）



2 トレンチ出土の律令期以前の土器



4 トレンチW-3号溝検出状況

## はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される遺産の山であります。その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中核施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずつた地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる鶴橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸によって、横浜と前橋が結ばれまさに「シリクロード」として文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うものですが、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さま、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さまに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長　根岸　雅

## 例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群(1)発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所 群馬県前橋市元総社町1743番地1ほか

発 掘 調 査 期 間 平成17年5月16日～平成17年12月19日

整理・報告書作成期間 平成17年12月20日～平成18年3月23日

発 掘・整理 担 当 者 梅澤克典・井上 登(発掘調査係員)

4. 本書の原稿執筆・編集は梅澤・井上が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

石原義夫・岩木 操・大澤俊夫・岸フクエ・齊藤亜寿・白石 晃・須田博治・高澤京子・角田 恒・

渡本秋子・中澤光江・平林しのぶ・星野和子・湯浅たま江・湯浅道子

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

## 凡 例

1. 拝団中に使用した北は、座標北である。

2. 拝団に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図(宇都宮、長野)、1/25,000地形図(前橋)、1/2,500前橋市現形図を使用した。

3. 遺跡の略称は、次のとおりである。・元総社蒼海遺跡群(1) : 17A130-1 ~ 4

4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 B…堀立柱住居 W…溝跡 A…硬化面 D…土坑

P…ピット・貯蔵穴(住居内P5を貯蔵穴とした)

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 住居跡・溝跡・土坑・ピット…1/60 電断面図…1/30

全体図…1/200

遺物 土器・鉄製品…1/1、1/3、1/4 石器・石製品…1/1、1/3、2/3、1/4、1/5 瓦…1/5

6. 計測値については、( )は現存値、[ ]は復元値を表す。

7. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 燃 土… 粘土…

遺構断面図 構築面…

遺物実測図 頸壺器断面… 炭化物(煤付着など)…

灰釉・綠釉陶器断面… 灰釉陶器内面… 粘土付着…

8. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石:供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ:供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名ニッ岳湍川テフラ:供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石:供給火山・浅間山、4世紀前半~中葉)

## 目 次

は じ め に.....	i
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針.....	7
2 調査経過.....	7
IV 基本層序.....	8
V 遺構と遺物	
1 1トレンチの遺構と遺物	
(1) 堅穴住居跡.....	9
(2) 掘立柱建物跡.....	9
(3) 溝跡・硬化面.....	10
(4) 土坑.....	10
(5) グリッド等出土遺物.....	10
2 2トレンチの遺構と遺物	
(1) 堅穴住居跡.....	10
(2) 掘立柱建物跡.....	15
(3) 溝跡・硬化面.....	15
(4) 土坑・ビット.....	16
(5) グリッド等出土遺物.....	16
3 3トレンチの遺構と遺物	
(1) 堅穴住居跡.....	17
(2) 溝跡.....	17
(3) 土坑.....	17
(4) グリッド等出土遺物.....	17
4 4トレンチの遺構と遺物	
(1) 堅穴住居跡.....	18
(2) 溝跡.....	18
(3) グリッド等出土遺物.....	18
VI ま と め	
1 堅穴住居について.....	29
2 古代の溝について.....	30
3 蒼海城堀跡について.....	31
引用参考文献.....	32

## 挿 図

Fig. 1 元経社蒼海遺跡群位置図

- 2 周辺遺跡図  
3 元経社蒼海遺跡群（1）位置図とグリッド設定図  
4 元経社蒼海遺跡群（1）基本層序  
5 元経社蒼海遺跡群（1）1・3トレンチ全体図  
6 元経社蒼海遺跡群（1）2・4トレンチ全体図  
7 1トレンチ H-1号住居・B-1号掘立柱建物・D-1、3～5号土坑  
8 1トレンチ W-1、2号溝・A-1、2号硬化面  
9 2トレンチ H-2、3号住居  
10 2トレンチ H-4～6、8号住居  
11 2トレンチ H-7号住居  
12 2トレンチ H-10、11号住居  
13 2トレンチ H-11号住居カマド  
14 2トレンチ H-12～14、16、25号住居  
15 2トレンチ H-17～21号住居  
16 2トレンチ H-22～24、27号住居  
17 2トレンチ H-26、29、31号住居  
18 2トレンチ H-31号住居カマド  
19 2トレンチ H-28号住居  
20 2トレンチ H-32、33号住居  
21 2トレンチ H-34号住居・B-1号掘立柱建物・W-1、3、4号溝  
22 2トレンチ W-2号溝  
23 2トレンチ W-5～8、10号溝  
24 2トレンチ W-9号溝・A-1、2号硬化面・D-1～3、5号土坑  
25 2トレンチ D-6、7、9～16号土坑・P-1  
～10
- 26 2トレンチ P-11～18 3トレンチH-1号住居  
27 3トレンチH-2号住居・W-1～3号溝・D-1号土坑  
28 4トレンチH-1、2号住居・W-1、2号溝  
29 4トレンチW-3号溝  
30 1トレンチ出土の土器・瓦・鉄器および2トレンチH-2号住居出土の土器  
31 2トレンチH-3、5～6号住居出土の土器  
32 2トレンチH-6～8、10号住居出土の土器  
33 2トレンチH-10、11号住居出土の土器  
34 2トレンチH-11～14、16～22号住居出土の土器  
35 2トレンチH-23～25、28、29号住居出土の土器  
36 2トレンチH-31～33号住居出土の土器  
37 2トレンチH-34号住居・B-1号掘立柱建物・溝・土坑・遺構外出土の土器およびH-3、7号住居出土の瓦  
38 2トレンチH-7号住居出土の瓦  
39 2トレンチH-7号住居出土の瓦  
40 2トレンチH-7号住居出土の瓦  
41 2トレンチH-7号住居出土の瓦  
42 2トレンチH-8、10、18号住居出土の瓦  
43 2トレンチH-11、16、17、32号住居・D-6号土坑出土の瓦  
44 2トレンチ出土の石製品・鉄器・特殊遺物および3トレンチH-1、2号住居出土の土器  
45 3トレンチ遺構外出土の土器・鉄器および4トレンチ出土の土器・鉄器

## 図 版

- 口絵1 2トレンチ全景国分尼寺・棟名方面を望む（南西から）  
2 2トレンチH-11号住居カマド袖強材検出状況（西から）  
3 2トレンチ出土の律令期以前の土器  
4 4トレンチW-3号溝検出状況

- PL. 1 1トレンチ／全景、H-1号住居、B-1号掘立柱建物、W-1号溝  
2 1トレンチ／W-2号溝、A-1・2号硬化面、D-1・3・4・5号土坑  
3 2トレンチ／北区・南区全景  
4 2トレンチ／H-2・3・4・5・6・7・13・

15	18号住居	17	2トレンチ／H-7・8・10・11号住居出土の土器
5	2トレンチ／H-7・8・10・11号住居	18	2トレンチ／H-11・12・16・17・18・19・21号 住居出土の土器
6	2トレンチ／H-11・12・14・16・17・18号住居	19	2トレンチ／H-21～23・25・28・29号住居出土 の土器
7	2トレンチ／H-19～27号住居全景	20	2トレンチ／H-31～34号住居出土の土器
8	2トレンチ／H-28・29・31・32号住居	21	2トレンチ／H-34号住居、B-1号掘立柱建物、 W-2・5・6号溝、A-2号硬化面および調査 区出土の土器、H-3・7号住居出土の瓦
9	2トレンチ／H-33・34号住居、B-1号掘立柱建 物、W-1～4号溝	22	2トレンチ／H-7号住居出土の瓦
10	2トレンチ／W-5～10号溝、D-5・12・14号 土坑	23	2トレンチ／H-7号住居出土の瓦
11	3トレンチ／北区・南区全景	24	2トレンチ／H-8・10・17・18・32号住居、D- 6号土坑出土の瓦
12	3トレンチ／H-1・2号住居、W-1～3号溝、 D-1号土坑	25	2トレンチ／H-11・16・17・18号住居、D-6 号土坑出土の瓦、2トレンチ出土の特殊遺物、石 製品、鉄器
13	4トレンチ／全景、W-1・2・3号溝	26	3トレンチ／H-1・2号住居、調査区出土遺物、 4トレンチ／H-1・2号住居、W-1号溝出土 遺物
14	4トレンチ／H-1・2号住居、W-1・2・3 号溝		
15	1トレンチ／H-1号住居出土の土器、A-1・ 2号硬化面および調査区出土の瓦、2トレンチ／ H-1～3・5号住居出土の土器		
16	2トレンチ／H-5～7号住居出土の土器		

## 表

Tab. 1 元総社蒼海道路群周辺遺跡概要一覧表

2	1トレンチ／堅穴住居跡・掘立柱建物跡計測表	15	4トレンチ／溝跡計測表
3	1トレンチ／溝跡・硬化面計測表	16	1トレンチ／土器観察表
4	1トレンチ／土坑計測表	17	1トレンチ／瓦観察表
5	2トレンチ／堅穴住居跡・掘立柱建物跡計測表	18	1トレンチ／鉄器観察表
6	2トレンチ／住居カマド計測表	19	2トレンチ／土器観察表
7	2トレンチ／溝跡・硬化面計測表	20	2トレンチ／瓦観察表
8	2トレンチ／土坑・ピット計測表	21	2トレンチ／石製品観察表
9	3トレンチ／堅穴住居跡計測表	22	2トレンチ／鉄器観察表
10	3トレンチ／住居カマド計測表	23	2トレンチ／特殊遺物観察表
11	3トレンチ／溝跡計測表	24	3トレンチ／土器観察表
12	3トレンチ／土坑計測表	25	3トレンチ／鉄器観察表
13	4トレンチ／堅穴住居跡計測表	26	4トレンチ／土器観察表
14	4トレンチ／住居カマド計測表	27	4トレンチ／鉄器観察表

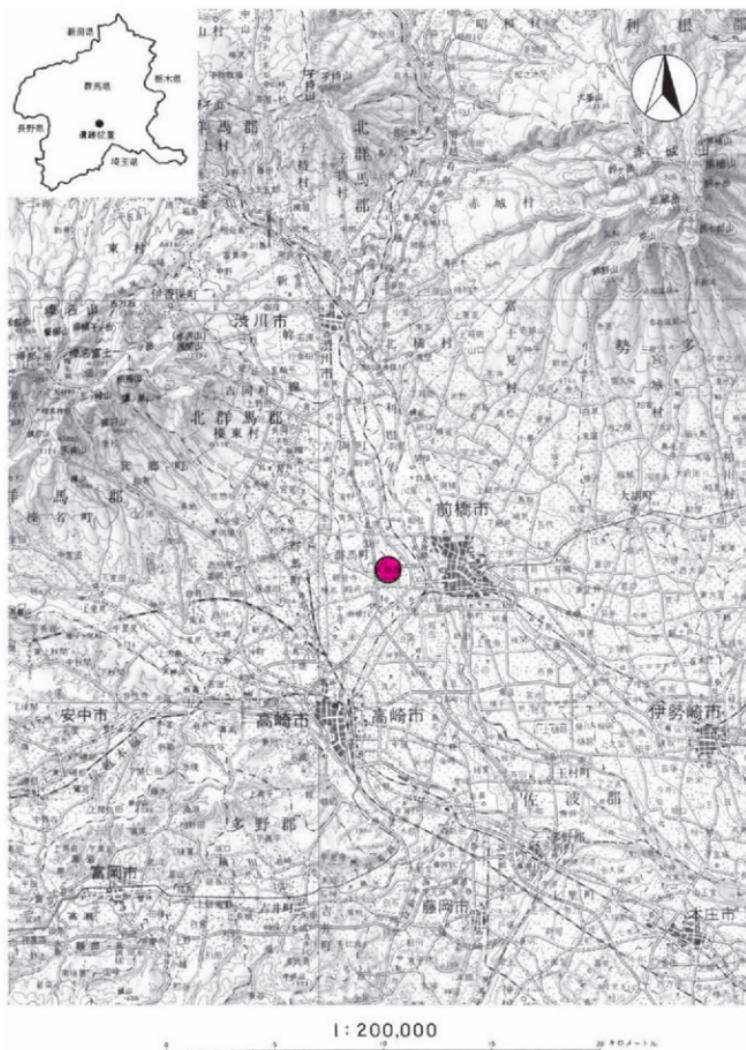


Fig. 1 元總社舊海道跡群位置図

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、6年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年4月13日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年4月28日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月16日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（1）」（遺跡コード：17A130-1～4）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（1）」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畑地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれら幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

### 2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のうちに北に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の總社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる王山庵跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鰐尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元總社小見内III遺跡や元總社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の網張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの網張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

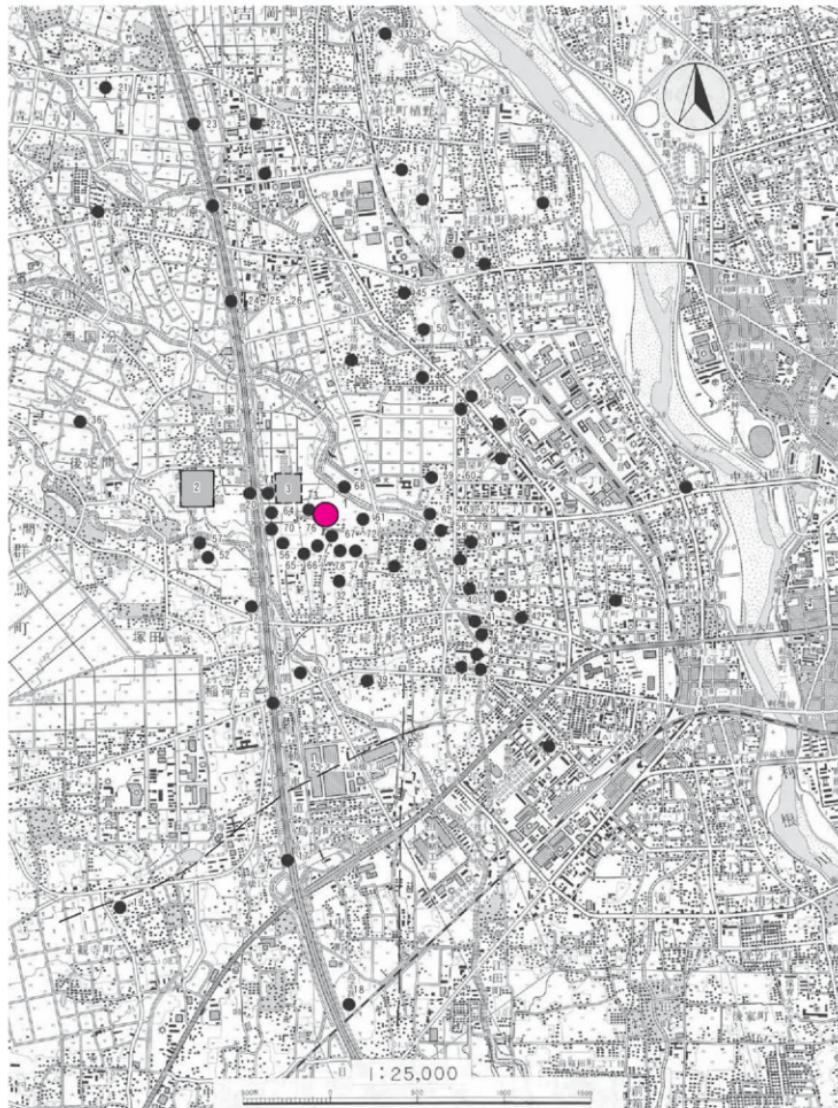


Fig. 2 周辺道路図

Tab.1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元總社蒼海遺跡群（1）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良；金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良；西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	古墳；塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳；前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳；方墳（8C初）
9	福荷山古墳	1988	古墳；円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳；円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳；前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳；前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳；方墳（7C末）
14	元總社小学校校庭遺跡	1962	平安；掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	産業道路東遺跡	1966	繩文；住居跡
16	産業道路西遺跡		繩文；住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安；住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生；水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安；条里制水田跡
19	正殿寺遺跡 I～IV（高崎市）	1979～81	弥生；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	繩文；住居跡・配石遺構、弥生；住居跡・方形周溝墓、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡、中世；掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・III	1980	繩文；ビート、奈良・平安；住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安；住居跡
23	下東山西遺跡（事業団）	1980～84	繩文；屋外埋甕、弥生；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・栅列、中世；住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡
25	国分境II遺跡	1991	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡
26	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡・墓跡、中世；土壤墓
27	元總社明神遺跡 I～XIII	1982～96	古墳；住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安；住居跡・溝跡・大形人形、中世；住居跡・溝跡・天日茶碗
28	北原遺跡（群馬町）	1982	繩文；土坑・集石遺構、古墳；水田跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡
29	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳；住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
30	閑泉橋遺跡	1983	奈良・平安；溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
31	柳木遺跡・II遺跡	1983, 88	奈良・平安；住居跡・溝跡
32	草作遺跡	1984	古墳；住居跡・平安；住居跡・中世；井戸跡
33	板ヶ丘遺跡		弥生；住居跡
34	總社板ヶ丘遺跡・II遺跡	1985, 87	奈良・平安；住居跡
35	閑泉橋南遺跡	1985	古墳；住居跡・奈良・平安；溝跡
36	後疋間遺跡 I～III（群馬町）	1985～87	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；道路状遺構
37	塙田村東遺跡（群馬町）	1985	平安；住居跡
38	寺田遺跡	1986	平安；溝跡・木製品
39	天神遺跡・II遺跡	1986, 88	奈良・平安；住居跡
40	尾敷遺跡・II遺跡	1986, 95	古墳；住居跡・平安；住居跡・中世；堀跡・石敷遺構
41	大友尾敷II・III遺跡	1987	古墳；住居跡・平安；住居跡・溝跡・地下式土坑
42	栗越遺跡	1987	奈良・平安；住居跡・溝跡
43	栗越II遺跡	1988	平安；住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な構造・出土遺物
44	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
45	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・中世：掘跡
46	熊野谷遺跡	1988	繩文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
47	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
48	元総社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・畜糞・墨書き器・中世：溝跡
49	弥勒遺跡・II遺跡	1989, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
50	大屋敷遺跡I～VI	1992～2000	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
51	元総社細葉遺跡	1993	繩文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
52	上野国分寺參道遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
53	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
54	總社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡・中世：溝跡
55	元総社宅地遺跡I～23トレシチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柴泊場跡・溝跡・道路状遺構・中世：溝跡・近世：住居跡・五輪塔・楕円
56	元総社小見遺跡	2000	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
57	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
58	總社閑泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
59	總社甲福荷塚大道遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：畠跡・近世：溝跡
60	總社甲福荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
61	元総社小見内III遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：掘立柱建物跡・溝跡
62	總社甲福荷塚大道西田遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
63	總社閑泉明神北II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
64	元総社小見II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
65	元総社小見III遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構
66	元総社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
67	元総社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：土壤基・掘立柱建物跡・溝跡
68	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・畠跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
69	福荷塚東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竪構築材探掘痕・井戸跡
70	元総社小見IV遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
71	元総社小見V遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
72	元総社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
73	元総社小見内VII遺跡	2003	繩文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：畠跡・溝跡
74	元総社小見内VIII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：窓穴状遺構
75	總社甲福荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳：畠跡・中世：畠跡
76	元総社小見VIII遺跡	2004	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
77	元総社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
78	元総社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探掘坑・金片・金粒・中世：溝跡・土壤基
79	總社閑泉明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡

\* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

\* 遺跡名の欄の（事業団）はJR群馬県理農文化財調査事業団を表す。

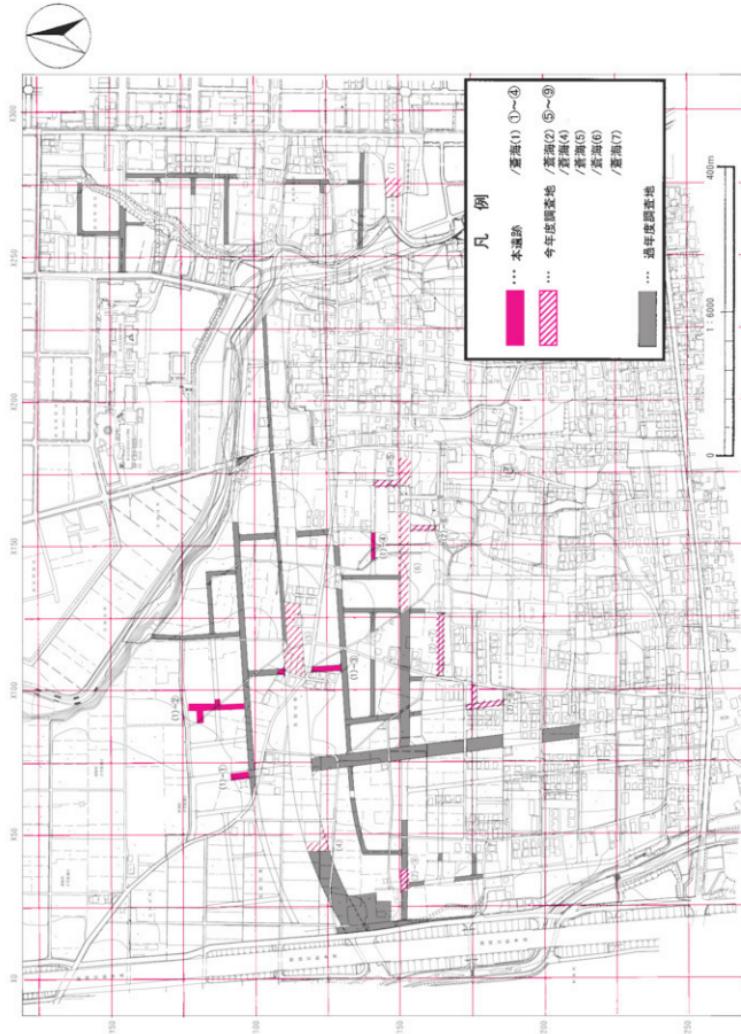


Fig. 3 元總社販海道路群（1）位置図とグリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は 1 レンチ約249m<sup>2</sup>、2 レンチ約494m<sup>2</sup>、3 レンチ約295m<sup>2</sup>、4 レンチ約225m<sup>2</sup>の合計約1,263m<sup>2</sup>である。グリッド座標については、2000年の上野国分尼寺跡確認調査から用いている 4 m ピッチのものを継続して使用し、西から東へ X69、X70、X71…、北から南へ Y91、Y92、Y93…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

公共座標については、以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群（1）	1 レンチ	測点 X71・Y95
旧日本測地系	X = +43620.000	Y = -71796.000
世界測地系	X = +43974.905	Y = -72207.753
・元総社蒼海遺跡群（1）	2 レンチ	測点 X94・Y85
旧日本測地系	X = +43660.000	Y = -71824.000
世界測地系	X = +44014.903	Y = -72115.754
・元総社蒼海遺跡群（1）	3 レンチ	測点 X107・Y125
旧日本測地系	X = +43500.000	Y = -71772.000
世界測地系	X = +43854.907	Y = -72063.756
・元総社蒼海遺跡群（1）	4 レンチ	測点 X150・Y141
旧日本測地系	X = +43436.000	Y = -71600.000
世界測地系	X = +43790.907	Y = -71891.759

検出が予想される主な遺構は奈良・平安期の集落および中世の溝等であり、調査は、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘り下げ・遺構精査・測量・全景写真撮影の順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C・Hr-FP 軽石と As-B 軽石が混入する土層を手がかりにした。

平面面成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として 1/20、住居跡カマドは 1/10 の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

#### 2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成17年4月28日に委託業務契約を締結、5月16日より現地調査を開始した。調査は、原則的に 1 レンチ、2 レンチ、3 レンチ、4 レンチの順に行うこととしたが、日程の都合上、2 つのレンチ調査を平行して行ったところもあった。

1 レンチの調査は、5月16日・17日に表土掘削を行い、それと平行して遺構確認を行った。5月23日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。その結果、竪穴住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 2 条、道路状遺構 2 条、土坑 4 基を検出した。6月8日に調査区全体写真を撮影し、1 レンチの調査は終了した。埋め戻しは、7月21日・22日に行った。

2 レンチの調査は、5月17日から19日にかけて表土掘削を行い、平行して鋤屢による遺構確認を行った。5月23日に杭打ちを行い、6月9日より遺構の掘り下げ・精査に入った。その結果、竪穴住居跡 31 軒、掘立柱建物

跡1棟、溝跡10条、道路状遺構2条、土坑13基、ピット18基を検出した。9月13日に高所作業車による調査区全景写真を撮影し、10月3日に2トレンチの調査が終了した。埋め戻しについては、10月6日・7日を行った。

3トレンチの調査は、9月2日から表土掘削を行った。なお、9月5日・6日も表土掘削繼續の予定であったが、台風による風雨が強く、安全管理のため9月7日・8日に延期した。9月8日から鋤簾による遺構確認を行い、その後、遺構の掘り下げ・精査に入った。その結果、堅穴住居跡2軒、溝跡3条、土坑1基を検出した。10月11日に調査区全景写真を撮影し、10月14日に記録作業を終え、10月18日・19日に埋め戻しを行った。

4トレンチの調査は、5月23日・24日に表土掘削を行い、6月15日に杭打ちを行った。7月29日に拡張掘削を行い、8月3日から遺構確認に入った。その後、遺構の掘り下げ・精査を行い、その結果、堅穴住居2軒、溝跡3条を検出した。10月26日に調査区全景写真を撮影し、同日をもって4トレンチの調査は終了となった。

10月27日からは現場事務所において土器洗いや図面整理などを行った。

12月20日より文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成にあたり、翌年3月23日までにすべての作業を終了した。

## IV 基本層序

本遺跡地内の基本土層の堆積状況を下図に示した。比較し易いように1トレンチから4トレンチの土層柱状図を、概ね西北西から東南東に揃うよう図の左側から並べて示した。なお、レベルは古墳～奈良・平安時代の生活面と考えられるIIIa層の上面で合わせたが、同層が欠落している箇所はIIIb層上面で合わせてある。

各トレンチの土層を比較し、テフラー、遺物包含状況、上下層位等の対比によりI～VII層の基本層位に比定したが、各層はトレンチ毎あるいは地点毎に様相を異にしている。基本的な土層堆積状況は以下のとおりである。

I層：表土層。基本的には現耕作土層で、As-Bを含みや砂質、耕作土が失われた搅乱土層もI層とした。

II層：As-Bを主体とする砂質土層。台地上では耕作土に巻き込まれほとんど認められない。

III層：As-Cを主体的に含む層を一括したが、含有物、土質により2層に分けられ、上位からa、b層とした。

IIIa層はAs-C粒の他、Hr-FP、Hr-FA粒が混在するが、搅拌されプライマリーな堆積は認められない。古墳

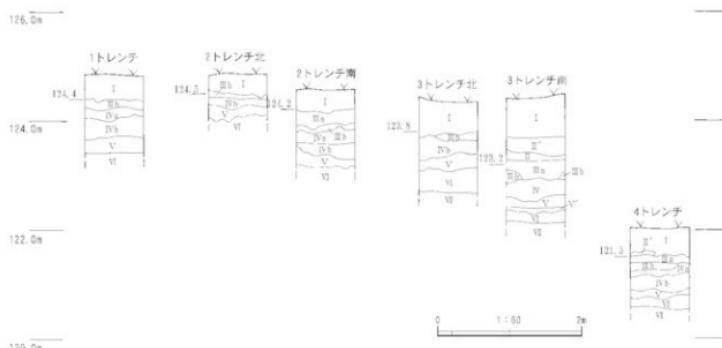


Fig. 4 元總社舊跡遺跡群（1）基本層序

～奈良・平安時代の遺物を含み、層中に該期の生活面が形成されたと考えられる。

III b 層はいわゆる C 混じり黒で、As-C 粒を 20~30% 含む。古墳～奈良・平安時代の遺構は、III a 層中に構築されたと考えられるが、同層中のプラン確認は困難であり、III b 層が遺構確認面となる。

IV 層：黒ボク土層。色調により上下に 2 分でき、上位から a、b 層とした。

IV a 層は色調が明るく褐色味を帯びる。縄文時代前期以降の遺物を包含する。

IV b 層は色調が暗い。縄文時代の遺物を包含するが時代は不明瞭である。

V 層：IV 層黒ボク土と VI 層総社砂層上層との漸移変化層。

VI 層：総社砂層上層の黄褐色砂質土層。5~15mm の小礫を多量に含む。

VII 層：総社砂層上層の硬質砂層。非常に堅くしまる。

各トレンチの土層堆積状況を見てみると。1 トレンチは北から南へ地形が下がって行くにつれ、土層の堆積が厚くなる。土層柱状図には現れていないが調査区南側には II 層の堆積も認められる。南側では III 層以下が粘性を帯び、凹地状の微地形における表流水の影響下の堆積と考えられる。

2 トレンチ北側調査区では台地状の微地形における堆積と考えられ、III b 層から認められる。各層の層厚は薄く IV a 層は認められない。南側調査区北半では各層は粘性を帯び、堆積も厚くなり、凹地状の微地形を埋没させている。この凹地は現等高線に沿って西南西方向、1 トレンチ南側に向かって延びていると予想される。

3 トレンチ北側調査区は 2 トレンチ北側調査区と同様な堆積を示す。南側調査区は 1 トレンチと同様南に下がる地形であり、等高線間隔は 1 トレンチより狭く傾斜は強い。それに伴って各層は厚く粘性が強い。II' 層は現耕作土に似たに近い色調を呈し 2 次堆積と考えられる。V' 層は黒色の腐植質土でやはり水の影響下の堆積と考えられる。VII 層は非常に硬質で殆ど砂岩に近い様相を示す。なお、1 号住居は VII 層上面を床面としている。

4 トレンチは台地上の堆積を示すが、他の調査区に比べ、5~15mm 大の地山の小礫を多く含む。4 トレンチ検出の蒼海城の堀跡と考えられる 3 号溝隔壁での観察によると、VII 層以下の総社砂層上部は、粒径の細かい砂・シルト・粘土が互層をなしている。

## V 遺構と遺物

### 1 1 トレンチの遺構と遺物

#### (1) 壴穴住居跡

H-1 号住居跡 (Fig. 7・30, PL. 1・15)

位置 X71・72、Y97・98 グリッド 主軸方向 不明。規模 東西 0.94m、南北 2.00m、壁現高 11.50cm。面積 (1.01)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。重複 なし。出土遺物 総数 11 点。そのうち土師環 1 点、須恵碗 1 点を図示。時期 埋土や出土遺物から 8 世紀初頭～前半と考えられる。

#### (2) 掘立柱建物跡

B-1 号掘立柱建物跡 (Fig. 7, PL. 1)

位置 X69、Y92~94 グリッド 主軸方向 N-6°-E 規模 東西 不明、南北 5.80m。面積 不明。柱穴 4 基検出した。P<sub>1</sub>：長径 21cm、短径 18cm、深さ 11cm の円形。P<sub>2</sub>：長径 47cm、短径 33cm、深さ 39cm の梢円形。P<sub>3</sub>：長径 30cm、短径 27cm、深さ 25cm の円形。P<sub>4</sub>：長径 45cm、短径 30cm、深さ 49cm の梢円形。柱間寸法は南北：P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub> で 1.92m、P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub> で 1.98m、P<sub>3</sub>-P<sub>4</sub> で 1.92m である。出土遺物 なし。

### (3) 溝跡・硬化面

W-1号溝跡 (Fig. 8・30、PL. 1)

位置 X69~71、Y95グリッド 主軸方向 N-87°-E 長さ 9.00m 最大幅 上幅1.21m、下幅0.66m 深さ 32.0cm 形状等 U字形 出土遺物 総数8点。そのうち須恵蓋1点を図示。

W-2号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X69~71、Y92・93グリッド 主軸方向 N-110°-E 長さ 10.40m 最大幅 上幅1.12m、下幅0.34m 深さ 45.0cm 形状等 U字形 出土遺物 なし。

A-1号硬化面 (Fig. 8・30、PL. 2・15)

位置 X69~72、Y96・97グリッド 主軸方向 N-88°-E 長さ 9.84m 最大幅 5.80m 出土遺物 総数402点。そのうち軒平瓦1点、軒丸瓦1点、平瓦1点、釘1点を図示。

A-2号硬化面 (Fig. 8・30、PL. 2・15)

位置 X69~71、Y91・96グリッド 主軸方向 N-162°-E 長さ 22.40m 最大幅 4.80m 出土遺物 総数298点。そのうち軒丸瓦1点を図示。

### (4) 土坑

土坑についてはTab.4、1トレンチ土坑計測表(p.19)を参照のこと。

D-1号土坑は覆土中に柱痕が認められるため、調査区外に掘立柱建物跡が存在する可能性がある。

### (5) グリッド等出土遺物

総数385点を検出した。そのうち平瓦1点、軒丸瓦2点を図示。

## 2 2トレンチの遺構と遺物

### (1) 壁穴住居跡

H-2号住居跡 (Fig. 9・30、PL. 4・15)

位置 X93・94、Y83・84グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 東西 [3.98] m、南北4.30m、壁現高29.0cm。面積 [15.67]m<sup>2</sup> 床面 重複しているH-6の方向に傾斜が認められる。カマド 南東端に位置する。主軸方向N-128°-E。全長74cm、最大幅69cm、焚口部幅16cm。周溝 不明。ピット P<sub>1</sub>:長径58cm、短径52cm、深さ20cmの円形。重複 H-6・H-16・H-18・H-25・D-1・D-11と重複し、新旧関係はD-1→本遺構→H-6→H-16→H-18→H-25→D-11の順である。出土遺物 総数1,109点。そのうち土師坯1点、須恵環2点、須恵碗2点、土師甕1点を図示。時期 9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 9・31・37・44、PL. 4・15・21・25)

位置 X93・94、Y81・82グリッド 主軸方向 N-101°-E 規模 東西4.18m、南北4.85m、壁現高43.5cm。面積 19.15m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド中心に堅微面が認められる。カマド 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-97°-E 全長123cm、最大幅56cm、焚口部幅22cm。周溝 北壁・西壁・南壁の一部を除き、全周する。貯藏穴 長径87cm、短径66cm、深さ21.5cmの楕円形。床下土坑 長径112cm、短径111cm、深さ5cmの楕円形。重複 H-4・H-16・H-17・H-19・H-25・H-26と重複し、新旧関係はH-4→H-16→H-17→H-19→H-25→H-26と本遺構の順である。出土遺物 総数1,895点。そのうち須恵環2点、須恵碗3点、土師甕1点、平瓦1点、刀子1点、鉄鏃1点を図示。時期 9世紀後葉と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.10、PL.4)

位置 X92・93、Y82グリッド 主軸方向 不明。 規模 東西(0.94)m、南北(1.31)m、壁現高23.5cm。 面積 (1.07)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-3・H-16と重複し、新旧関係は本遺構→H-3→H-16の順である。 出土遺物 総数135点。 時期 不明。

H-5号住居跡 (Fig.10・31・44、PL.3・4・15・16・25)

位置 X93・94、Y78・79グリッド 主軸方向 N-83°-E 規模 東西(2.32)m、南北5.25m、壁現高45.0cm。 面積 (11.79)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 北壁・西壁・南壁を巡る。 ピット P<sub>7</sub>:長径72cm、短径56cm、深さ26cmの円形。 重複 A-1・B-1と重複し、新旧関係はA-1→本遺構→B-1の順である。 出土遺物 総数1,120点。 そのうち須恵環2点、須恵椀1点、須恵皿1点、土師甕1点、刀子1点を図示。 時期 9世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.10・31・32・44、PL.4・16・25)

位置 X94、Y83・84グリッド 主軸方向 N-82°-E 規模 東西(3.20)m、南北4.68m、壁現高66.5cm。 面積 (13.56)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 北壁・西壁・南壁を巡る。 重複 H-2・H-7・H-15・H-18・D-1・D-2と重複し、新旧関係はH-15→本遺構→H-2→H-7→H-18→D-1→D-2の順である。 出土遺物 総数383点。 そのうち土師甕7点、須恵椀4点、刀子1点を図示。 時期 8世紀初頭～前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.11・32・37・38・39・40・41・44、PL.4・5・16・17・21・22・23・25)

位置 X94、Y84・85グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 東西[2.82]m、南北3.42m、壁現高25.5cm。 面積 [9.07]m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド中心に硬化面が認められる。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-106°-E。全長(108)cm、最大幅110cm、焚口部幅50cm。 周溝 不明。 貯蔵穴 長径128cm、短径80cm、深さ13.5cmの楕円形。 重複 H-6・H-13・H-14・H-15・W-2・D-2・D-3・D-6と重複し、新旧関係はH-15→H-6→H-13→H-14→本遺構→D-2→D-3→D-6→W-2の順である。 出土遺物 総数817点。 そのうち土師甕1点、須恵椀1点、灰釉陶器椀2点、土師甕2点、土師質土器小型甕1点、軒平瓦2点、丸瓦5点、平瓦11点、鉄鍼1点を図示。 時期 9世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.10・32・42、PL.5・17・24)

位置 X95・96、Y86・87グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 東西(2.72)m、南北(3.22)m、壁現高35.5cm。 面積 (6.77)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-92°-E。全長84cm、最大幅78cm、焚口部幅45cm。 周溝 不明。 貯蔵穴 長径74cm、短径61cm、深さ15.5cmの楕円形。 重複 W-2と重複し、新旧関係は本遺構→W-2の順である。 出土遺物 総数183点。 そのうち須恵椀2点、土師甕1点、丸瓦1点、平瓦1点を図示。 時期 9世紀後半～末と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.12・32・33・42、PL.5・17・24)

位置 X93、Y79・80グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 東西(1.14)m、南北(3.85)m、壁現高18.5cm。 面積 (3.85)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 2つカマドで東壁に位置する。 北カマドの主軸方向 N-83°-E。全長42cm、最大幅54cm、焚口部幅24cm。 南カマドの主軸方向 N-96°-E。全長70cm、最大幅64cm、焚口部幅37cm。 周溝 不明。 重複 A-1・W-3・W-4と重複し、新旧関係は本遺構→A-1→W-3→W-4の順である。 出土遺物 総数523点。 そのうち土師甕2点、須恵椀3点、須恵環3点、須恵皿1点、土師甕2点、土師台付甕1点、平瓦1点を図示。 時期 9世紀中～後葉と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.12・33・34・43・44、PL.5・6・17・18・25)

位置 X93・94、Y76・77グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 東西5.44m、南北(5.16)m、壁現高62.5cm。 面積 (24.71)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-89°-

E。全長216cm、最大幅146cm、焚口部幅50cm。周溝 西壁・南壁・東壁を巡る。柱穴 4基検出した。P<sub>1</sub>:長径60cm、短径40cm、深さ58cmの楕円形。P<sub>2</sub>:長径66cm、短径55cm、深さ61.5cmの円形。P<sub>3</sub>:長径58cm、短径54cm、深さ60cmの円形。P<sub>4</sub>:長径59cm、短径48cm、深さ58cmの楕円形。重複 W-5と接するが、新旧関係は不明である。出土遺物 総数1,772点。そのうち土師壺11点、須恵器1点、土師壺2点、軒丸瓦1点、錐1点、分銅1点を図示。時期 8世紀初頭～前葉と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.14・34、PL. 6・18)

位置 X91、Y81・82グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 東西(2.46)m、南北(2.60)m、壁現高49.0cm。面積 (3.73)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 東壁に位置する。主軸方向 N-90°-E。全長 80cm、最大幅85cm、焚口部幅51cm。周溝 不明。重複 W-2と重複し、新旧関係は本道構→W-2の順である。出土遺物 総数239点。そのうち須恵器1点を図示。時期 9世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.14・34、PL. 4)

位置 X93・94、Y84・85グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 東西[2.44]m、南北[3.24]m、壁現高13.0cm。面積 [5.94]m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。床下土坑 長径118cm短径96cm、深さ9.5cmの楕円形。重複 H-7・W-2・A-2・D-3・D-6と重複し、新旧関係はA-2→本道構→H-7→D-3→D-6→W-2の順である。出土遺物 総数1点。須恵器1点を図示。時期 9世紀中葉と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.14・34・44、PL. 6・25)

位置 X94、Y84・85グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 東西(0.92)m、南北(2.90)m、壁現高34.5cm。面積 (2.75)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。重複 H-7・A-2・D-2と重複し、新旧関係はA-2→本道構→H-7→D-2の順である。出土遺物 総数101点。そのうち土師壺2点、須恵器1点、丸柄1点を図示。時期 不明。備考 覆土中の遺物から8世紀前葉と推定される。

H-15号住居跡 (Fig.-、PL. 4)

位置 X94、Y84グリッド 主軸方向 不明。規模 東西(1.00)m、南北(0.34)m、壁現高9.0cm。面積 (0.26)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。重複 H-6・H-7・D-2と重複し、新旧関係は本道構→H-7→H-6→D-2の順である。出土遺物 なし。時期 不明。

H-16号住居跡 (Fig.14・34・43、PL. 6・18・25)

位置 X93・94、Y82グリッド 主軸方向 N-107°-E 規模 東西[3.74]m、南北[2.52]m、壁現高14.0cm。面積 [6.77]m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 東壁に位置する。主軸方向 N-110°-E。全長94cm、最大幅64cm、焚口部幅46cm。周溝 不明。貯蔵穴 長径60cm、短径54cm、深さ14.5cmの円形。重複 H-2・H-3・H-4・H-25・H-26と重複し、新旧関係はH-4→H-25→H-26→本道構→H-2→H-3の順である。出土遺物 総数93点。そのうち須恵器1点、軒丸瓦1点を図示。時期 9世紀前葉～中葉。

H-17号住居跡 (Fig.15・34・43・44、PL. 6・18・24・25)

位置 X93・94、Y80・81グリッド 主軸方向 N-102°-E 規模 東西[3.74]m、南北[5.34]m、壁現高37.5cm。面積 [13.85]m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。ピット P<sub>7</sub>:長径67cm、短径28cm、深さ14cmの円形。重複 H-3・H-19・H-24・H-26・W-3と重複し、新旧関係はH-19→H-24→H-26→本道構→H-3→W-3の順である。出土遺物 総数1,395点。そのうち土師壺1点、灰釉陶器皿1点、平瓦1点、砥石1点を図示。時期 出土遺物は覆土中出土の小破片であるため時期不詳。

H-18号住居跡 (Fig.15・34・42、PL. 4・6・18・24・25)

位置 X93・94、Y83グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 東西2.72m、南北3.24m、壁現高5.5cm。面積

8.50m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-104°-E。全長74cm、最大幅52cm、焚口部幅37cm。 周溝 北壁・西壁・南壁を巡る。 重複 H-2・H-6と重複し、新旧関係はH-6→本遺構→H-2の順である。 出土遺物 総数128点。そのうち土師壺1点、土師台付壺1点、平瓦4点を図示。 時期 9世紀中葉～後葉と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.15・34、PL. 7・18)

位置 X94、Y81・82グリッド 主軸方向 N-83°-E 規模 東西(2.60)m、南北(3.62)m、壁現高25.0cm。 面積 (7.44)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 貯蔵穴 長径(90)cm、短径(38)cm、深さ20cmの円形。 重複 H-3・H-17・H-26・D-12と重複し、新旧関係はH-26→D-12→本遺構→H-3→H-17の順である。 出土遺物 総数688点。そのうち須恵環1点、土師壺1点を図示。 時期 9世紀前葉と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.15・34、PL. 7)

位置 X95、Y76グリッド 主軸方向 不明。 規模 東西(1.50)m、南北(0.68)m、壁現高25.0cm。 面積 (0.93)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-21と重複し、新旧関係は不明瞭である。 出土遺物 総数81点。そのうち土師壺1点を図示。 時期 不明。 備考 覆土中の遺物は8世紀中葉～後葉と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.15・34、PL. 7・18・19)

位置 X95、Y75・76グリッド 主軸方向 N-76°-E 規模 東西(1.32)m、南北(2.36)m、壁現高56.5cm。 面積 (2.75)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-20重複し、新旧関係は不明瞭である。 出土遺物 総数165点。そのうち土師壺1点、須恵蓋1点を図示。 時期 8世紀初頭～前葉と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.16・34、PL. 7・19)

位置 X96・97、Y86グリッド 主軸方向 N-67°-E 規模 東西(2.92)m、南北(1.74)m、壁現高14.5cm。 面積 (3.33)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 なし。 出土遺物 総数69点。そのうち土師壺1点、土師壺1点を図示。 時期 8世紀初頭～前葉と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.16・35、PL. 7・19)

位置 X96・97、Y86・87グリッド 主軸方向 N-82°-E 規模 東西4.24m、南北(3.16)m、壁現高50.5cm。 面積 (2.44)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁に位置する。主軸方向(N-78°-E)。最大幅(36)cm。 周溝 西壁・北壁・東壁を巡る。 柱穴 2基検出した。P<sub>1</sub>:長径41cm、短径39cm、深さ44cmの円形。P<sub>4</sub>:長径50cm、短径44cm、深さ31.5cmの円形。 重複 H-27・D-9と重複し、新旧関係はH-27→D-9→本遺構の順である。 出土遺物 総数1,053点。そのうち土師壺7点、須恵環2点、須恵蓋1点、土師甕2点、須恵転用硯1点を図示。 時期 8世紀初頭～前葉と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.16・35、PL. 7・32)

位置 X94、Y80グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 東西(2.04)m、南北2.62m、壁現高44.5cm。 面積 (4.64)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-17・W-3と重複し、新旧関係は本遺構→H-17→W-3の順である。 出土遺物 総数16点。そのうち土師壺1点、須恵小型鉢1点、須恵大甕1点を図示。 時期 不明。

H-25号住居跡 (Fig.14・35、PL. 7・19)

位置 X93・94、Y82グリッド 主軸方向 N-88°-E 規模 東西3.70m、南北2.10m、壁現高24.0cm。 面積 4.08m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁に位置する。 主軸方向 N-111°-E。全長68cm、最大幅52cm。 周溝 不明。 貯蔵穴 長径87cm、短径74cm、深さ9.5cmの円形。 重複 H-2・H-3・H-16

と重複し、新旧関係は本遺構→H-2→H-3→H-16の順である。 出土遺物 総数20点。そのうち須恵蓋1点を図示。 時期 遺物は覆土中出土の小破片のため時期不詳。

H-26号住居跡 (Fig.17・18、PL. 7)

位置 X94、Y81・82グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 東西 [1.69] m、南北 [3.76] m、壁現高28.5cm。 面積 [6.01]m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-2・H-3・H-16・H-17・H-19・D-12と重複し、新旧関係はD-12→本遺構→H-2→H-3→H-17→H-16→H-19の順である。 出土遺物 総数24点。 時期 不詳。

H-27号住居跡 (Fig.16、PL. 7)

位置 X97・98、Y86・87グリッド 主軸方向 N-88°-E 規模 東西 (0.60) m、南北 (2.96) m、壁現高30.0cm。 面積 (1.04) m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 H-23・D-16と重複し、新旧関係は本遺構→H-23→D-16の順である。 出土遺物 なし。 時期 不詳。

H-28号住居跡 (Fig.19・35、PL. 8・19)

位置 X94・95、Y92・93グリッド 主軸方向 N-72°-E 規模 東西 (3.40) m、南北 (3.80) m、壁現高50.5cm。 面積 (10.75) m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁に位置する。 主軸方向 N-67°-E。全長199cm、最大幅100cm。 周溝 北壁・東壁を巡る。 貯蔵穴 長径60cm、短径45cm、深さ40cmの楕円形。 重複 W-6と重複し、新旧関係は本遺構→W-6の順である。 出土遺物 総数74点。そのうち土師壺3点を図示。 時期 埋土や出土遺物から6世紀後半～7世紀初頭と考えられる。

H-29号住居跡 (Fig.17・18・35・44、PL. 8・19・25)

位置 X94・95、Y94・95グリッド 主軸方向 N-109°-W 規模 東西4.28m、南北5.10m、壁現高52.5cm。 面積 19.61m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 西壁に位置する。 主軸方向 N-105°-W。全長134cm、最大幅146cm。 周溝 西壁から北壁を巡り、東壁・南壁では一部のみ検出された。 貯蔵穴 長径64cm、短径60cm、深さ40.5cmの円形。 重複 W-1・W-7と重複し、新旧関係はW-7→本遺構→W-1の順である。 出土遺物 総数266点。そのうち土師壺3点、白玉1点を図示。 時期 7世紀前葉と考えられる。

H-31号住居跡 (Fig.17・18・36、PL. 8・20)

位置 X94、Y91・92グリッド 主軸方向 N-86°-E 規模 東西 (2.14) m、南北 (4.58) m、壁現高70.5cm。 面積 (7.95) m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 中心に硬化面が認められる。 カマド 東壁に位置する。 主軸方向 N-89°-E。全長130cm、最大幅142.5cm、焚口部幅30cm。 周溝 北壁から東壁、南壁を巡る。 柱穴 2基検出した。 P<sub>3</sub>：長径48cm、短径40cm、深さ59.5cmの円形。 P<sub>4</sub>：長径46cm、短径42cm、深さ36cmの円形。 貯蔵穴 長径84cm、短径74cm、深さ82cmの長方形。 ピット P<sub>7</sub>：長径30cm、短径18cm、深さ19.5cmの円形。 重複 なし。 出土遺物 総数344点。そのうち土師壺5点、土師甕2点を図示。 時期 7世紀前葉と考えられる。

H-32号住居跡 (Fig.20・36・43、PL. 8・20・24・25)

位置 X93・94、Y88・89グリッド 主軸方向 N-100°-E 規模 東西 [2.62] m、南北 [4.76] m、壁現高56.0cm。 面積 [6.15] m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 黏土質土中の床面が硬化面化している。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-94°-E。全長106cm、最大幅112cm、焚口部幅52cm。 周溝 不明。 貯蔵穴 長径68cm、短径52cm、深さ31.5cmの楕円形。 重複 H-33・D-15と重複し、新旧関係はD-15→本遺構→H-33の順である。 出土遺物 総数310点。そのうち土師壺1点、須恵壺1点、土師甕2点、平瓦1点を図示。 時期 9世紀中葉～後葉と考えられる。

H-33号住居跡 (Fig.20・36、PL. 9・20)

位置 X94、Y88グリッド 主軸方向 N-99°-E 規模 東西3.10m、南北3.78m、壁現高62.5cm。 面積 (7.

27) m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 不明。 周溝 南壁・西壁を巡る。 貯藏穴 長径90cm、短径78cm、深さ13cmの円形。 重複 H-32と重複し、新旧関係はH-32→本遺構の順である。 出土遺物 総数173点。そのうち須恵坏2点、須恵椀4点、灰釉陶器椀1点、土師甕1点を図示。 時期 9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。

H-34号住居跡 (Fig.21・37、PL. 9・20・21)

位置 X94・95、Y89・90グリッド 主軸方向 N-68-E 規模 東西(2.94)m、南北2.97m、壁現高42.0cm。 面積 (7.46)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。 カマド 不明。 周溝 不明。 重複 W-9と重複し、新旧関係はW-9→本遺構の順である。 出土遺物 総数171点。そのうち土師坏5点、土師小型甕1点、須恵小型鉢1点を図示。 時期 7世紀後半～8世紀初頭と考えられる。

### (2) 掘立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.21・37、PL. 9・21)

位置 X93、Y78・79グリッド 主軸方向 N-13'-E 規模 東西(2.13)m、南北3.35m。 面積 不明。 柱穴 4基検出した。 $P_1$ :長径88cm、短径77cm、深さ44.5cmの円形。 $P_2$ :長径85cm、短径74cm、深さ36cmの円形。 $P_3$ :長径(86)cm、短径(52)cm、深さ37cmの(円形)。 $P_4$ :長径97cm、短径76cm、深さ41.5cmの梢円形。柱間寸法は東西： $P_1-P_4$ で1.70m、南北： $P_1-P_3$ で1.10m、 $P_2-P_3$ で1.75mである。 出土遺物 総数 48点。そのうち須恵坏1点を図示。

### (3) 溝跡・硬化面

W-1号溝跡 (Fig.21、PL. 9)

位置 X94・95、Y94・95グリッド 主軸方向 N-55'-W 長さ 7.30m 最大幅 上幅0.66m、下幅0.34m 深さ 43.0cm 形状等 U字形 重複 H-29-W-6と重複し、新旧関係はH-29→W-6→本遺構の順である。 出土遺物 総数47点。 時期 埋土から中世と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.22・37、PL. 9・21)

位置 X90・96、Y81・82・84～87グリッド 主軸方向 N-140'-E 長さ (31.70)m 最大幅 上幅(2.50)m、下幅(1.30)m 深さ 170.0cm 形状等 逆台形 重複 H-7・H-8・H-12・H-13・A-2と重複し、新旧関係はH-7→H-8→H-12→H-13→A-2→本遺構の順である。 出土遺物 総数196点。そのうち須恵椀2点を図示。 時期 埋土から中世と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.21、PL. 9)

位置 X93・94、Y80グリッド 主軸方向 N-87'-E 長さ 5.20m 最大幅 上幅0.58m、下幅0.20m 深さ 41.0cm 形状等 U字形 重複 H-10・H-17・H-24と重複し、新旧関係はH-10→H-17→H-24→本遺構の順である。 出土遺物 総数126点。 時期 埋土から中世と考えられる。

W-4号溝跡 (Fig.21、PL. 9)

位置 X93・94、Y79グリッド 主軸方向 N-95'-E 長さ 5.44m 最大幅 上幅0.49m、下幅0.22m 深さ 11.0cm 形状等 U字形 重複 A-1・D-5と重複し、新旧関係はA-1→D-5→本遺構の順である。 出土遺物 総数440点。 時期 埋土から中世～近世と考えられる。

W-5号溝跡 (Fig.23・37・44、PL.10・21・25)

位置 X93・94、Y77グリッド 主軸方向 N-89'-W 長さ 5.18m 最大幅 上幅1.86m、下幅1.46m 深さ 40.5cm 形状等 逆台形 重複 H-11と重複し、新旧関係は不明瞭である。 出土遺物 総数295点。そのうち須恵鉢1点、砾石1点を図示。 時期 埋土から古代と考えられる。

**W-6号溝跡 (Fig.23・37、PL.10・21)**

位置 X94・95、Y93・94グリッド 主軸方向 N-84°-E 長さ 5.30m 最大幅 上幅1.92m、下幅0.82m  
深さ 67.5cm 形状等 逆台形 重複 H-28と重複し、新旧関係はH-28→本遺構の順である。 出土遺物 総数303点。覆土上面から縁柱陶器椀の小破片2点が出土。図上復元不可。 時期 埋土から古代と考えられる。

**W-7号溝跡 (Fig.23、PL.10)**

位置 X94・95、Y95グリッド 主軸方向 N-91°-E 長さ 4.15m 最大幅 上幅1.28m、下幅0.47m 深さ 63.0cm 形状等 U字形 重複 H-29と重複し、新旧関係は本遺構→H-29の順である。 出土遺物 総数88点。 時期 重複関係から古墳時代以前と考えられる。

**W-8号溝跡 (Fig.23、PL.10)**

位置 X94・95、Y90・91グリッド 主軸方向 N-40°-E 長さ 6.26m 最大幅 上幅0.80m、下幅0.58m  
深さ 19.5cm 形状等 逆台形 重複 W-9→W-10と重複し、新旧関係はW-9→W-10→本遺構の順である。 出土遺物 総数7点。 時期 埋土から古代と考えられる。

**W-9号溝跡 (Fig.24、PL.10)**

位置 X94・95、Y88~90グリッド 主軸方向 北側 N-141°-W、南側 N-135°-E 長さ 8.60m 最大幅 上幅0.65m、下幅0.45m 深さ 17.0cm 形状等 U字形 重複 H-34→W-9と重複し、新旧関係は本遺構→H-34→W-9の順である。 出土遺物 総数14点。 時期 埋土から古代と考えられる。

**W-10号溝跡 (Fig.23、PL.10)**

位置 X94、Y90・91グリッド 主軸方向 北側 N-179°-E、南側 N-208°-E 長さ 3.90m 最大幅  
上幅0.54m、下幅0.30m 深さ 15.0cm 形状等 逆台形 重複 W-8→D-14と重複し、新旧関係は本遺構  
→W-8→D-14の順である。 出土遺物 なし。 時期 埋土から古代と考えられる。

**A-1号硬化面 (Fig.24、PL.-)**

位置 X93・94、Y79グリッド 主軸方向 N-91°-E 長さ 5.55m 最大幅 3.10m 出土遺物 総数37点。  
**A-2号硬化面 (Fig.24、PL.21)**

位置 X94、Y85グリッド 主軸方向 N-81°-E 長さ 3.08m 最大幅 1.95m 出土遺物 総数148点。そのうち須恵短頬壺1点を図示。 備考 道路状遺構。

**(4) 土坑・ピット**

土坑についてはTab.8 2トレント土坑・ピット計測表(p.20)を参照のこと。

D-1・2・3号土坑は、覆土中にロームブロックを多く含んでおり、他の古代の遺構覆土と様相が異なる。  
As-Bを含まないため、中世以前と考えられるが、他の奈良・平安時代の遺構より新しい時期と考えられる。

D-6号土坑からは瓦が出土しているが、H-7号住居を掘り込んで構築されているため、その部分にあったH-7号住居内の瓦が混入したものと考えられる。

**(5) グリッド等出土遺物**

総数4,607点を検出した。そのうち繩文土器深鉢1点、鉢1点、巡方1点、臼玉2点を図示。

### 3 3 トレンチの遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.26・44、PL.12・26)

位置 X106、Y127・128グリッド 主軸方向 N-61°-E 規模 東西(1.84)m、南北(3.94)m、壁現高84.0cm。面積 (3.34)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 東壁に位置する。主軸方向 N-73°-E。全長112cm、最大幅60cm。周溝 南東角の一部を除き、東壁・南壁を巡る。貯蔵穴 長径56cm、短径44cm、深さ70cmの長方形。ピット P<sub>7</sub>:長径28cm、短径22cm、深さ14cmの円形。重複 なし。出土遺物 総数56点。そのうち土師壺2点、須恵蓋1点、土師甕2点を図示。時期 7世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.27・44、PL.12・26)

位置 X105・106、Y109・110グリッド 主軸方向 N-75°-E 規模 東西(2.64)m、南北(3.32)m、壁現高(21.5)cm。面積 (7.05)m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 東壁に位置する。主軸方向 N-72°-E。全長112cm、最大幅118cm。周溝 北壁・東壁を巡る。貯蔵穴 長径67cm、短径(43)cm、深さ27cmの長方形。重複 なし。出土遺物 総数98点。そのうち土師壺1点、須恵壺1点、須恵蓋1点、土師甕1点、土師台付甕1点を図示。時期 9世紀後葉と考えられる。

#### (2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.27、PL.12)

位置 X106~108、Y122・123グリッド 主軸方向 N-119°-E 長さ 6.58m 最大幅 上幅0.90m、下幅0.50m 深さ 19.0cm 形状等 U字形 重複 なし。出土遺物 総数3点。時期 埋土から中世以降と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.27、PL.12)

位置 X106~108、Y128・129グリッド 主軸方向 N-83°-W 長さ 7.60m 最大幅 上幅(2.18)m、下幅(1.48)m 深さ 53.0cm 形状等 U字形 重複 なし。出土遺物 総数249点。時期 埋土から中世以降と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.27、PL.12)

位置 X106~108、Y124・125グリッド 主軸方向 N-118°-E 長さ 8.72m 最大幅 上幅0.78m、下幅0.44m 深さ 25.0cm 形状等 U字形 重複 なし。出土遺物 なし。時期 埋土から古代と考えられる。

#### (3) 土 坑

D-1号土坑 (Fig.27、PL.12)

位置 X107、Y121・122グリッド 規模 長径112.0cm、短径(92.0)cm、深さ14.5cm。形状等 楕円形 重複 なし。出土遺物 なし。時期 埋土から中世以降と考えられる。備考 As-Bを多く含んでいる。

#### (4) グリッド等出土遺物

総数222点を検出した。そのうち土師壺1点、須恵壺1点、須恵釜1点、土師手捏1点、釘2点、鉄錆1点を図示。

#### 4 4 トレンチの遺構と遺物

##### (1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.28・45、PL.14・26)

位置 X152・153、Y140・141グリッド 主軸方向 N-89°-E 規模 東西3.06m、南北4.06m、壁現高34.0cm。面積 11.53m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-100°-E。全長78cm、最大幅(86)cm、煙道部幅(22)cm、煙道部幅(30)cm、燃焼部幅(42)cm、焚口部幅(56)cm。周溝 西壁・北壁・東壁を巡る。ピット P: 長径57cm、短径(49)cm、深さ53cmの円形。重複なし。出土遺物 総数111点。そのうち須恵坏3点、灰釉陶器碗2点、釘2点を図示。時期 11世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.28・45、PL.14・26)

位置 X153、Y140・141グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 東西2.40m、南北4.42m、壁現高36.5cm。面積 9.37m<sup>2</sup> 床面 全体的に平坦な床面。カマド 不明。周溝 不明。重複なし。出土遺物 総数77点。そのうち須恵坏1点を図示。時期 10世紀中葉と考えられる。

##### (2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.28・45、PL.13・14・26)

位置 X149・150、Y140・141グリッド 主軸方向 N-190°-E 長さ 5.92m 最大幅 上幅4.15m、下幅0.94m 深さ 136.0cm 形状等 逆台形 重複 W-2と重複し、新旧関係はW-2→本遺構の順である。出土遺物 総数227点。そのうち土師坏2点、須恵碗2点、灰釉陶器皿1点を図示。時期 埋土から古墳～奈良・平安時代と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.28、PL.13・14)

位置 X149・150、Y140・141グリッド 主軸方向 N-194°-E 長さ 5.18m 最大幅 上幅1.36m、下幅0.64m 深さ 124.0cm 形状等 U字形 重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1の順である。時期 埋土から古墳～奈良・平安時代と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.29、PL.13・14)

位置 X144～148、Y140～142グリッド 主軸方向 N-141°-E 長さ (16.00)m 最大幅 上幅13.00m、下幅3.80m 深さ 450.0cm 形状等 逆台形 重複なし。出土遺物 総数64点。時期 埋土から中世と考えられる。備考 蒼海城に関わる堀跡と想定できる。

##### (3) グリッド等出土遺物

総数142点を検出した。

Tab.2 元總社蒼海遺跡群（1）1トレンチ 穫穴住居跡・掘立柱建物跡計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	規模 (m)		埋現高 (cm)	面積 (m <sup>2</sup> )	カマド位置	主な出土遺物		
			東西	南北				土器類	須恵器	その他
H-1	X71・72、Y97・98	不明	0.94	2.00	11.50	1.01	—	环	楕・壺	
B-1	X69、Y92~94	N-6°~E	不明	5.80	—	—	—			

Tab.3 元總社蒼海遺跡群（1）1トレンチ 溝跡・硬化面計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
				上幅	下幅		
W-1	X69~71、Y95	N-87°~E	9.00	1.21	0.66	32.0	U字形
W-2	X69~71、Y92・93	N-110°~E	10.40	1.12	0.34	45.0	U字形
A-1	X69~72、Y96・97	N-88°~E	9.84	5.80	—	—	皿状
A-2	X69~71、Y91・96	N-162°~E	22.40	4.80	—	—	皿状

Tab.4 元總社蒼海遺跡群（1）1トレンチ 土坑計測表

遺構名	位置 グリッド	規格 (cm)			形状	遺物数	出土遺物
		長軸	短軸	深さ			
D-1	X71、Y94	(76.0)	(30.0)	(52.0)	(円形)	—	
D-3	X70、Y92	106.0	90.0	32.5	円形	—	
D-4	X70、Y93・94	112.0	92.0	45.0	梢円形	—	
D-5	X70、Y93	66.0	46.0	33.5	円形	—	

Tab.5 元總社蒼海遺跡群（1）2トレンチ 穫穴住居跡・掘立柱建物跡計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	規模 (m)		埋現高 (cm)	面積 (m <sup>2</sup> )	カマド位置	周囲	主な出土遺物		
			東西	南北					土器類	須恵器	その他
H-2	X93・94、Y83・84	N-93°~E	[3.98]	4.30	29.0	[15.67]	東壁南寄り	—	环・甕	环・甕	
H-3	X93・94、Y81・82	N-180°~E	4.18	4.85	43.5	19.15	東壁南寄り	有	甕	环・甕	瓦・刀子・鉄錐
H-4	X92・93、Y82	不明	(0.94)	(1.31)	23.5	(1.07)	—	—	—	—	
H-5	X93・94、Y78・79	N-83°~E	(2.32)	5.25	45.0	(11.79)	—	有	甕	环・甕・皿	刀子
H-6	X94、Y83・84	N-82°~E	(3.20)	4.68	66.5	(13.56)	—	有	环	椭	刀子
H-7	X94、Y84・85	N-92°~E	[2.82]	3.42	25.5	[9.07]	東壁南寄り	—	环・甕	椭	灰釉輪・瓦・鉄錐
H-8	X95・96、Y86・87	N-92°~E	(2.72)	(3.22)	35.5	(6.77)	東壁南寄り	—	甕	椭	瓦
H-10	X93、Y79・80	N-91°~E	(1.14)	(3.85)	18.5	(3.85)	2つカマド	—	环・甕	环・甕・皿	瓦
H-11	X93・94、Y76~77	N-87°~E	5.44	(5.16)	62.5	(24.71)	東壁南寄り	有	环・甕	椭	瓦・甕・分別
H-12	X91、Y81・82	N-90°~E	(2.46)	(2.60)	49.0	(3.73)	東壁	—	环	—	
H-13	X93・94、Y84・85	N-88°~E	[2.44]	[3.24]	13.0	[5.94]	—	—	椭	—	
H-14	X94、Y84・85	N-90°~E	(0.92)	(2.90)	34.5	(2.75)	—	—	环	椭	丸納
H-15	X94、Y84	不明	(1.00)	(0.34)	9.0	(0.26)	—	—	—	—	
H-16	X93・94、Y82	N-107°~E	[3.74]	[2.52]	14.0	[6.77]	東壁	—	环	—	瓦
H-17	X93・94、Y80・81	N-102°~E	[3.74]	[3.34]	37.5	[13.85]	—	—	环	—	灰釉輪・瓦・瓦石
H-18	X93・94、Y83	N-98°~E	2.72	3.24	5.5	8.50	東壁南寄り	有	甕	—	瓦
H-19	X94、Y81・82	N-83°~E	(2.60)	(3.62)	25.0	(7.44)	—	—	甕	环	
H-20	X95、Y76	不明	(1.50)	(0.68)	25.0	(0.93)	—	—	环	—	
H-21	X95、Y75~76	N-80°~E	(1.32)	(2.36)	56.5	(2.75)	—	—	椭	—	
H-22	X96・97、Y86	N-67°~E	(2.92)	(1.74)	14.5	(3.33)	—	—	环・甕	—	
H-23	X96・97、Y86・87	N-82°~E	4.24	(3.16)	50.5	(2.44)	東壁	有	环・甕	环・甕・軋用器	
H-24	X94、Y80	N-85°~E	(2.04)	2.62	44.5	(4.64)	—	—	环	小型鉢・大甕	
H-25	X93・94、Y82	N-88°~E	3.70	2.10	24.0	(4.08)	東壁	—	—	蓋	
H-26	X94、Y81・82	N-84°~E	[1.69]	[3.76]	28.5	[6.01]	—	—	—	—	
H-27	X97・98、Y86・87	N-88°~E	(0.60)	(2.96)	30.0	(1.04)	—	—	—	—	
H-28	X94・95、Y90・93	N-65°~E	(3.40)	(3.80)	50.5	(10.75)	東壁	有	甕	—	
H-29	X94・95、Y94・95	N-111°~W	4.28	5.10	52.5	(19.61)	西壁	有	环	—	白玉
H-31	X94、Y91・92	N-78°~E	(2.14)	(4.58)	70.5	(7.95)	東壁	有	环・甕	—	
H-32	X93・94、Y88・89	N-100°~E	[2.62]	[4.76]	56.0	[6.15]	東壁南寄り	—	环・甕	环	瓦
H-33	X94、Y88	N-99°~E	3.10	3.78	62.5	(2.77)	東壁南寄り	有	甕	环・甕	灰釉輪
H-34	X94・95、Y89・90	N-68°~E	(2.94)	2.97	42.0	(7.46)	—	—	环・小型鉢	小型鉢	
B-1	X93、Y78・79	N-13°~E	(2.13)	3.35	—	—	—	—	—	环	

Tab. 6 元總社蒼海遺跡群（1）2トレーン住居カマド計測表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	縦道部幅(cm)	横道部幅(cm)	焚き口部幅(cm)	縦道部立上り角(°)	構築材
H-2	N-128°-E	74	69			16		粘土
H-3	N-97°-E	123	56			22		粘土
H-7	N-106°-E	(108)	110	(40)	52	23	50	37 瓦・粘土・凝灰質砂岩
H-8	N-92°-E	84	78				45	粘土
H-10 北	N-83°-E	42	54				24	粘土
H-10 南	N-96°-E	70	64				37	粘土・凝灰質砂岩
H-11	N-89°-E	216	146	92	28	62	50	40 凝灰質砂岩・粘土・石
H-12	N-90°-E	80	85				51	粘土
H-16	N-110°-E	94	64				46	粘土
H-18	N-104°-E	74	52				37	粘土・瓦
H-23	(N-78°-E)	—	(36)				—	粘土
H-25	N-111°-E	68	52				—	粘土
H-28	N-67°-E	199	109				—	粘土・土師器裏
H-29	N-105°-W	134	146				—	粘土
H-31	N-89°-E	130	142.5	48	44	44	30	55 凝灰質砂岩・粘土
H-32	N-94°-E	106	112	—	—	59	52	27 凝灰質砂岩・粘土・瓦
H-33	—	—	—				—	粘土

Tab. 7 元總社蒼海遺跡群（1）2トレーン 溝跡・硬化面計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	長さ (m)	最大幅(m)		深さ (cm)	断面形
				上幅	下幅		
W-1	X94・95, Y94・95	N-55-W	7.30	0.66	0.34	43.0	U字形
W-2	X90・96, Y81・82・84～87	N-140°-E	(31.70)	(2.50)	(1.30)	179.0	逆台形
W-3	X93・94, Y89	N-87°-E	5.20	0.58	0.29	41.0	U字形
W-4	X93・94, Y79	N-95°-E	5.44	0.49	0.22	11.0	U字形
W-5	X93・94, Y77	N-89°-W	5.18	1.86	1.46	40.5	逆台形
W-6	X94・95, Y93・94	N-84°-E	5.30	1.92	0.82	67.5	逆台形
W-7	X94・95, Y95	N-91°-E	4.15	1.28	0.47	63.0	U字形
W-8	X94・95, Y99・91	N-40-E	6.26	0.80	0.58	19.5	逆台形
W-9	X94・95, Y88～90	北側 N-141°-W 南側 N-135°-E	8.60	0.65	0.45	17.0	U字形
W-10	X94, Y90・91	北側 N-119°-E 南側 N-208°-E	3.90	0.54	0.30	15.0	逆台形
A-1	X93・94, Y79	N-91°-E	5.55	3.10			皿状
A-2	X94, Y85	N-81-E	3.08	1.95			皿状

Tab. 8 元總社蒼海遺跡群（1）2トレーン 土坑・ピット計測表

遺構名	位置 グリッド	規格(cm)			形状	遺物数量	出土遺物
		長軸	短軸	深さ			
D-1	X94, Y84	(179.0)	90.0	(43.5)	(梢円形)	12	
D-2	X94, Y84	(180.0)	110.0	(24.5)	(異方形)	12	
D-3	X94, Y84	[236.0]	(130.0)	(46.5)	(梢円形)	67	
D-5	X94, Y79	(192.0)	(63.0)	(40.0)	(梢円形)	3	
D-6	X94, Y85	112.0	86.0	26.0	梢円形	4	須恵碗・瓦
D-7	X94, Y81	66.0	(26.0)	(16.0)	(円形)	2	
D-9	X96, Y87	126.0	(82.0)	30.5	(梢円形)	18	
D-10	X93, Y84	65.0	(40.0)	(8.0)	(円形)		
D-11	X93, Y83・84	68.0	(52.0)	(10.5)	(梢円形)		
D-12	X94, Y82	97.0	62.0	(23.5)	(梢円形)		
D-13	X93, Y84	(76.0)	54.0	21.5	(梢円形)	6	
D-14	X94, Y90	139.0	118.0	36.0	(円形)	1	
D-15	X94, Y89	82.0	(70.0)	48.0	(円形)	19	
P-1	X93, Y77	38.0	(26.0)	34.5	(円形)		
P-2	X93, Y77	60.0	(42.0)	48.0	(円形)		
P-3	X93, Y77・78	68.0	40.0	43.0	不定形		
P-4	X93, Y77・78	46.0	46.0	30.5	(円形)		
P-5	X93, Y78	36.0	32.0	10.0	(円形)		
P-6	X93, Y78	56.0	50.0	27.5	(円形)		

P-7	X93, Y78	50.0	46.0	50.5	円形		
P-8	X93, Y78	40.0	35.0	33.5	円形		
P-9	X93, Y79	56.0	50.0	24.0	円形	4	
P-10	X93, Y79	46.0	40.0	16.5	円形		
P-11	X93, Y79	36.0	32.0	33.0	円形		
P-12	X93, Y79	76.0	68.0	44.5	円形	5	
P-13	X93, Y79	40.0	40.0	19.0	円形		
P-14	X93, Y80	62.0	(41.0)	36.5	(円形)	1	
P-15	X93, Y80・81	52.0	44.0	37.0	円形	1	
P-16	X93, Y81	56.0	38.0	33.0	梢円形		
P-17	X94, Y82	70.0	(40.0)	28.0	(円形)		
P-18	X94, Y83	45.0	36.0	18.0	円形		

Tab.9 元總社蒼海遺跡群（1）3トレンチ 穫穴住居跡計測表

遺構名	位 置 グリッド	主軸方向	規模 (m)		現高 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	カマド位置	周溝	主な出土遺物		
			東西	南北					土器	須恵器	その他
H-1	X106, Y127・128	N-61°-E	(1.84)	(3.94)	84.0	(3.34)	東壁	有	坏・壁	蓋	
H-2	X105-106, Y109-110	N-75°-E	(2.64)	(3.32)	(21.5)	(7.05)	東壁	有	坏・壁	坏・蓋	

Tab.10 元總社蒼海遺跡群（1）3トレンチ 住居カマド計測表

遺構名	主軸方向	全長 (cm)	最大幅 (cm)	埋道部幅 (cm)		燃焼部幅 (cm)	焚き口部幅 (cm)	埋道部立上り角 (°)	構築材		
				埋道部	燃焼部				粘土	粘土・凝灰質砂岩	
H-1	N-73°-E	112	60								
H-2	N-72°-E	112	118								

Tab.11 元總社蒼海遺跡群（1）3トレンチ 溝跡計測表

遺構名	位 置 グリッド	主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
				上幅	下幅		
W-1	X106-108, Y122・123	N-119°-E	6.58	0.90	0.50	19.0	U字形
W-2	X106-108, Y128・129	N-83°-W	7.60	(2.18)	(1.48)	53.0	U字形
W-3	X106-108, Y124・125	N-118°-E	8.72	0.78	0.44	25.0	U字形

Tab.12 元總社蒼海遺跡群（1）3トレンチ 土坑計測表

遺構名	位 置 グリッド	主軸方向	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状		遺物数量	出土遺物
						上幅	下幅		
D-1	X107, Y121・122		112.0	(92.0)	14.5	梢円形			

Tab.13 元總社蒼海遺跡群（1）4トレンチ 穫穴住居跡計測表

遺構名	位 置 グリッド	主軸方向	規模 (m)		現高 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	カマド位置	周溝	主な出土遺物		
			東西	南北					土器	須恵器	その他
H-1	X152・153, Y140・141	N-89°-E	3.06	(4.06)	34.0	(11.53)	東埋南寄り	有	坏	灰釉陶・釦	
H-2	X153, Y140・141	N-98°-E	(2.40)	(4.42)	36.5	(9.37)	—	—	坏		

Tab.14 元總社蒼海遺跡群（1）4トレンチ 住居カマド計測表

遺構名	主軸方向	全長 (cm)	最大幅 (cm)	埋道部幅 (cm)		燃焼部幅 (cm)	焚き口部幅 (cm)	埋道部立上り角 (°)	構築材		
				埋道部	燃焼部				粘土	粘土・凝灰質砂岩	
H-1	N-190°-E	78	(86)	(22)	(30)	(42)	(56)	—			

Tab.15 元總社蒼海遺跡群（1）4トレンチ 溝跡計測表

遺構名	位 置 グリッド	主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
				上幅	下幅		
W-1	X149・150, Y140・141	N-190°-E	5.92	4.15	0.94	136.0	逆台形
W-2	X149・150, Y140・141	N-194°-E	5.18	1.36	0.64	124.0	逆台形
W-3	X144-148, Y140-142	N-147°-E	(16.00)	(13.00)	3.89	450.0	逆台形

Tab.16 元總社蒼海遺跡群（1）1トレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構 ノイ位	①口径・縦高	②施土生成 ③色調・4存否		器種の特徴・整形・調整技術	備 考
				④縦幅	⑤横幅		
1	土器器 环	H-1 床	①(2.8 ②4.2 ③37.5)×R3/3	④口縁一 次大	内面：口縁ナメ。体部ナメ。 外縁：口縁ナメナメ。	口縁：矧くやや内傾する。 外縁：口縁ナメナメ。 体部：ナメナメ。	H-1-2
2	須恵器 环	H-1 床	①(17.6 ②4.3 ③39.0)×R7/1 ④1/2	⑤縦幅 僅かに縦幅を含む。 ⑥良好。肩光小。 ⑦内縁：口縁ナメナメ。 外縁：口縁ナメナメ。 内面：内縁ナメナメ。	口縁：やや外反し直線的に立ち上がる。 外縁：口縁ナメナメ。 内面：内縁ナメナメ。	口縁：やや外反し直線的に立ち上がる。 外縁：口縁ナメナメ。 内面：内縁ナメナメ。	H-1-1
3	須恵器 直	W-1 腰土	①(10.2 ②)(1.9 ③2.5)×R3/3 ④破片 ⑤口縁	①や砂を含む縦幅。 ②良好。 ③内縁：口縁ナメナメ。 外縁：口縁ナメナメ。 内面：内縁ナメナメ。	口縁部：ゆるやかに彎曲する。 内面：内縁ナメナメ。	口縁部：ゆるやかに彎曲する。 内面：内縁ナメナメ。	H-1-覆土一括

Tab.17 元総社蒼海遺跡群（1）1トレレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	①長さ／幅	②土工焼成 ③色調／斑度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	軒瓦	A-1 底面	①(9.5) ②(6.5)	①繊維。白色粒子多く含む。 ②良好。薄元気。③10VR6/2	瓦表面：清水式。一枚作り。	A-1-61
2	軒丸瓦	A-1 底面	①(1.5) ②(6.0)	①繊維。②良好。薄元気。 ③SY7/7 (4)瓦当部の約1/8	瓦当面：文様不明。一本作り。	A-1-13
3	平瓦	A-1 底面	①(13.5) ②(15.2)	①繊維。白色粒子少々含む。 ②良好。薄元気。 ③N6/9 ④瓦当部	繊維引き。白色粒子少々含む。 瓦表面：彌留寄りに書き文字。判読不能。	A-1-110
4	軒丸瓦	A-2 底面	①(1.6) ②(8.4)	①繊維。白色粒子多く含む。 ②良好。薄元気。 ③N6/9 ④瓦当部	瓦表面：五葉か。一本作り。	A-2-100
5	平瓦	X-65, Y-91 IIIa層	①(7.6) ②(5.0)	①繊維。白色粒子少量含む。 ②良好。薄元気。 ③10V6/1 ④瓦当部破片	円筒側縁寄りに斜印。金型「方」か。	金型
6	軒丸瓦	表土	①(1.5) ②(8.2)	①繊維。白色粒子少々含む。 ②良好。薄元気。 ③10V6/1 ④瓦当部	瓦表面：文様不明。	表土
7	軒丸瓦	表土	①(1.4) ②(9.0)	①繊維。白色粒子少々含む。 ②良好。薄元気。 ③10V6/2 ④瓦当部	瓦表面：文様不明。凸面：屋根瓦削り。	表土

Tab.18 元総社蒼海遺跡群（1）1トレレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	釦	A-1 覆土	6.5	0.5	0.4	14.6	鉄	不明	A-1-X-70, Y-95

Tab.19 元総社蒼海遺跡群（1）2トレレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	①X10.5高 ③底面	①土工焼成 ③色調／斑度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	土加彩 匣土	H-2 覆土	①(13.0) ②(3.0)	①繊維。わざかに砂を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY6/5 (4)口縁部破片	口縁：矧く直立形。外曲：口縁横ナメ。底部削り。内：口縁ナメ。	H-2-183
2	須恵器 环	H-2 覆土	①(13.0) ②(3.0)	①繊維。僅かに縫を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY6/5 (4)口縁部破片	口縁：外反気味でやや立ち上がる。外曲：内面：ロクロ形。底部：回転底あり後周縁ナメ。	H-2-128
3	須恵器 环	H-2 覆土	③(6.4)	①少々砂を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY6/6 (4)5.5化粧	口縁：外反気味でやや立ち上がる。外曲：内面：ロクロ形。底部：回転底あり後周縁ナメ。	H-2-197
4	須恵器 碗	H-2 カマド地	①(15.7) ②(6.1)	①繊維。②良好。薄元気。 ③10VR6/2 (4)2.5	底面：外反気味に立ち上がる。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、外輪底の丸高台を作付け。	H-2-カマド碗
5	須恵器 碗	H-2 覆土	①(18.0) ②(6.1)	①繊維。②良好。薄元気。 ③SY6/6 (4)2.5	口縁：外反気味。底部：底部を切り後、内輪底。内：口縁底削り。	H-2-25
6	土加彩 匣土	H-2 覆土	①(11.0) ②(9.0)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY6/2 (4)口縁部破片	口縁：引脚したコ字状。外曲：口縁横ナメ。口縁下横位置削り。脚部：斜面削り。内：横ナメ。	H-2-覆土-括
7	須恵器 环	H-3 覆土	①(13.6) ②(4.1)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。	口縁：外輪して開く。外曲：内面：ロクロ形。口縁ロクナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-3-75
8	須恵器 环	H-3 覆土	③(5.1)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY6/3 (4)2.5	口縁：外輪して開く。内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-3-68
9	須恵器 碗	H-3 カマド地	①(15.2) ②(5.3)	①繊維。少々砂を含む。やや良 好。薄元気。	体部：内輪底でやや子字間に開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-3-272
10	須恵器 碗	H-3 覆土	①(14.4) ②(5.2)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。	体部：内輪底でやや子字間に開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-3-69
11	須恵器 环	H-3 覆土	①(17.4) ②(4.3)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。 ③SY5/3 (4)2.5	体部：口縁：高輪形にハの字状に開く。外曲：内面：ロクロ形。	H-3-147
12	土加彩 匣土	H-3 カマド地	①(18.4) ②(9.1)	①繊維。砂を含む。 ②やや良好。薄元気。	口縁部：埋れたコ字状。外曲：口縁横ナメ。口縁下側位置削り。内：横ナメ。	H-3-94
13	須恵器 环	H-5 床	①(13.8) ②(6.6)	①繊維。砂を含む。 ②やや良好。薄元気。	体部：口縁：やや内輪して開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-5-219
14	須恵器 环	H-5 床	①(11.8) ②(2.9)	①繊維。②良好。薄元気。 ③SY5/2 (4)2.5	体部：口縁：直線的に開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-5-81
15	須恵器 碗	H-5 床	①(15.4) ②(6.2)	①繊維。僅かに砂を含む。 ②良好。薄元気。	体部：口縁：内輪して開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：回転底。回転底：内輪底。内輪底：内側削り。外輪底：内側削り。内：横ナメ。	H-5-217
16	須恵器 碗	H-5 床	①(11.2) ②(2.4)	①繊維。②良好。薄元气。 ③SY5/2 (4)2.5	体部：口縁：やや内輪して開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：内輪底。内輪底：内側削り。外輪底：内側削り。内：横ナメ。	H-5-113
17	土加彩 匣土	H-5 床	①(16.6) ②(6.0)	①繊維。砂を含む。 ②良好。薄元気。	口縁部：ややコ字状を呈す。外曲：口縁横ナメ。口縁下側位置削り。脚部：斜面削り。	H-5-275
18	土加彩 匣土	H-6 床	①(11.9) ②(3.3)	①繊維。少々砂を含む。 ②良好。薄元気。	外曲：内輪底でやや子字間に開く。外曲：内面：ロクロ形。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-94
19	土加彩 环	H-6 床	①(11.2) ②(3.5)	①砂母合ひ砂を少々含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-81
20	土加彩 环	H-6 床	①(14.4) ②(4.8)	①砂粒を多めに含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-90
21	土加彩 环	H-6 床	①(12.2) ②(3.5)	①砂粒を多めに含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-113
22	土加彩 匣土	H-6 床	①(12.2) ②(3.8)	①砂粒を少々含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-98
23	土加彩 环	H-6 床	①(16.8) ②(4.3)	①砂粒を少々含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-129
24	土加彩 环	H-6 床	①(9.2) ②(3.4)	①砂粒を少々含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-103
25	須恵器 环	H-6 床	①(13.6) ②(5.4)	①繊維をか。砂を含む。 ②良好。薄元気。	体部：丸底。口縁：矧く直線的に立ち上がる。外曲：口縁横ナメ。底部：底部を切り後、内輪底。	H-6-1

26	須磨面 楕	H- 6 覆土 ①[12.8] ②[5.0] ③[7.2]	①細粒。②良好。酸化鉄。 ③[7.3] ④[5.3]	体部～口縁部：やや内凹味であるが直線的に立ち上る。外 面・内面：クロロ形態ナメ。内部：酸化鉄。底部低い△角形状の 高台を付けた後、指切り跡による△ナメ。	H- 6- 53
27	須磨面 楕	H- 6 覆土 ①[14.4] ②[5.9] ③ 7.6	①砂粒を少量含む。②やや良い。 漏元鉄。③[5YR6/1 ④良好。	体部やや内凹する。口縁：ゆるやかに外反する。外面・ 内面：クロロ形態ナメ。底部：指切り跡の後、低い△台形状 の高台を付けた後、指切り跡による△ナメ。	H- 6- 2
28	須磨面 楕	H- 6 覆土 ①[15.0] ②[5.7] ③ 7.2	①砂粒を多く含む。②良好。 漏元鉄。③[5YR6/1 ④良好。	体部：やや内凹する。口縁：ゆるやかに外反する。外面・ 内面：クロロ形態ナメ。底部：指切り跡の後、低い△台形状 の高台を付けた後、指切り跡による△ナメ。	H- 6- 15
29	土御面 环	H- 7 覆土 ①[12.7] ②[3.6]	①砂粒を少量含む。②良好。 漏元鉄。③[5YR6/4 ④良好。	体部：平ら気味。外側：白縫隙ナメの後、体部削り。内 面：横ナメ。	H- 7- 27
30	須磨面 楕	H- 7 覆土 ①[15.7] ②[5.5] ③ [7.4]	①砂粒を含む。②やや良好。 漏元鉄。③[5YR7/2 ④良好。	体部～口縁：直線的に立ち上る。外側：内面：クロロ形 態ナメ。底部：回転系切りの後、低い△台形状の高台を付けた 後、指切り跡による△ナメ。	H- 7- 73
31	灰焼向陽 楕	H- 7 覆土 ①— ②[2.9] ③[9.0]	①細粒。②良好。③[5Y7/1 ④HS部のI/1 ⑤]	体部：やや内凹するか。外側・内面：クロロ成形ナメ。底 部：口縁部に凹凸を付す高台を付けた後、クロロにより整 理する。内面：横ナメ。	H- 7- 168
32	灰焼向陽 楕	H- 7 覆土 ①[16.4] ②[5.8] ③ [8.0]	①細粒。②良好。③[5.2Y7/2 ④1/4]	体部：やや内凹して立ち上る。口縁部：規則反して開く。 外側・内面：クロロ成形ナメ。底部：低い△角形状の高台 を付した後、クロロにより整型。施業済み。	H- 7- 142
33	土御面 楕	H- 7 床 ①[18.8] ②[19.0]	①細粒。②やや砂を含む。 良好。漏元鉄。③[5YR6/4 ④上半部I/3]	口縁部：解消半部削りの方向削り。内面：口縁～上半部削 り。底部：回転系切りの後、口縁部削り。	H- 7- 122
34	土御面 楕	H- 7 カマド ①[19.2] ②[4.7]	①細粒。②良好。③[5Y7/1 ④HS部のI/1 ⑤]	口縁部：口の字を見る。剛部：球根気味。外側・口縁部削 り。脚部下端部削り。脚上部削りと向対削り。脚上 部削り半部削り。内面：口縫隙ナメ。脚上半部削り付。 脚下半部削り付。	H- 7- カマド
35	土御面付土 小型壁	H- 7 覆土 ①[11.8] ②[13.0]	①細粒。②やや砂を含む。 良好。酸化鉄。③[5.2Y6/4 ④0.3/4]	脚部に因る大穴があり、口縁は短く屈曲して開く。外側・ 内面：クロロ成形ナメ。底部：回転系切り後、外側削り。	H- 7- 32
36	須磨面 楕	H- 8 床 ①[3.8] ②[6.0]	①細粒。②わずかに砂を含む。 良好。漏元鉄。③[5.3Y7/1 ④HS部]	底部：回転系切り後、三面～台形状の高台を付す。	H- 8- 覆土一括
37	須磨面 楕か 楕	H- 8 覆土 ①[11.2] ②[不明]	①少しあ砂を含む。②やや不良。 漏元鉄。③[5YR6/4 ④HS部]	体部：やや内凹。口縁部：外反気味に開く。外側・内面： クロロ成形ナメ。	H- 8- 22
38	土御面 床	H- 8 ①[18.4] ②[不明]	①少しあ砂を含む。②良好。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④口縁～脚上 部削り]	口縁部：乱れた口の字を見る。外側：口縫隙ナメ。脚上 部削り半部削り。内面：口縫隙ナメ。脚上半部削り位 付。脚下半部削り付。	H- 8- 13
39	土御面 环	H- 10 床 ①[12.0] ②[3.3]	①砂粒を含む。②やや良好。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④良好。	体部～口縁部：平行傾斜の底部から直線的に立ち上る。外 面・内面：口縫隙ナメの後、口縁下端部に脚ナメ。内面： 脚上部削り。	H- 10- 36
40	土御面 床	H- 10 覆土 ①[11.6] ②[3.3]	①砂粒を含む。②やや良好。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④良好。	体部～口縁部：平行傾斜の底部からやや内凹して立ち上 る。外側：底部削りの後、口縫隙ナメ。指切りの庄屋が 残る。内面：ナメ。	H- 10- 25
41	須磨面 楕	H- 10 覆土 ①[21.8] ②[OK.1] ③[11.5]	①細粒。②少しあ砂を含む。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④HS部]	体部～口縁部：体部やや内凹して立ち上る。口縁外反削 り。経部：脚部斜め削りの後、高台を付すが、高台削り。 内面：口縫隙ナメ。	H- 10- 7
42	須磨面 环	H- 10 覆土 ①[12.0] ②[3.6] ③ 5.3	①細粒。②わずかに砂粒を含む。 良好。漏元鉄。③[5.2Y7/2 ④ほぼ形	体部～口縁部：やや内凹して立ち上る。外側：外反削 り。内面：クロロ成形ナメ。底部：回転系切り。	H- 10- 55
43	須磨面 环	H- 10 覆土 ①[13.0] ②[4.4] ③ 6.0	①やや少しあ砂を含む。②良好。 漏元鉄。③[5YR6/4 ④ほぼ形	体部～口縁部：直線的に口の字に開いて立ち上るが。外 面・内面：クロロ成形ナメ。底部：回転系切り。	H- 10- 52
44	須磨面 环	H- 10 覆土 ①[13.6] ②[3.4] ③ 7.6	①細粒。②わずかに砂粒を含む。 良好。漏元鉄。③[5.1YR8/1 ④ほぼ形]	体部～口縁部：内凹気味のハの字に開いて立ち上るが。 外側・内面：クロロ成形ナメ。底部：回転系切り。	H- 10- 53
45	須磨面 楕	H- 10 床 ①[14.6] ②[25.5] ③ [8.0]	①細粒。②良好。漏元鉄。 ③[10Y7/1 ④OK.5]	体部～口縁部：やや内凹して立ち上る。外側：外反削 り。内面：クロロ成形ナメ。底部：回転系切り。	H- 10- 80
46	須磨面 楕	H- 10 床 ①[3.9] ②[2.4] ③ 6.6	①細粒。②わずかに砂を含む。 良好。酸化鉄。③[10Y7/3 ④HS部]	体部：やや内凹して立ち上るが。外側・内面：クロロ形 態ナメ。底部：回転系切り。低い△角形状の高台を付 す。底部の内外面：クロロ形。	H- 10- 64
47	須磨面 楕	H- 10 床 ①[13.4] ②[2.9] ③ 7.0	①細粒。黑色粒子多く含む。 良好。漏元鉄。③[5.2Y7/2 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：脚部斜め削り。内面：脚部斜め削 り。底部：丸削り。	H- 10- 34
48	土御面 カマド内	H- 10 カマド内 ①[19.8] ②[21.0] ③ 5.3	①少しあ砂を含む。②良好。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④△ナメ]	口縁部：口の字を見る。外側：口縫隙ナメ。脚上部削 り。脚下半部削り位付。内面：口縁～脚上半部削りナ メ。底部：脚下部斜め削りナメ。	H- 10- カマド覆土 カマド内
49	土御面 床	H- 10 覆土 ①[13.8] ②[9.8]	①少しあ砂を含む。②良好。 漏元鉄。③[5.3YR5/4 ④△ナメ]	口縁部：口の字を見る。外側：口縫隙ナメ。脚上部削 り。脚下半部削り位付。内面：口縫隙ナメ。脚上半部削 り。底部：脚下部斜め削りナメ。	H- 10- 32
50	土御面 台付壁	H- 10 覆土 ①[12.2] ②[24.8] ③ 8.8	①やや少しあ砂を含む。 白色粒子。質母を含む。②良好。 漏元鉄。③[5.3YR5/6 ④△ナメ]	口縁部：口の字を見る。丸からやや内凹して立ち上 るが。口縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙 ナメ。内面：横ナメ。	H- 10- 71
51	土御面 环	H- 11 床 ①[11.8] ②[23.4]	①やや少しあ砂を含む。白色粒子。質母を 含む。②良好。漏元鉄。③[5.3YR6/6 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 240
52	土御面 环	H- 11 床 ①[13.4] ②[4.7]	①細粒。少しあ砂を含む。 漏元鉄。③[5YR6/6 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 116
53	土御面 环	H- 11 床 ①[19.0] ②[6.5]	①細粒。少しあ砂を含む。②良好。 漏元鉄。③[5YR6/6 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 131
54	土御面 环	H- 11 床 ①[15.7] ②[24.2]	①細粒。少しあ砂を含む。 漏元鉄。③[5.3YR6/6 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 121
55	土御面 环	H- 11 床 ①[17.6] ②[4.3]	①細粒。少しあ砂を含む。 漏元鉄。③[5.3YR6/6 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 122
56	土御面 环	H- 11 カマド ①[11.1] ②[3.6]	①やや少しあ砂を含む。②良好。白色 母を含む。③良好。漏元鉄。④△ナメ	体部～口縁部：丸からやや内凹して立ち上るが。口 縁は丸削り。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。 内面：横ナメ。	H- 11- 239
57	土御面 环	H- 11 カマド内 ①[12.2] ②[3.6]	①少しあ砂を含む。②やや良好。 漏元鉄。③[5.3YR6/4 ④△ナメ]	体部～口縁部：丸の底部から直線でやや内凹して立ち 上るが。外側：体部削り位付の後、口縫隙ナメ。	H- 11- カマド左袖 カマド内

58	土加留 坪	H-11 復土	①[10.6] ②[3.4]	①砂をやや多く含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[2/3]	体部～口面：丸からくるやかに彫曲して立ち上がり、口綫は直角的に内側する。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。内面部：横ナデ。	H-11-130
59	土加留 坪	H-11 復土	①[10.6] ②[3.1]	①砂をやや多く含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[2/3]	体部～口面：丸からくるやかに彫曲して立ち上がり、口綫は直角的に内側する。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。	H-11-156
60	土加留 坪	H-11 復土	①[13.7] ②[3.6]	①細粒。少量の砂を含む。 ②良好。 ③SYR6.6 ④[2/5]	体部～口面部：丸からくるやかに彫曲して立ち上がり、口綫は直角的に内側する。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。	H-11-258
61	土加留 坪	H-11 復土	①[18.0] ②[4.5]	①細粒。少量の砂を含む。 ②良好。 ③SYR6.6 ④[2/5]	体部～口面部：丸からくるやかに彫曲して立ち上がり、口綫は直角的に内側する。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。	H-11-285
62	須走面 真	H-11 P <sup>2</sup> 復土	①[12.4] ②[2.1]	①細粒。少量の砂を含む。 ②良好。還元剤。③N6/6 ④[1/5]	人井部～口綫部：水平な井井部からの砂をやかに彫曲し、口綫はわざずに外反して開く。内側に短いひきえり付く。外面部：回頭削り、口綫ヨコ堅削ナデ。内面部：クロ堅削。	H-11-P2
63	土加留 坪	H-11 カマド	①[22.5] ②[3.25]	①少量の砂を含む。②やや良好。 ③SYR6.6 ④[2/4]11粒。	口綫部：口尻に反して開く。脚部：丁字がゆるやかに彫れる。 外面部：制限位位置の巻削り後、口綫横ナデ。内面部：口綫横ナデ。脚下平ナデ。	H-11-237
64	土加留 坪	H-11 カマド	①不明 ②[17.5]	①わざに砂を多く含む。 ②良好。還元剤。 ③SYR6.6 ④[2/4]半部の砂。	口面部：上顎が彫れる。やや豊潤度高い。外面部：制限位位置の巻削り後、口綫横ナデ。内面部：同工具による削りのナデ。	H-11-246
65	須走面 真	H-12 床	①[12.4] ②[3.8]	①細粒。②良好。還元剤。 ③SYR6.6 ④[2/4]半部の砂。	体部～口面部：収斂的につの字形に開き、口綫がすかに外反する。外面部：内面堅削立入り。口綫はわざずに外反し、口綫部に巻削りの痕跡の削りびきナデ。	H-12-14
66	須走面 真	H-13 床	①[14.8] ②[3.1]	①細粒。②良好。還元剤。 ③SYR6.6 ④[2/4]	体部～口面部：内面堅削立入り。口綫はわざずに外反し、口綫部に巻削りの痕跡の削りびきナデ。	H-13-1
67	土加留 坪	H-14 復土	①[12.0] ②[3.5]	①わざに砂を多く含む。 ②良好。還元剤。	口面部：内面堅削立入り。口綫はわざずに外反し、口綫部に巻削りの痕跡の削りびきナデ。外面部：同工具による削りのナデ。	H-14-1
68	土加留 坪	H-14 復土	①[12.0] ②[2.3]	①わざに砂を多く含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[2/4]口綫部破。	口面部：内面堅削立入り。口綫はわざずに外反し、口綫部に巻削りの痕跡の削りびきナデ。	H-14-6
69	須走面 真	H-14 復土	①[11.8] ②[4.2]	①少量の砂を含む。②やや良好。 ③SYR6.6 ④[2/2]3/7	体部～口面部：内面堅削に立ち上り。口綫はわざずに外反し、開く。外面部：ロコロ成形ナデ。	H-14-復土一括
70	須走面 真	H-16 復土	①[12.6] ②[4.0] ③ 6.5	①わざに砂を多く含む。②やや不良。 還元剤。③SYG7/1 ④[2/3]	体部～口面部：内面堅削に立ち上り。口綫の一部が口片状に張り出る。外面部：ロコロ成形後、ナビによりロコロ削り。口綫はわざずに外反し、内面部：ナビ。底部：回頭削り後、外面部：ナデ。	H-16-13
71	土加留 坪	H-17 復土	①[13.0] ②[3.8]	①わざに砂を多く含む。②良好。 ③SYR6.4 ④[2/3]	口面部：内面堅削立入り。口綫はわざずに外反する。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：低V形形状のV字付し後、ロコロ堅削ナデ。	H-17-5
72	秋桜陶器 真	H-17 復土	①[13.8] ②[3.5] ③ [2.1]	①細粒。②良好。	口面部：丸からくるやかに彫曲し、口綫はわざずに外反する。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：低V形形状のV字付し後、ロコロ堅削ナデ。	H-17-144
73	土加留 坪	H-18 カマド復土	①[22.0] ②[5.0]	①わざに砂を多く含む。②良好。 ③SYR5.2 ④[2/2]3/2	口面部：内面堅削立入り。脚部：脚下平位位置の巻削り。脚上部横位削り。	H-18-4
74	土加留 坪	H-19 カマド復土	①[3.6]	①不明 ②[5.0]	外面部：脚下平位位置・脚部の巻削り。脚上部横位削り。	H-18-62
75	須走面 真	H-19 復土	①[12.6] ②[4.2] ③ [5.4]	①少量の砂を含む。②良好。還元剤。 ③SYR6.6 ④[2/1]	体部～口面部：体部わざに内側へ。口綫はわざずに外反し、口綫部に巻削りの痕跡の削りびきナデ。	H-19-119
76	土加留 坪	H-19 復土	①[21.0] ②[5.0]	①砂粒をやや多く含む。 ②良好。	口面部：砂やごく少しがあるやかに彫曲し、口綫はわざずに外反する。外面部：ロコロ横削り。脚下平位位置の巻削り。	H-19-128
77	土加留 坪	H-20 復土	①[12.0] ②[5.8]	①わざに砂を多く含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[2/4]口綫部破。	外面部：ロコロ横削り。脚下平位位置の巻削り。	H-20-2
78	土加留 坪	H-21 床	①[11.2] ②[3.6]	①やや多く砂粒。黒色あるいは少 量の砂を含む。②良好。	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。内面部：横ナデ。	H-21-19
79	須走面 真	H-21 床	①[25.0] ②[3.1] ③ [18.3]	①少量の砂を含む。 ②良好。還元剤。③SYV7/1 ④完熟。	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：L字高V形削り後、ロコロ堅削ナデ。	H-21-18
80	土加留 坪	H-22 床	①[16.0] ②[4.2]	①少量の砂を含む。②良好。 ③SYR5.2 ④[2/4]	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：L字高V形削り後、ロコロ堅削ナデ。	H-22-1
81	土加留 坪	H-22 床	①[24.0] ②[7.0]	①少量の砂を含む。②良好。 ③SYR7/6 ④[2/4]口綫部破。	口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：L字高V形削り後、ロコロ堅削ナデ。	H-22-5
82	土加留 坪	H-23 床	①[12.2] ②[3.6]	①少量の砂を含む。②やや良好。 ③SYR5.2 ④[2/3]4/3	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：L字高V形削り後、ロコロ堅削ナデ。	H-23-235
83	土加留 坪	H-23 復土	①[13.6] ②[4.0]	①少量の砂を含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[2/2]	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲し、口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。底部：L字高V形削り後、ロコロ堅削ナデ。	H-23-338
84	土加留 坪	H-23 復土	①[13.2] ②[3.2]	①少量の砂を含む。②良好。	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ堅削立入り。	H-23-359
85	土加留 坪	H-23 復土	①[14.4] ②[3.7]	①少量の砂を含む。②やや良好。 ③SYR6.4 ④[2/4]	体部～口面部：丸みさみの底部からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫部はとぼとぼ横削りのナデ。内面部：横ナデ。	H-23-121
86	土加留 坪	H-23 復土	①[12.6] ②[4.6]	①わざに砂を含む。②良好。	体部～口面部：丸みの底版からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫はわざに内側へ。外面部：体部削りの後、口綫横ナデ。	H-23-209
87	土加留 坪	H-23 復土	①[16.4] ②[3.5]	①少量の砂を含む。②良好。	体部～口面部：丸みの底版からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫はわざに内側へ。外面部：内面：横ナデ。	H-23-279
88	土加留 坪	H-23 復土	①[15.6] ②[3.4]	①少量の砂を含む。②良好。 ③SYR5.4 ④[1/5]	体部～口面部：丸みの底版からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。	H-23-137
89	須走面 真	H-23 復土	①[12.6] ②[3.3] ③ [5.6]	①わざに砂を含む。②良好。 ③SYR5.1 ④[1/3]	体部～口面部：丸みの底版からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。	H-23-343
90	須走面 真	H-23 復土	①[12.6] ②[3.3] ③ [5.6]	①やや多く砂粒を含む。②良好。 ③SYR6.6 ④[1/3]	体部～口面部：丸みの底版からゆるやかに彫曲して立ち上り。内面部：ロコロ手すり内側削り。口綫はわざに内側へ。外面部：内面：ロコロ堅削ナデ。	H-23-379

91	須磨面 裏	H-23 覆土	①[15.4] ②(3.1)	①少量の砂を含む。②やや良好。 蘿元気。③N7/0 ④1/3	天井部～口縁部：木平な大井戸からゆるやかに齊曲し、口縫はわざに開く。内面に丸みがあり付く。外周：斜傾板部の混迷の混迷ア。内面：ロクロ整形ナ。	H-23-382
92	土加面 裏	H-23 覆土	①[22.0] ②(6.0)	①少量の砂を含む。②良好。 35YR6/6 ④口縁部約1/3	口縫部：斜面から直曲し直線的に外反して聞く。胴部：斜傾形か。外面：口縫部横ア。胴上部斜位割削ア。内面：口縫部横ア。	H-23-290
93	土加面 裏	H-23 覆土	①[18.0] ②(7.0)	①砂粒を多く含む。②良好。 30YR5/4 ④口縁部約1/4	口縫部：斜面から直曲し直線的に外反して聞く。胴部：斜傾形か。外面：口縫部横ア。胴上部斜位割削ア。内面：口縫部横ア。	H-23-125
94	須磨面 裏	H-23 覆土	①不明 ②不明 ③[14.6]	①細粒。②良好。蘿元気。 30YV6/1 ④口縁部約1/4	底盤：削出し直曲形状をす。底盤外側：回転割削りと考 えられるが、使用方法のため、誤認している。	H-23-332
95	土加面 環	H-24 床	①[12.0] ②(3.3)	①わずかに砂を含む。②良好。 35YR5/4 ④口縫部破ア	天井部～口縫部：底盤を直曲して立ち上がり。口縫部：口縫部切ら直曲的VU形が付く。外周：斜傾板部の混 迷ア。内面：口縫部横ア。内面：横ア。	H-24-10
96	須磨面 小切跡 裏	H-24 床	①[14.0] ②(5.5)	①細粒。②良好。蘿元気。 35YR6/6 ④口縫部破ア	底盤：斜面から直曲し、短い外反する。胴部：斜傾形か。 外面：口縫部横ア。胴上部斜位割削ア。	H-24-1
97	須磨面 裏	H-24 覆土	①[24.0] ②不明	①砂を多く含む。②良好。子貝色少 量。③[14.6]	砂粒を多く含む。口縫部：底盤を直曲して立ち上 がる。内面：口縫部横ア。	H-24-5
98	須磨面 裏	H-25 床、△不規 則	①[9.0] ②不明 △[2.5] ③[4.4]	①細粒。②良好。蘿元気。 30YR6/1 ④口縫部破ア	底盤：削出し直曲形状をす。天井部：ほぼ水平か。やや大き いボタン状のつまみが付く。外周：口縫部横ア。	H-25-1
99	土加面 裏	H-26 床	①不明 ②不明 ③[4.0]	①少量の砂を含む。②良好。 37.5YR6/4 ④口縫部約1/5	底盤：斜面を直曲する。外面：胴斜位部の混削ア。内面： 口縫部横ア。	H-28-5
100	土加面 裏	H-28 床、△不規 則	①[18.4] ②[27.7] ③ 6.6	①砂粒を多く含む。②良好。 30YR6/6 ④1/3	底盤：斜面から直曲して立上る。内面：口縫部横ア。	H-28-8
101	土加面 裏	H-28 覆土	①不明 ②[17.8] ③[4.3]	①砂を多く含む。②良好。 30YR3/2 ④口縫部破ア 2/3	底盤：斜面を直曲する。外面：胴斜位部の混削ア。内面： 口縫部横ア。	H-28-3
102	土加面 環	H-29 床	①[14.0] ②4.3	①わずかに白色粒子を含む。 ②良好。③[5.0] ④1/3	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲して、口縫により 作成した複数に口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤へ接して聞く。外周：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-29-71
103	土加面 環	H-29 H.覆土	①[12.6] ②(3.1)	①細粒。②良好。蘿元気。 35YR5/4 ④口縫部破ア	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲する。弱い傾縫 で口縫で画される。丸みを弱めに保つ。内面：口縫部横ア。	H-29-34
104	土加面 環	H-29 覆土	①[12.4] ②(4.0)	①細粒。②良好。蘿元気。 37.5YR6/6 ④口縫部破ア	底盤～口縫部：丸みがゆるやかに齊曲する。弱い傾縫で口 縫で画される。丸みは外周強化で聞く。外面：体部混削ア。	H-29-57
105	土加面 環	H-31 床	①[2.6] ②4.9	①細粒。②良好。蘿元気。 30YR3/2 ④完形	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲して、丸みのあ る傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-77
106	土加面 環	H-31 床	①[2.4] ②4.7	①少量の砂を含む。②良好。 35YR6/6 ④3/5	底盤～口縫部：深い丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-49
107	土加面 环	H-31 覆土	①[3.7] ②5.4	①細粒。②良好。蘿元気。 37.5YR6/6 ④1/3	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-72
108	土加面 环	H-31 覆土	①[7.9] ②7.6	①細粒。②良好。蘿元気。 37.5YR6/4 ④1/2	底盤～口縫部：深い丸みからゆるやかに齊曲し、弱い傾縫 により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-80
109	土加面 环	H-31 覆土	①[6.0] ②8.6	①わずかに砂を含む。②やや良 好。③[4.0] ④完形	底盤～口縫部：深い丸みからゆるやかに齊曲し、弱い傾縫 により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-50
110	土加面 裏	H-31 床	①[20.5] ②(5.9)	①わずかに砂を含む。②やや良 好。③[5.0] ④1/5	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-70
111	土加面 裏	H-31 床	②[22.0] ②(18.0)	①砂を多く含む。②やや良 好。③[4.0] ④1/4	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-31-57
112	土加面 环	H-32 覆土	①[12.0] ②3.4	①少量の砂を含む。②やや良 好。37.5YR6/6 ④3/3	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-32-88
113	須磨面 环	H-32 覆土	①[12.8] ②4.7	①わずかに砂を含む。②やや良 好。蘿元気。32.5YR6/3 ④1/3	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-32-82
114	土加面 裏	H-32 床	①[19.0] ②(6.5)	①少量の砂を含む。②やや良 好。③[4.0] ④完形	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-32-87
115	土加面 裏	H-32 覆土	①[28.0] ②(8.5)	①砂を多く含む。②やや良 好。③[4.0] ④1/2	底盤～口縫部：丸みからゆるやかに齊曲し、丸みの ある傾縫により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、 底盤により口縫で画される。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-32-5
116	須磨面 环	H-33 床	①[11.7] ②4.1 ③ 6.9	①少量の砂を含む。②やや良 好。蘿元気。30YV6/1 ④1/3	底盤～口縫部：底盤から直曲して内縫は複数のV字が立ち上 がる。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-30
117	須磨面 环	H-33 床	①[14.6] ②4.6 ③ [6.9]	①わずかに砂を含む。②やや良 好。蘿元気。32.5YR6/4 ④1/4	底盤～口縫部：底盤を直曲して丸みがある。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-46
118	須磨面 环	H-33 床	①[4.0] ②6.7 ③ 3.7	①黒色。白色粒子を多く含む。 ②やや良好。蘿元気。 ③[2.5] ④完形	底盤～口縫部：底盤を直曲して丸みがある。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-28
119	須磨面 环	H-33 床	①[14.8] ②6.0 ③ 7.0	①細粒。②良好。蘿元気。 30YR7/3 ④1/3	底盤～口縫部：底盤を直曲して丸みがある。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-33
120	須磨面 环	H-33 床	①[15.0] ②4.8 ③ [7.1]	①細粒。②やや良好。蘿元気。 37.5YR7/1 ④1/2	底盤～口縫部：底盤を直曲して丸みがある。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-31
121	灰輪面 環	H-33 H.覆土	①[11.8] ②3.4 ③ 6.8	①細粒。②良好。蘿元気。 30YR7/1 ④1/2	底盤～口縫部：底盤を直曲して丸みがある。口縫は弱い段位を有し、外 反する。外面：体部混削ア。内面：口縫部横ア。	H-33-29

122	須志窓 鏡	H-33 復土 裏土	①[13.8] ②[3.4] ③ 6.0	①わずかに砂を含む。②やや良好。底面丸弧。③N6/0 4/0 1/4	体部～口縁：内側気味の体部から口縁までに外反して開く。外側：内面にクロコ状模様ナメ。底部：回転赤手切り版。 底部：頸れたきの字状を呈す。外側：口頭部横位の対十字。頭部下横位割り。内面：口頭部横ナメ。頭上部横位	H-33-55
123	土師窓 鏡	H-33 復土 裏土	①[25.0] ②(6.0)	①少量の砂を含む。②良好。③5YR6/4 4/0 元形	口頭部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。 内面：横ナメ。	H-33-52
124	土師窓 鏡	H-34 復土 裏土	①[10.8] ②[3.2]	①砂粒を多く含む。②やや良好。③5YR6/4 4/0 元形	体部～口縁部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-57
125	土師窓 鏡	H-34 復土 裏土	①[10.8] ②[3.5]	①わずかに砂を含む。②良好。③5YR6/4 4/0 3/4	体部～口縁部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-17
126	土師窓 鏡	H-34 復土 裏土	①[11.4] ②[3.3]	①わずかに質面に石斑を含む。②やや良好。③5YR6/6 4/0 2/3	体部～口縁部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-59
127	土師窓 鏡	H-34 復土 裏土	①[10.8] ②[3.4]	①わずかに砂を含む。②やや良好。③5YR6/6 4/0 3/3	体部～口縁部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-51
128	土師窓 鏡	H-34 復土 裏土	①[10.6] ②(3.0)	①少量の砂を含む。②良好。③5YR6/6 4/0 1/2	体部～口縁部：丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-52
129	土師窓 小形鏡	H-34 床	①[15.0] ②[12.7]	①多量の砂を含む。②やや不良。③5.5YR6/4 4/0 3/4	丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-49
130	須志窓 小形鏡	H-34 復土 裏土	①[10.6] ②[6.8] ③ 5.0	①砂粒を多く含む。②やや良好。③5YR6/4 4/0 1/2	丸からなるやや内側曲し。口縁は対内側曲す。外側：体部腹面割りの横、口縫模様の横ナメ。	H-34-14
131	須志窓 鏡 P1	B-1 P1 复土	①[12.0] ②[3.1] ③ 8.3	①少量の砂を含む。②良好。③5YR6/6 4/0 3/1 ④ほぼ良形	平の底面からなる円錐的。体部下位の凹溝により、底面は内側曲す。外側：口縫模様の横ナメ。	B-1-P1
132	須志窓 鏡	W-2 復土	①不明 ②(2.7) ③ 6.5	①細粒～微粉。②良好。微粉形。③5.5YR6/3 4/0 3/0 の部	体部：やや内側曲す。外側：内面のクロコ状模様ナメ。底部：回転赤手切り版。	W-2-5
133	須志窓 鏡	W-2 復土	①不明 ②(2.13)	①やや細粒。②やや不良。③5.5YR6/3 4/0 3/0	外側：内面：クロコ状模様ナメ。底部：回転赤手切り版の後、底部は内側曲す。	W-2-4
134	須志窓 鏡	W-2 復土	①不明 ②(5.0) ③ [5.0] 2/1	①クロコ状模様を含む。②良好。③5YR6/1 4/0 3/0 内面：口縫模様の横ナメ。	底面低く扁平。肩部が張り、頸部はごく僅く直立する。外側：内面と外側ともクロコ状模様ナメ。	W-5-46
135	須志窓 鏡 横 楕円	W-2 復土	①不明 ②不明	①細粒。②良好。③5YR6/1 4/0 3/0	斜面は極めて硬質。肩部が張り、頸部はごく僅く直立する。外側：内面と外側ともクロコ状模様ナメ。	W-6-11, 14
136	須志窓 鏡	A-2 復土	①[11.6] ②[6.6] ③ [11.0]	①細粒。②良好。③5.5YR6/1 4/0 3/0	底面低く扁平。肩部が張り、頸部はごく僅く直立する。外側：内面と外側ともクロコ状模様ナメ。	A-2-復土-1括
137	須志窓 鏡	D-6 底面	①[15.9] ②[5.5] ③ 8.8	①少量の砂を含む。②良好。③5YR6/1 4/0 3/0	底面低く扁平。肩部が張り、頸部はごく僅く直立する。外側：内面と外側ともクロコ状模様ナメ。	D-6-4
138	圓文土器 深鉢	X-94-Y-90 IV層	①不明 ②不明 ③不明	①細かな砂粒を含む。②やや良好。③5YR6/4 4/0 線彫 破片	細かな砂粒を含む。②やや良好。③5YR6/4 4/0 線彫 破片	X-94, Y-90, IV

Tab.20 元続社蒼海跡遺群（1）2トレンチ 出土瓦観察表

番号	部種名	出土位置	工具	特徴	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	平瓦	H-5	①[29.5] ②[14.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5YR6/3 4/0 3/0	「山」削り型に難書き文字。「十」数字か記号。継版削り。内面：山削り。外側：内面に難書き文字。	H-3-91
2	軒瓦H-7 カマド	①[30.0] ②[16.0] ③ 6.5	①細粒。②小砂子を含む。③5YR6/3 4/0 3/0	丸表面：難書き文字。内面：山削り。外側：継版削り。内面：山削り。外側：内面に難書き文字。	H-7-129	
3	丸瓦H-7 カマド	①[38.0] ②[20.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5.5YR6/3 4/0 3/0	丸表面：難書き文字。内面：山削り。外側：継版削り。内面：山削り。外側：内面に難書き文字。	H-7-139	
4	平瓦H-7 カマド	①[30.0] ②[28.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③10YR6/2 4/0 3/0	一枚作り。背足70%。凸面：広輪郭寄りに「t」字状の窪み。内面：山削り。外側：内面に難書き文字。	H-7-138	
5	軒瓦平 瓦H-7 カマド	①[21.0] ②[28.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子多く含む。③5.5YR6/3 4/0 3/0	一枚作り。狭輪郭寄りが厚くなり、軒平丸の可能性がある。内面：山削りで難書き文字。判断不能。継版削り後ナメ。外側：山削り。	H-7-134	
6	平瓦H-7 カマド	①[27.0] ②[28.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子多く含む。③5YR6/3 4/0 3/0	一枚作り。凸面：側縫目間に「t」字の窪み。内面：山削り。外側：内面に難書き文字。	H-7-135	
7	平瓦H-7 カマド	①[26.0] ②[27.0] ③ 6.0	①細粒。②良好。③5.5YR6/3 4/0 3/0	一枚作り。凸面：斜格子叩き目を擦り消す。内面：布目。内面：山削り。	H-7-124	
8	丸瓦H-7 附六上面	①[43.0] ②[20.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5.5YR6/2 4/0 3/0	行基丸式。凸面：丁寧なカムナ。内面：布目。	H-7-119	
9	平瓦H-7 附六上面	①[37.0] ②[20.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5YR6/2 4/0 3/0	植作丸式。背足70%。凸面：平行縫目叩き目を丁寧に擦り消す。内面：粘土板赤手切り版。	H-7-103	
10	丸瓦H-7 附六上面	①[45.0] ②[15.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5.5YR6/2 4/0 3/0	行基丸式。植作丸式。凸面：縫目叩き目を丁寧に擦り消す。内面：布目。	H-7-129	
11	平瓦H-7 附六上面	①[30.0] ②[14.0] ③ 6.0	①細粒。②白色粒子少々含む。③5.5YR6/2 4/0 3/0	凸面：平行縫目叩き目。单位幅6.8cm。内面：布目。一部削り直す。	H-7-115	
12	丸瓦H-7 附六上面	①[36.0] ②[11.0] ③ 6.0	①細粒。②良好。③5.5YR6/2 4/0 3/0	植作丸式。凸面：継版削り。内面：布合せ目既あり。	H-7-121	
13	平瓦H-7 附六上面	①[22.5] ②[14.0] ③ 6.0	①細粒。②良好。③5.5YR6/2 4/0 3/0	凸面：平行縫目叩き目。内面：布目。	H-7-104	
14	平瓦H-7 附六上面	①[22.0] ②[27.0] ③ 6.0	①細粒。②良好。③5.5YR6/2 4/0 3/0	一枚作り。凸面：側縫寄りに刻印。金型「當」、「井」字状の難書き。継版削り。内面：布目。内面：部縫切削所。	H-7-114	
15	平瓦H-7 附六上面	①[21.0] ②[29.5] ③ 6.0	①細粒。②良好。③5.5YR6/2 4/0 3/0	一枚作り。提書き文字か。判断不能。継版削り。内面：布目。	H-7-113	

16	丸瓦	H-7 W-6上覆土	①⑩.0 ②⑪(16.0) ③⑫(2.4)1/3	①細粒。②良好。酸化鉄。 ③2.5Y6/2(4)4/3	凸面：提携の後、ナデ。凹面：刻線あり。側か。布目。	H-7-117
17	平瓦	H-7 覆土	①⑫.7 ②⑬(13.0)	①細粒。わざかに白色粒子含む。 ②良好。酸化鉄含む。 ③2.5Y6/2(4)4/3	凸面：狭面割れに「勢」の刻印。収位置削り。凹面：布目。粘土板系切り継ぎ。	H-7-37
18	平瓦	H-7 床	①⑭(16.0) ②⑯(17.5)	①良好。表面に白色粒子含む。 ②良好。表面に白色粒子含む。 ③2.5Y6/2(4)4/3	凸面：斜面割れに「勢」の刻印。収位置削り。凹面：布目。粘土板系切り継ぎ。	H-7-97
19	平瓦	H-7 床	①⑰(25.5) ②⑲(21.5)	①細粒。②良好。白色粒+多量土含む。 ③2.5Y6/2(4)4/3	一枚作り、凸面：平行溝(引き口)を彫り消す。凹面：横溝(引け口)。	H-7-95
20	丸瓦	H-8 覆土	①⑭(18.0) ②⑯(14.0)	①細粒。②良好。薄丸。	行進萬式。凸面：丁寧なナデ。凹面：布目。	H-7-18
21	平瓦	H-8 床	①⑰(22.0) ②⑯(19.0)	①細粒。表面に白色粒子含む。 ②良好。表面に白色粒子含む。 ③2.5Y6/2(4)4/3	横面：斜面割れに「勢」の刻印。平行溝(引け口)1mm。凹面：粘土板系切り継ぎ。	H-8-27
22	平瓦	H-10 カマド	①⑯(29.0) ②⑯(16.0)	①細粒。薄白色粒+多量土含む。 ②良好。薄丸。 ③2.5Y6/2(4)4/3	一枚作り。凸面：斜面割れに「勢」の刻印。凹面：横溝(引け口)。粘土板系切り継ぎ。	H-10-71
23	軒丸瓦	H-11 覆土	①⑯(29.0) ②⑯(16.0)	①中粒。白色粒+多量土含む。 ②良好。薄丸。	横面：斜面割れに「勢」の刻印。平行溝(引け口)1mm。凹面：粘土板系切り継ぎ。接合部は横溝(引け口)。凹面：横溝(引け口)。接合部は側面削り。ナデ。凹面：横溝削り。当面裏から側面削り。	H-11-364
24	軒丸瓦	H-16 カマド	①不明 ②⑯(17.5)	①中粒。白色粒やや多く含む。 ②良好。薄丸。	横面式。当面：单弁八葉か。凹面：側面削り。接合部は横溝(引け口)。凹面：横溝削り。接合部ナデ。	H-16-カマド-1括
25	平瓦	H-17 H-17 上覆土	①⑤.0 ②⑥(6.5)	①細粒。白色粒やや多く含む。 ②良好。酸化鉄。 ③2.5Y6/4	凸面：提書き文字。判読不能。凹面：布目。	H-17-129
26	平瓦	H-18 カマド	①⑯(32.0) ②⑯(17.0)	①細粒。②良好。薄丸。	凸面：丁寧な側面削りナデ。凹面：布目。	H-18-52
27	平瓦	H-18 カマド	①⑯(32.0) ②⑯(16.5)	①中粒。白色粒やや多く含む。 ②良好。酸化鉄。 ③2.5Y6/4	一枚作り。凸面：丁寧な側面削りナデ。凹面：布目。	H-18-49
28	平瓦	H-18 カマド 床	①⑯(46.0) ②⑯(18.0)	①細粒。白色粒わざかに含む。 ②良好。薄丸。	凸面：側面削りに刻印。金型「富」。窓の側跡多い。凹面：布目。且足20%。	H-18-63
29	平瓦	H-18 カマド 上覆土	①⑯(23.0) ②⑯(17.0)	①中粒。②良好。酸化鉄。 ③2.5Y6/4	凸面：側面削りに刻印。金型「富」。窓の側跡多い。凹面：布目。且足20%。	H-18-58
30	平瓦	H-32 カマド	②④1.0 ②⑧(28.0)	①細粒。白色粒子少々含む。 ②良好。酸化鉄。 ③10YR7/4 ④壳形。	凸面：平行溝(引け口)5mmを彫り消す。凹面：布目。粘土板系切り継ぎ。且足80%。	H-32-94
31	平瓦	D-6 底面	①⑨.0 ②⑩(30.0)	①細粒。白色粒子多く含む。 ②良好。薄丸。	側面寄りに「田」彫書き。凹面：布目。且足60%。	D-6-2

Tab.21 元総社蒼海遺跡群（1）2トレンチ 出土石製品観察表

番号	器種名	出土通構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
1	砥石	H-17 覆土	(5.1)	3.3	1.4	47.4	凝灰岩	不明	H-17-覆土-1括
2	砥石	W-5 底面上覆土	(5.3)	3.6	3.4	48	角閃石 鞍山岩	不明	W-5-61

Tab.22 元総社蒼海遺跡群（1）2トレンチ 出土鉄器観察表

番号	器種名	出土通構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	刀子	H-3 床	(9.5)	1.0	0.4	8.8	鉄	2/3	H-3-241
2	鉄鏹	H-3 覆土	(10.0)	3.1	0.5	24.6	鉄	墓先端欠損	H-3-142
3	刀子	H-5 覆土	(8.6)	1.4	0.4	27	鉄	2/3	H-5-82
4	刀子	H-6 床上覆土	(7.6)	1.2	0.4	12.2	鉄	3/4	H-6-82
5	鉄鏹	H-7 覆土	(6.9)	3.0	0.4	8.9	鉄	墓先端欠損	H-7-覆土-1括
6	鍔か	H-11 床	(13.3)	0.5	0.5	11.6	鉄	不明	H-11-95
7	鉢	X-93. Y-79	2.6	1.7	0.6	9.0	鉄	ほぼ完形	鉢り金具か。 X-93. Y-79

Tab.23 元総社蒼海遺跡群（1）2トレンチ 出土特殊遺物観察表

番号	器種名	出土通構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	丸鉗	H-14 覆土	1.8	2.7	0.5	3.1	銅	ほぼ完形	鉗造。大孔式。 H-14-1
2	圓方か鉗尾	表探	(1.3)	(1.3)	0.5	1.8	蛇紋岩	1/3	や薄手。裏面に石鈍頭。 滑孔内に金(鋼)条の残存。表土。
3	分割か	H-11 床上覆土	3.1	1.3	1.0	15.8	鉛か	完形	黒鉛か。 H-11-321
4	臼玉	H-29 覆土	1.5	孔径0.3	1.0	3.3	滑石	ほぼ完形	H-29-9
5	臼玉	X-94. Y-95 表土	1.3	孔径0.3	0.4	0.7	滑石	完形	X-94. Y-95
6	臼玉	表探	1.7	2.4 孔径0.7	2.1	7.9	滑石	2/3	表土

Tab.24 元総社貢道跡群（1）3トレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	①口径×底径 ②高さ	③断土面成 形・底面・遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	土器部 环	H-1 便土	①[13.6] ②(4.7)	①黒色粒子を含む。②良好。	体面～口縁：深めの丸底からゆるやかに斜面し、口縁は矧ぐれで内凹する。外側：体部削りの後、口沿部擴ナダ。内面：口縁ナダ。	H-1-13
2	土器部 环	H-1 便土	①[14.8] ②(4.8)	①少量の砂を含む。②良好。	体面～口縁：深めの丸底からゆるやかに斜面し、口縁は矧ぐれで内凹する。外側：体部削りの後、口沿部擴ナダ。内面：口縁ナダ。	H-1-14
3	須恵器 环	H-1 便土	①[8.0] ②(3.5)	①砂粒をやや多く含む。②良好。 ②須恵器と見られる。	小形。本体・外縁が天井部から、口縁がやや開く。肩部あり。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。天井部：回転削り。	H-1-6
4	土器部 环	H-1 便土	①[21.0] ②(18.5)	①砂粒を多く含む。②良好。	口縁部：ゆるやかに外側へて開く。肩部：膨らみがなく直線的。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。天井部：回転削り。	H-1-16
5	土器部 环	H-1 便土	①[22.0] ②(8.3)	①砂粒をやや多く含む。②良好。	口縁部：傾斜からゆるやかに外側へて開く。脚部：外縁：口縁ナダ。脚部：半円形の足削り。内面：横ナダ。	H-1-21
6	土器部 环	H-2 便土	①[14.0] ②(3.5)	①少量の砂を含む。②やや良好。 ②須恵器と見られる。	口縁部：すこし外反して開く。底盤は丸味のある形状である。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転切り未調整。	H-2-32
7	須恵器 环	H-2 便土	①[12.4] ②(3.2)	①砂粒をやや多く含む。②良好。 ②須恵器と見られる。	本体～口縁：体部はむだに内側へ。口縁は外反して開く。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転切り未調整。	H-2-31
8	須恵器 环	H-2 便土	①[13.2] ②(3.3)	①細胞。②やや良好。焼化粧。	本体～口縁：天井部が丸く、ゆるやかに内側へ。口縁は外反せず、内側へ開く。口沿部を強制する。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。	H-2-29
9	土器部 环	H-2 便土	①[10.8] ②(5.5)	①むだに砂を含む。②良好。	口縁部：3の字字型。外縁：口縁ナダ。底盤：半円形削り。内面：口縁ナダ。	H-2-1
10	土器部 环	H-2 便土	①[14.4] ②(5.5)	①少量化。②良好。	口縁部：すこし外反して開く。底盤は丸味のある形状である。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-2-14
11	土器部 环	3トレ北 便土	①[11.4] ②(3.2)	①細胞。②良好。	本体～口縁：丸底からゆるやかに内側へ。口縁は直線的で丸味ある。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転切り未調整。	3トレ北一底
12	須恵器 环	X-16, Y-18 便土	①[12.6] ②(3.4)	①細胞。②良好。須恵器。	本体～口縁：天井部が丸く、ゆるやかに内側へ。口縁は外反せず、内側へ開く。口沿部を強制する。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。	X-16, Y-128 III
13	須恵器 环	X-16, Y-18 便土	①[20.9] ②(7.0)	①細胞。むだに砂粒を含む。②良好。須恵器。	本体～口縁：天井部が丸く、ゆるやかに内側へ。口縁は直線的で丸味ある。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。	X-16, Y-128 III
14	土器部 环	X-16, Y-18 便土	①不明 ②(3.1)	①むだに砂粒を含む。②やや良好。須恵器。	本体～口縁：天井部から内側へて立ち上る。外縁・内面：直線的に上するナダ。底盤。	X-195, Y-127 IIIa

Tab.25 元総社貢道跡群（1）3トレンチ 出土鉄器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	釣	3トレ北 表土	(7.3)	0.8	0.6	14.6	鉄	不明	3トレ北一底
2	釣	X-167, Y-128 表土	(8.2)	2.1	0.9	14.8	鉄	完形	X-107, Y-124

Tab.26 元総社貢道跡群（1）4トレンチ 出土土器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	①口径×底径 ②高さ	③断土面成 形・底面・遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	須恵器 环	H-1 床	①[9.4] ②(2.2)	①少量化の砂を含む。②良好。焼化粧。	本体～口縁：浅い底盤からわずかに口縁が外反する。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-1-27
2	須恵器 环	H-1 床	①[11.9] ②(3.2)	①少量化の砂を含む。②良好。焼化粧。	本体～口縁：浅い底盤からわずかに口縁が外反する。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-1-6
3	須恵器 环	H-1 床	①[9.0] ②(2.3)	①少量化の砂を含む。②良好。焼化粧。	本体～口縁：浅い底盤からわずかに口縁が外反する。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り未調整。	H-1-28
4	灰釉陶 碗	H-1 床	①[7.8] ②(6.4)	①細胞。②良好。	本体～口縁：内側斜にして口縁に至る。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-1-15
5	灰釉陶 碗	H-1 床・便土	①[16.8] ②(6.8)	①細胞。②良好。	本体～口縁：内側斜にして口縁に至る。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-1-13
6	須恵器 片	H-2 便土	①[14.0] ②(5.0)	①砂粒をやや多く含む。②良好。焼化粧。	本体～口縁：内側斜にして口縁に至る。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	H-2-27
7	土器部 环	W-1 便土	①[10.4] ②(7.7)	①少量化の砂を含む。②良好。	本体～口縁：浅めの底盤がゆるやかに斜面し、丸みを帯びる。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	W-1-31
8	土器部 环	W-1 便土	①[11.6] ②(4.2)	①細胞。②良好。	本体～口縁：浅めの底盤がゆるやかに斜面し、丸みを帯びる。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	W-1-4
9	須恵器 环	W-1 便土	①[14.6] ②(4.6)	①細胞。むだに砂を含む。②良好。	本体～口縁：底盤がゆるやかに斜面し、丸みを帯びる。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	W-1-26
10	須恵器 环	W-1 便土	①[9.9] ②(2.5)	①細胞。②良好。	本体～口縁：底盤がゆるやかに斜面し、丸みを帯びる。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	W-1-34
11	灰釉陶 皿	W-1 便土	①[15.2] ②(3.1)	①細胞。②良好。	本体～口縁：内側斜にして口縁に至る。外縁・内面：ロクロ整形ナダ。底盤：回転削り。	W-1-7

Tab.27 元総社貢道跡群（1）4トレンチ 出土铁器観察表

番号	器種名	出土遺構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	釣	H-1 床	(4.7)	1.5	1.1	8.7	鉄	不明	H-1-21
2	釣	P-7 便土	(5.8)	2.2	0.8	9.3	鉄	ほぼ完形	H-1-26

注：①底盤は床面突出物、床面は底盤直上から出土したものを底上便土。それより上層出土のものを復土とした。なお、出土状態から当該遺構に帰属すると判断できるものについては、括弧した。

②大きな底盤は1mであり、底盤の半分は1mである。現存底盤は1mである。復土を〔 〕で示した。

③底土は、細土（1mm未満）、中土（1mm以上）、粗土（2mm以上）とし、特徴的な物質が入る場合には物質名等を記載した。

④色調は外側で表示し、色名は割合標準色色名によった。

⑤番号には、各遺構に付記してある発掘時直上の遺物取り上げを示した。また、特記事項等があれば記載した。

## VI まとめ

今回の調査によって得られた所見について、以下にまとめて述べる。なお、時期区分については従来の元総社蒼海遺跡群の時期区分、I期（～7世紀前半：律令期以前）、II期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）、III期（10世紀初頭～：律令期以後）に従う。

### 1 積穴住居について

元総社蒼海遺跡群（1）の調査では、1トレンチで8世紀前半と考えられる住居が1軒、2トレンチで6世紀後葉から9世紀後半まで計31軒、3トレンチで7世紀前半と9世紀後半の住居が各1軒、4トレンチで10世紀中葉と11世紀前半の住居各1軒が検出された。

このうち、2トレンチ検出の住居についてみてみると、H-2とH-33号住居が10世紀初頭まで降る可能性があるが明瞭でなく、概ねI期からII期にあたる。時期が推定できる住居について時期別の住居数の推移をみると、6世紀後葉はH-28号住居1軒のみ。7世紀前半はH-29・31号住居の2軒。7世紀後半はH-34号住居1軒のみ。8世紀前半はH-6・11・21・22・23号住居の5軒のほか、H-14号住居は覆土中からこの時期の土器の小破片が出土しており、また覆土上層から出土した腰帶具の銅製丸釦は垂孔が大きいタイプで8世紀前半まで遡る可能性がある<sup>(1)</sup>。8世紀後半では住居は認められない。9世紀前半はH-12・19号住居の2軒。9世紀中葉から後半はH-2・3・5・7・8・10・18・32・33号住居の9軒のほか、H-16号住居のカマド内から国分寺創建瓦と考えられる軒丸瓦が出土しているため9世紀中葉以降の時期が考えられる。概括すると、6世紀末～7世紀前半に居住が始まり、7世紀後半は住居数が減少する。8世紀になると比較的多く住居が営まれるが、続く8世紀後半には住居が認められない。9世紀前半に再び居住が始まり、9世紀中葉から後半に著しい住居数の増加をみると言えよう。

調査区内での住居分布は、6・7世紀の住居は南側調査区南半に他の住居と重複せずに分布する。8・9世紀の住居は北側調査区と南側調査区の北端部に分布する。このうち8世紀の住居は満遍なくあまり重複せずに分布するが、9世紀の住居は中央寄りに密集し重複も著しい。各時期において占地傾向の違いが看てとれる。

また各時期の住居の方向については、6世紀後葉から7世紀後半では東方向から12°～25°北へ偏する<sup>(2)</sup>。

8世紀前半ではH-22号住居が23°と振れ幅が大きいが、0°から10°とわずかに北に偏る程度である。ところが9世紀中葉以降になるとH-5号住居がやや北に偏するものの、2°～10°の範囲で南に偏するようになる。

なお、9世紀前半の住居は遺構の重複により方向が明らかでないが、概ね前代の傾向を踏襲するようである。時期が明らかでない住居についても、ある程度まで住居方向により時期を特定できそうであり、それは住居の重複関係ともほぼ矛盾していない。しかし仮にそうしたとしても8世紀前半と9世紀中葉以降の住居軒数が按分して増えるだけで、時期別住居数の推移や占地傾向に大きな変化は無いと考えられる。

時期別の住居数の推移、占地傾向の違い、住居の方向からみると、2トレンチでは7世紀後半から8世紀前半にかけて、および8世紀後半とに2つの画期が認められる。この画期が何を反映するものかと考えるに、住居の向きの変化は地割り変更の現れであろう。1つ目の画期はI期とII期の境目で、7世紀後葉と推定される国府造営の時期にあたる<sup>(3)</sup>。また、2つ目の画期は、8世紀後半の国分僧寺・尼寺の建立の時期にあたる。

6・7世紀の住居の方向は国府造営以前の地割りを示し、8世紀前半の住居の向きは国府造営以降、国分二寺建立までの地割りであろう。8世紀後半段階は国分二寺建立前にあたり、国分尼寺周辺の2トレンチでは居住規制があったのか該期の住居は認められず、また9世紀前半になつてもあまり住居軒数は多くない。ところが9世紀中葉以降、爆発的に住居数が増加し固執したように同じ所に繰り返し住居を構築する。この意味で9世紀前半から中葉にかけて小画期を設けられる可能性が考えられる。

9世紀中葉以降住居内のカマド構築材に瓦が利用されるようになる。9世紀中葉のH-7号住居ではカマド構築材として瓦が用いられるだけでなく、カマド脇の貯蔵穴上面に筒の子状に敷き並べられた状態で検出された。これらの瓦は国分僧寺や国分尼寺から持ち込まれたと考えられ、この時期に両寺の大掛かりな修築があったことが想定できる<sup>10)</sup>。それにしても、これだけ大量の瓦が流出し住居内で使用されるということは、相対的に国分二寺（言い換えると国家権力あるいは律令体制）の権威の衰退が覗える。

2トレンチでの住居の様相を、元総社蒼海遺跡群（1）で調査を実施した他のトレンチと比較すると、1トレンチでは、国分尼寺の直ぐ南であるためか住居密度が低く8世紀後半以降の住居が認められない点で2トレンチの傾向と合致する。ただし、8世紀前半のH-1号住居の向きは異なる。3トレンチも住居密度が低く、7世紀前半のH-1号住居の方向は2トレンチの傾向と合致するが、9世紀後半のH-2号住居の方向は異なる。4トレンチでは10-11世紀の住居が各1軒検出されたが、住居の方向は9世紀中葉以降の方向を踏襲するのであろうか。

2トレンチ南側に接する元総社小見内Ⅷ遺跡では、国府造営以前の7世紀中葉以前と、2トレンチで密度濃く検出された9世紀中葉以降の住居が認められない。7世紀後半から8世紀中葉までの住居が主体で、II期の国分尼寺造営以前にあたる。住居の方向は8世紀前半とされたH-20号住居がやや南に偏するが、それ以外は北にわずかに偏り、2トレンチ8世紀前半の住居と同様である。

もちろん、2トレンチで確認できた時期別の住居の様相は、国府周辺域全般の傾向とすることはできない。しかし、作業仮説としてII期における居住傾向の変化を提示しておきたい。律令期にあっても国府内の権力構造は各時期で変化しているだろうし、それが何らかの形で周辺域の居住形態に反映する可能性もある。また、国府周辺の土地利用においても当然いろいろな形があったことも考えられる。現時点ではそれらの把握はできていないが、今後の調査の進捗により明らかにしていきたいと考える。

## 2 古代の溝について

元総社蒼海遺跡群（1）の各調査区から検出された古代と考えられる溝跡は、1トレンチW-1号溝、2トレンチW-5～10号溝、3トレンチ3号溝、4トレンチ1・2号溝である。構築時期については他の遺構との重複関係等から推定し性格について考えてみたい。なお、いずれもの溝も水流の痕跡は無く、土地あるいは建物の区画溝かと考えられる。そこには、住居の項で述べた地割りによる規制も働くものと考え、時期推定にあたっては可能な範囲内で補助材料として用いた。

1トレンチ1号溝は、元総社小見内Ⅷ遺跡W-1号溝、同小見内Ⅲ遺跡W-1号溝、上野国分僧寺・尼寺中間地域A区第2号溝状構造を南側側溝とする東西方向に伸びる道路の北側側溝の可能性がある。また、2トレンチW-6号溝も形状・規模がやや異なるが、位置および方向からみて1トレンチW-1号溝の続きと考えられる。これらの溝の方向は国分尼寺の南辺と合致し、8世紀前半の地割りに沿うものである。小見内Ⅷ遺跡発掘調査報告書の指摘どおりと考えたい。

2トレンチW-5・7号溝は上記の各溝と方向をほぼ同じにする。しかし、W-7号溝は7世紀前半のH-29号住居に切られておりI期以前と考えられる。W-5号溝については一応国分二寺造営期としておきたい。

3トレンチW-3号溝は、国府造営以前の地割りに沿っており、I期の可能性がある。

4トレンチW-1・2号溝は、元総社小見内Ⅵ遺跡A区W-4・5号溝、同小見内Ⅲ遺跡3区W-3・4号溝、同遺跡12区W-3号溝のつづきと考えられ、さらに、4トレンチ南方で今年度調査を実施した元総社蒼海遺跡群（6）の調査区からも検出されている。小見内Ⅵ遺跡と小見内Ⅲ遺跡では覆土中に硬化面が認められ通路利用が考えられるが、4トレンチの調査ではそのような所見は得られなかった。溝の方向は2トレンチにおける想定からすると9世紀中葉遺構の地割りに沿うようであるが、小見内Ⅲ遺跡3区で9世紀後半のH-10号住居に切られている。掘り込みの深さや総延長を考えると国府に関わる堀跡とも考えられる。しかし、推定国府や国分尼寺と

は明らかに軸線が異なるため、国府造営以前のⅠ期段階の可能性も否定できない。

1トレンチA-1・2号硬面、2トレンチA-1号硬面は、人為的な溝とは考え難い。3者とも瓦をはじめとする遺物を多量に包含しているが、鉄分沈着層があることから表流水により運ばれてきたものであろう。なお、元総社小見内III遺跡19区A-3号道路状遺構とされたものは、鉄分の沈着も見られ、2トレンチA-1号硬面のつづきと考えられる。2トレンチA-2号硬面は通路の可能性があるが、せいぜい馬入れ程度の通路であろう。

### 3 蒼海城堀跡について

4トレンチ検出の蒼海城関連と考えられる中世堀跡は、調査前から現況で窪地として確認でき、山崎一氏作製の綱張り図にも城域北西端部の堀跡として描かれている。同綱張り図によればこの堀の南延長には沼があるが、現在は宅地および畠地となっており痕跡は認められない。調査によってもこの堀跡が水路であった痕跡は認められず、常時水を湛える沼であったかは疑問である。この堀跡は、国府軸線南北にほぼ平行するが、4トレンチ調査区付近で屈曲し北西方向に向かって伸びる。現況の窪みは調査区北西で埋没し平坦な畠地に均されているが、堀跡の延長は元総社小見内VII遺跡B区の調査で確認されている。さらに同遺跡の発掘調査報告書では、溝の形状および覆土の類似から元総社小見内IV遺跡A区W-3号溝、同W-1・2号溝へと続き、そして小見内VII遺跡A区W-1号溝につながる可能性があるとした。また、蒼海城は国府を改変して築城されたものであるから、これら溝跡は国府西縁から国分尼寺南東端へS字形に屈曲して繋がる古代の通路の名残である可能性も指摘している。

小見内VII遺跡A区W-1号溝は、小見内III遺跡15区W-2号溝と同じ溝で、さらに2トレンチW-2号溝に続いている。これらの溝は国分尼寺南東端から南東方向に伸びる現道に沿っており、その西半分は現道下のため未調査で状況不明瞭であるが、通路として利用されながら埋没していく過程は小見内VII遺跡B区および小見内IV遺跡A区の調査所見と同様である。

4トレンチW-3号溝がS字に屈曲して2トレンチW-2号溝に続くかは今後の調査に期すこととして、中世城館の堀跡が通路としても利用されるることは多くある。4トレンチW-3号溝の断面形状は逆台形の底辺の中央がさるに逆凸字状に掘り窪められており、そこには地山のシルト質粘土や砂質粘土ブロックが充填され、一旦は深く掘り込んだが、埋め戻して平底堀の形状を整えたと考えられる。南側の元総社蒼海遺跡群（6）調査区では同堀跡の底面に逆凸字状の掘り込みは無く、4トレンチは堀の方向が北西に屈曲した部分であるため、堀の開削にあたり工区分けがあったものと考えられる。W-3号溝の通路利用を示す硬面は、この埋め戻しのブロック主体層上面から認められる。すなわち、構築あるいは改修の直後から通路としての利用が認められ、堀の開削は通路を目的としていたと考えられる。この堀跡南にあった沼が水を湛え蒼海城の名前の由来となった程には、この堀は水を通してはいなかった。ただ、堀開削の目的のひとつには降雨時の雨水や悪水の排水路も兼ねていたであろう<sup>(1)</sup>。

また、W-3号溝の東側は西側に比べて一段低くなっているが、蒼海城築城に伴う造成か後代の削平によるのか明らかではない。今回の調査で、この一段低い東側の堀上場のW-3号溝とW-1号溝との間に、穴熊の巢穴と考えられる網目状に掘り込まれたトンネルを検出した。このトンネルは水平方向に拡がるもので、W-1号溝の覆土中にもトンネルが続いていることが確認されている。穴熊の営巣は土手等に横穴を掘り、地表下約1.3mに通路として網目状にトンネルをつくる。今回このトンネルは現地表面下約70cmで確認されているが、このトンネルが造られた時点では現地表より約60cm程高かったことが想定できる。W-3号溝東側の肩の部分ではIII b層以下的基本土層の堆積が認められ、III a層以上が削平されて失われている。60cmという数値は自然堆積のIII a層とII層の層厚+ $\alpha$ であり、この+ $\alpha$ については、W-3号溝東側に土居等の人为的堆積層があった可能性を指摘しておきたい。

## 〈註〉

- (1) 田中広明氏のご教示による。
- (2) 西カマドの住居もあるが、東カマドの住居が大勢を占めるため、ここでは住居の主軸に限らず、比較しやすいように東方向を基準にして、★北へあるいは★南へと表記する。
- (3) 木津博明氏は『上野国分寺・尼寺中間地域（3）』の中で、7世紀第4四半期頃に国府造営に伴う地割の変更があったことを指摘している。
- (4) 弘仁九年（818）上野地域を襲った巨大地震はその要因のひとつと考えられます。
- (5) 木津博明氏のご教示による。また、小林 修氏からは長井坂城に於ける同様の事例の紹介を賜った。

## 〈引用参考文献〉

- 山崎一『群馬県古城址の研究 上』群馬県文化事業振興会 1971年
- 坂口一『奈良・平安時代の土器の編年』群馬県史編さん委員会編『群馬県史研究24』 1986年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分寺・尼寺中間地域1～8』 前橋市埋蔵文化財調査事業団 1986年～
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分寺』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
- 東京都埋蔵文化財センター『資料目録6』 東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター 1991年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『出土した古代の土器 最新情報展 展示レポート』 前橋市埋蔵文化財調査事業団 1997年
- 直塙明男・飯田庄二『上野国分寺尼寺中間地域確認調査』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 鈴木雅浩・高橋一彦編『元経社宅西遺跡・上野国分尼寺尼寺中間地域調査II』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009年
- 山武考古学研究所編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見内Ⅲ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・近藤雅頼編『元経社蒼海遺跡群 総社甲桶荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲桶荷塚大道西II遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見内IV遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・近藤雅頼『元経社蒼海遺跡群 総社甲桶荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見II遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見III遺跡・元経社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 田中広明『「地方の豪族と古代の官人」 柏書房 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見V遺跡・元経社小見VI遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見IV遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅頼・植垣慎太郎編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見内III遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅頼・植垣慎太郎編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見内IV遺跡・元経社小見内V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『植垣塚大遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003年
- 岩崎琢磨・高坂麻子編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見内X遺跡・総社閑泉明神北V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- 山武考古学研究所編『元経社蒼海遺跡群 元経社小見IX遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- スナガ隕星園設株式会社編『元経社蒼海遺跡群（3） 元経社小見VII遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年

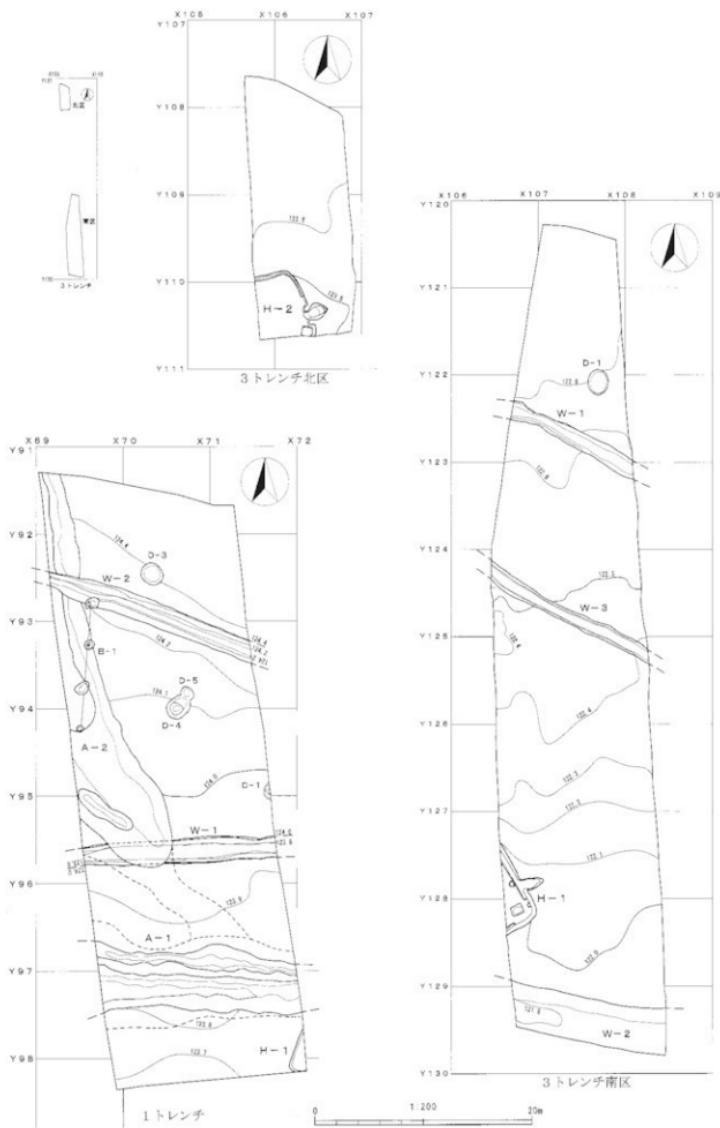
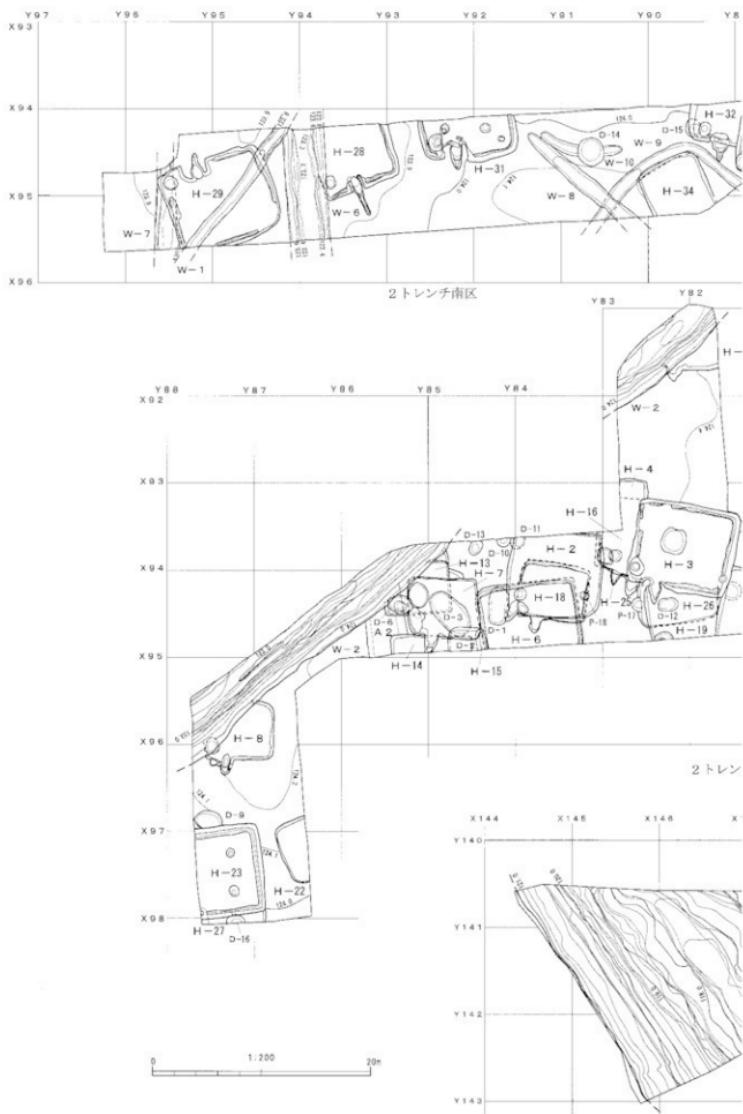


Fig. 5 元總社蒼海遺跡群（1）1・3トレンチ全体図



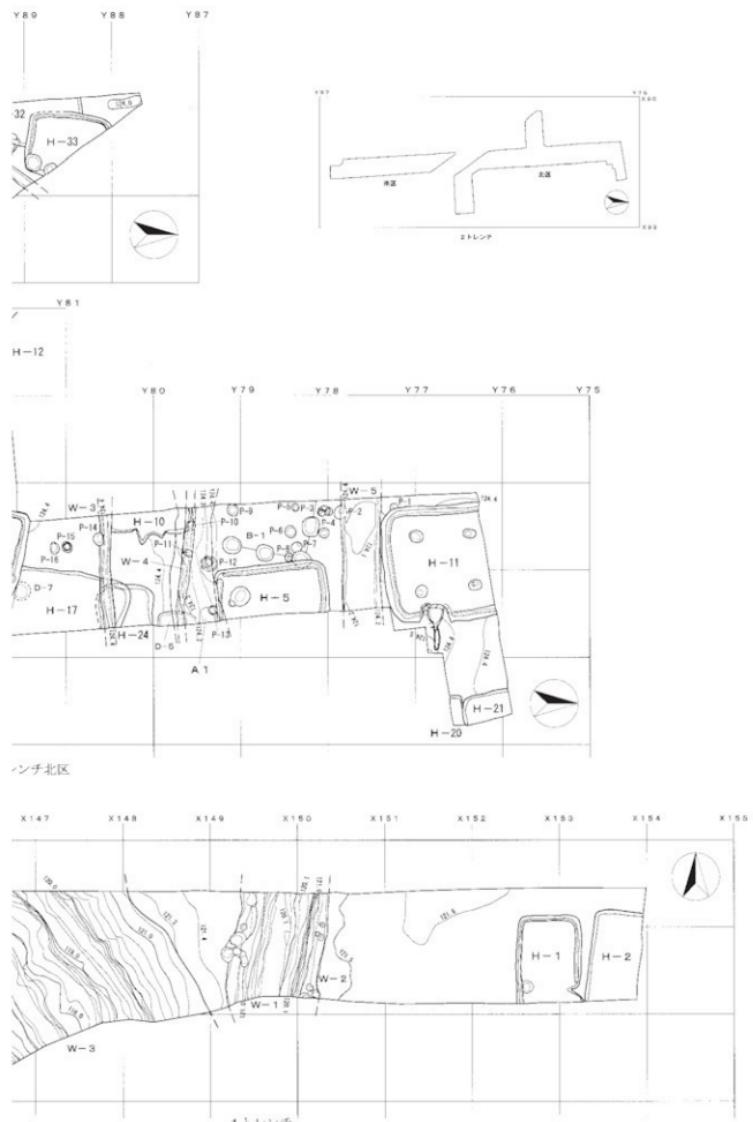


Fig. 6 元總社舊海道跡群（1）2・4トレンチ全体図

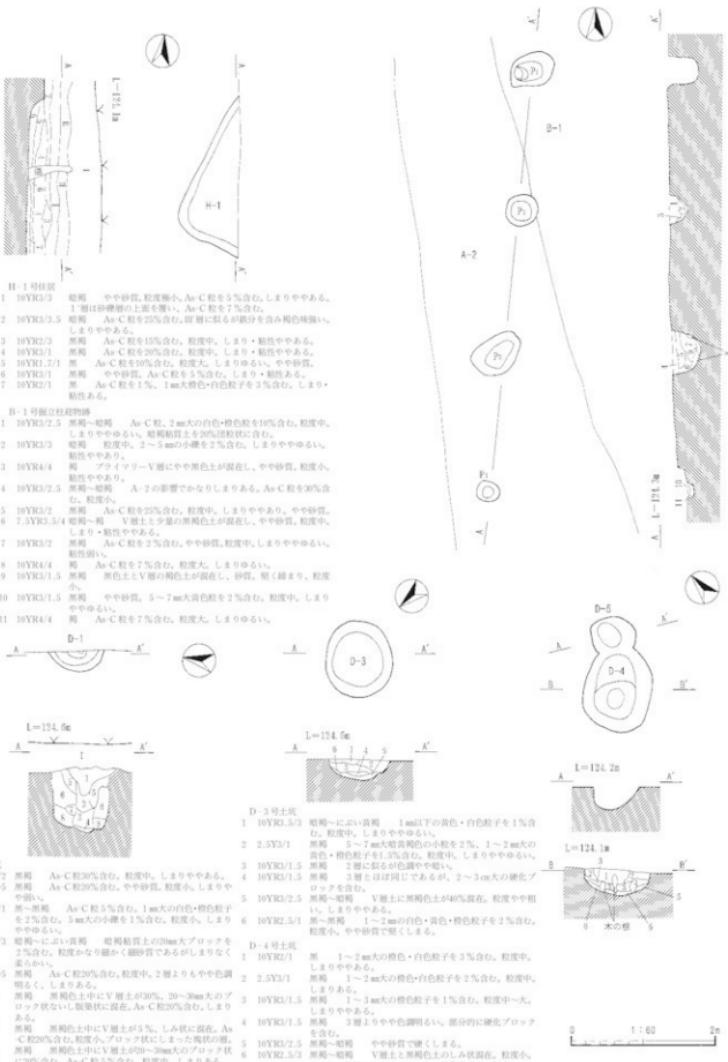


Fig. 7 1トレンチ H-1号住居・B-1号掘立柱建物・D-1・3～5号土坑

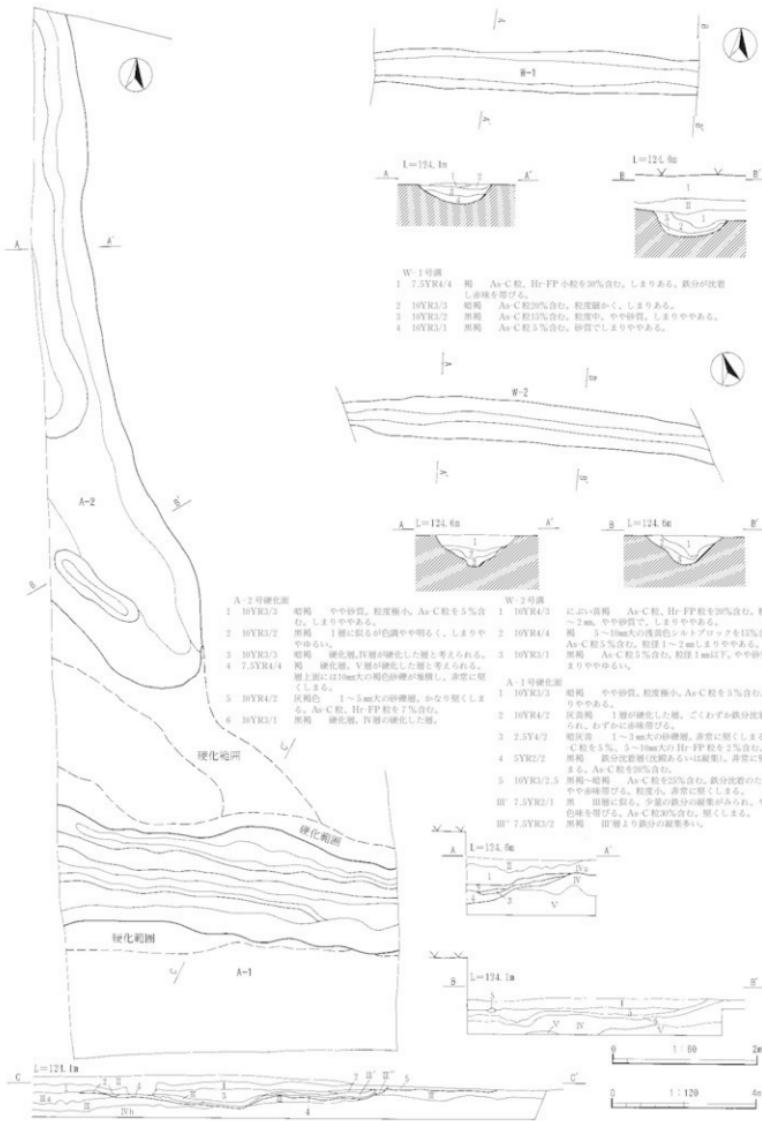


Fig. 8 1トレンチ W-1、2号溝・A-1、2号硬化工場

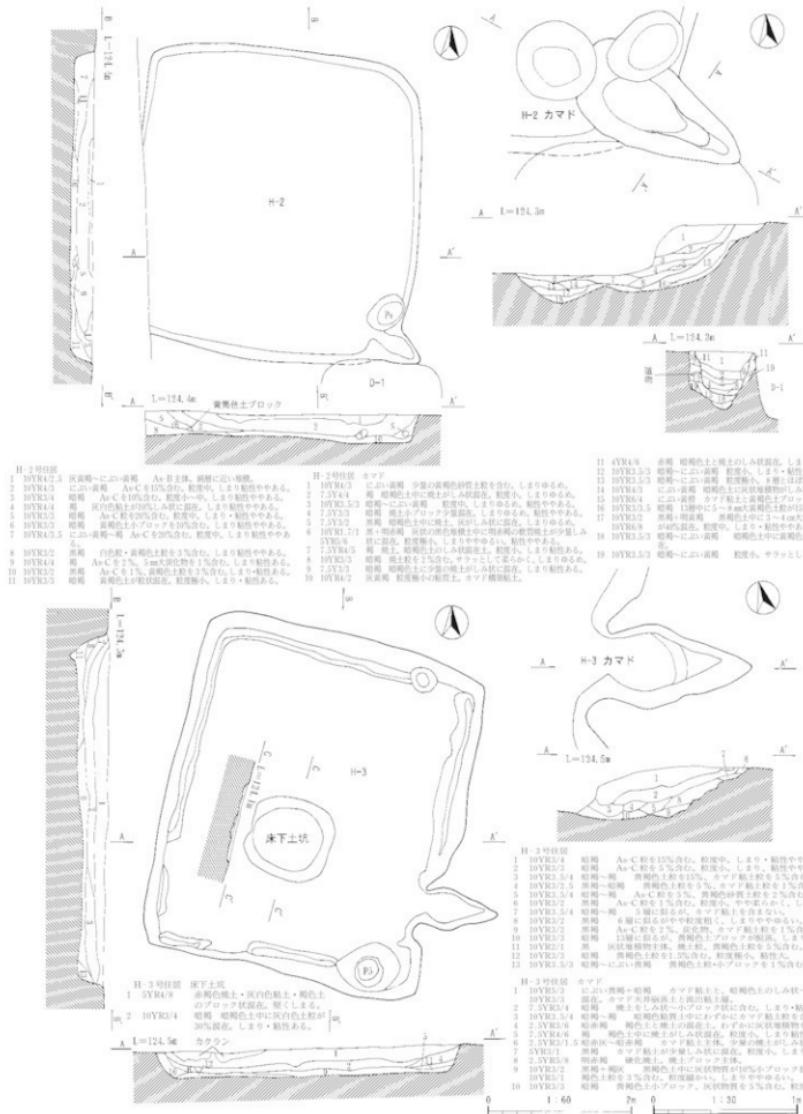


Fig. 9 2トレンチ H-2、3号住居

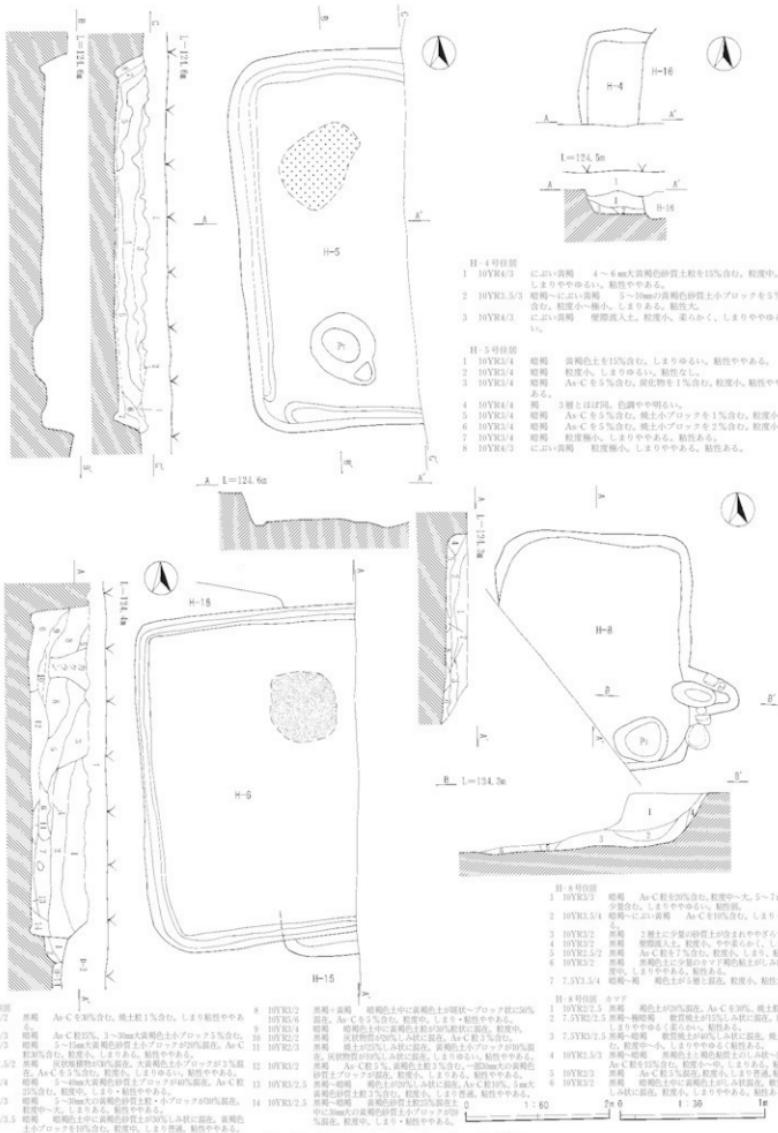


Fig.10 2トレーナー H-4～6、8号住居

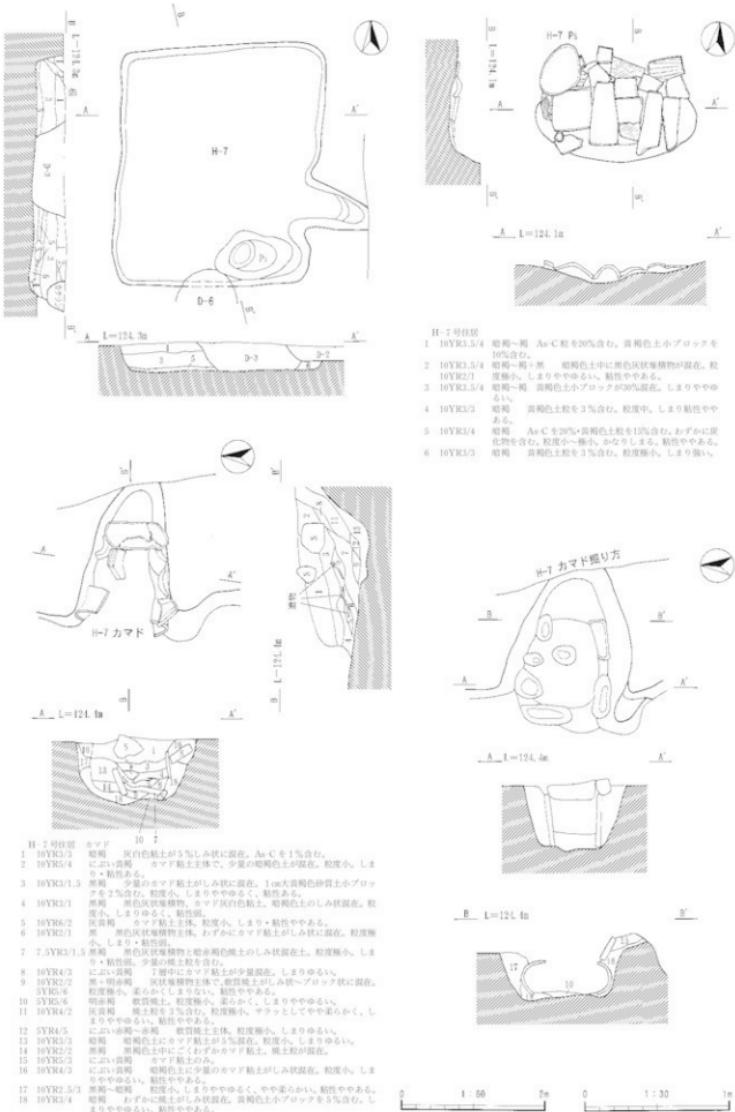


Fig.11 2 トレンチ H-7号住居

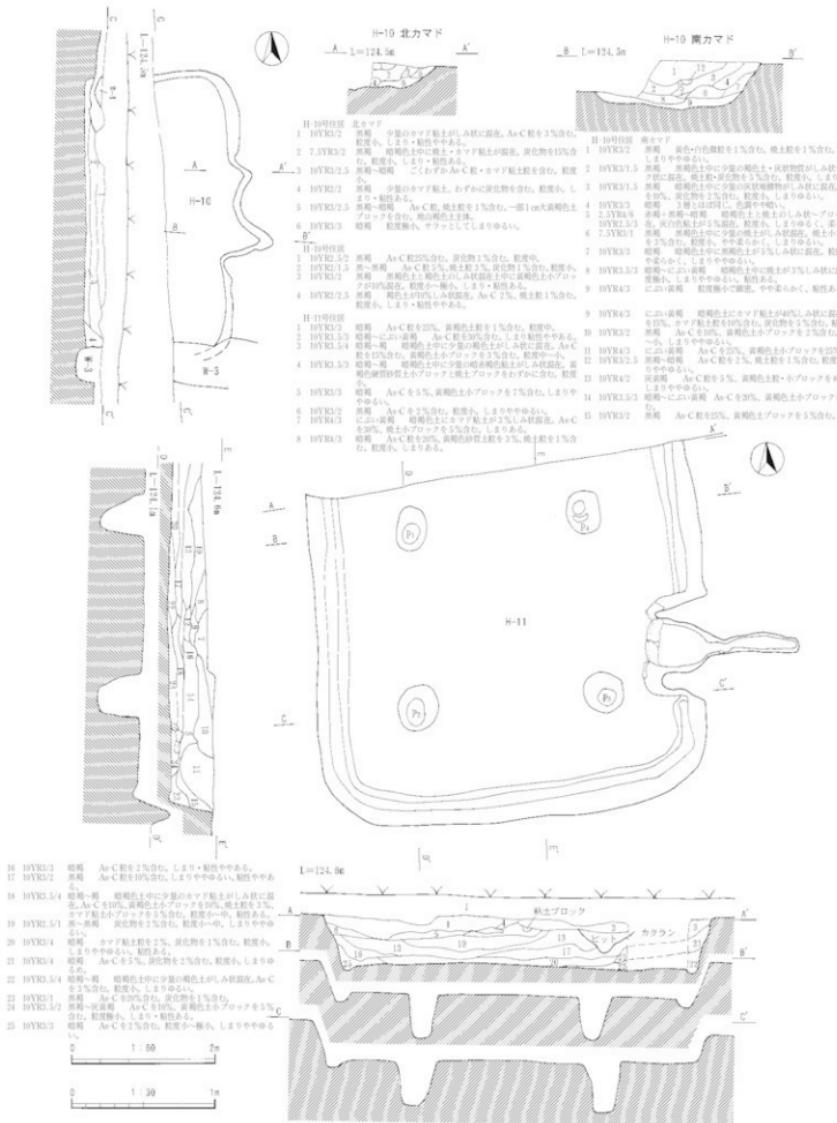


Fig.12 2トレンチ H-10、11号住居

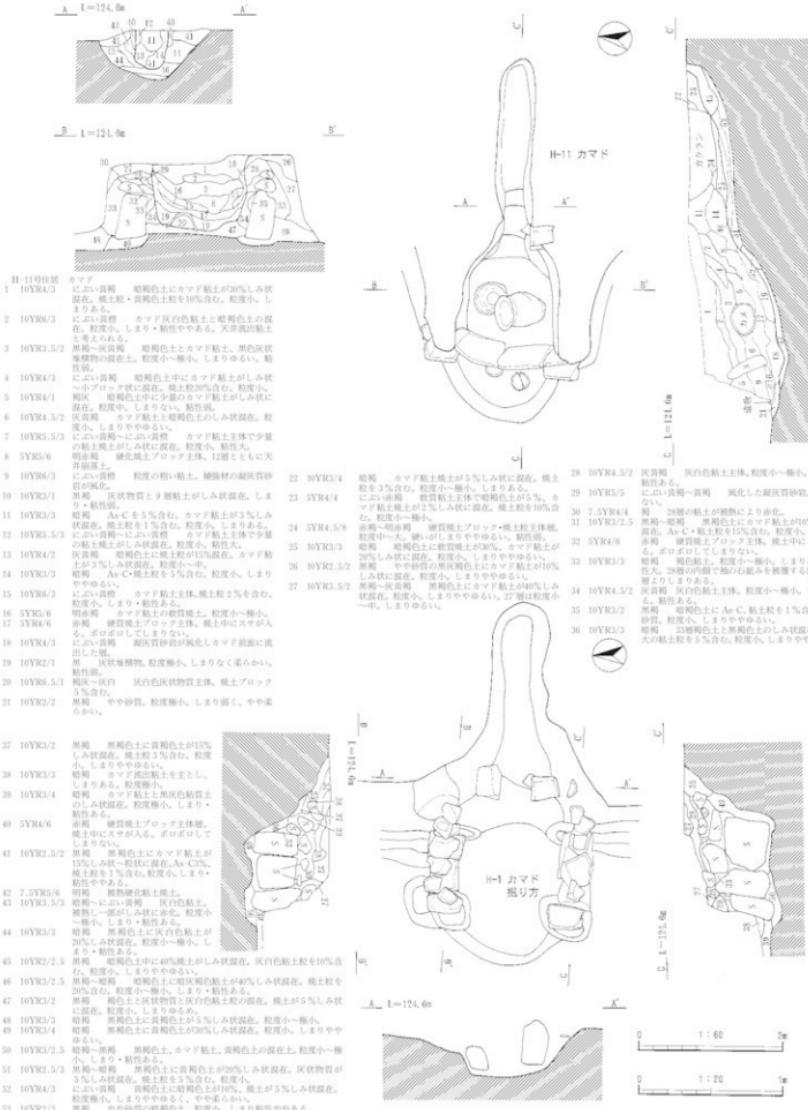


Fig.13 トレンチ H-11号住居カマド

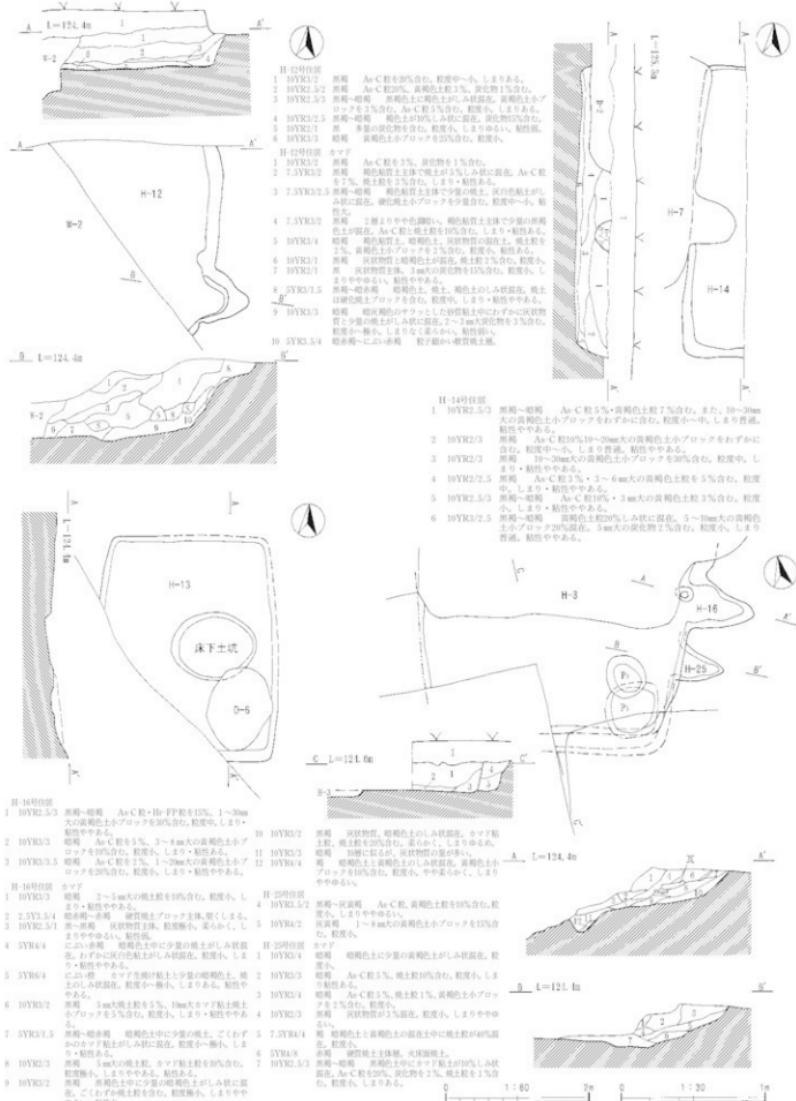


Fig.14 2 レンチ H-12～14、16、25号住居

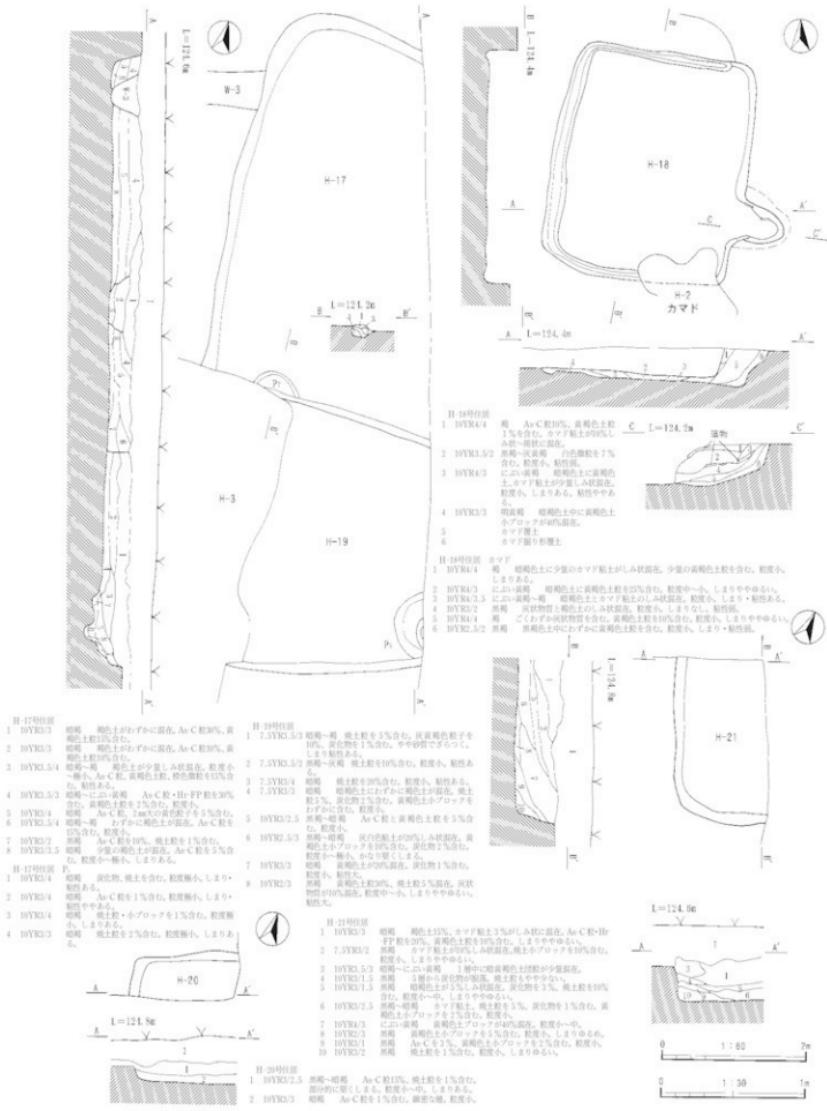


Fig.15 2 レンチ H-17~21号住居

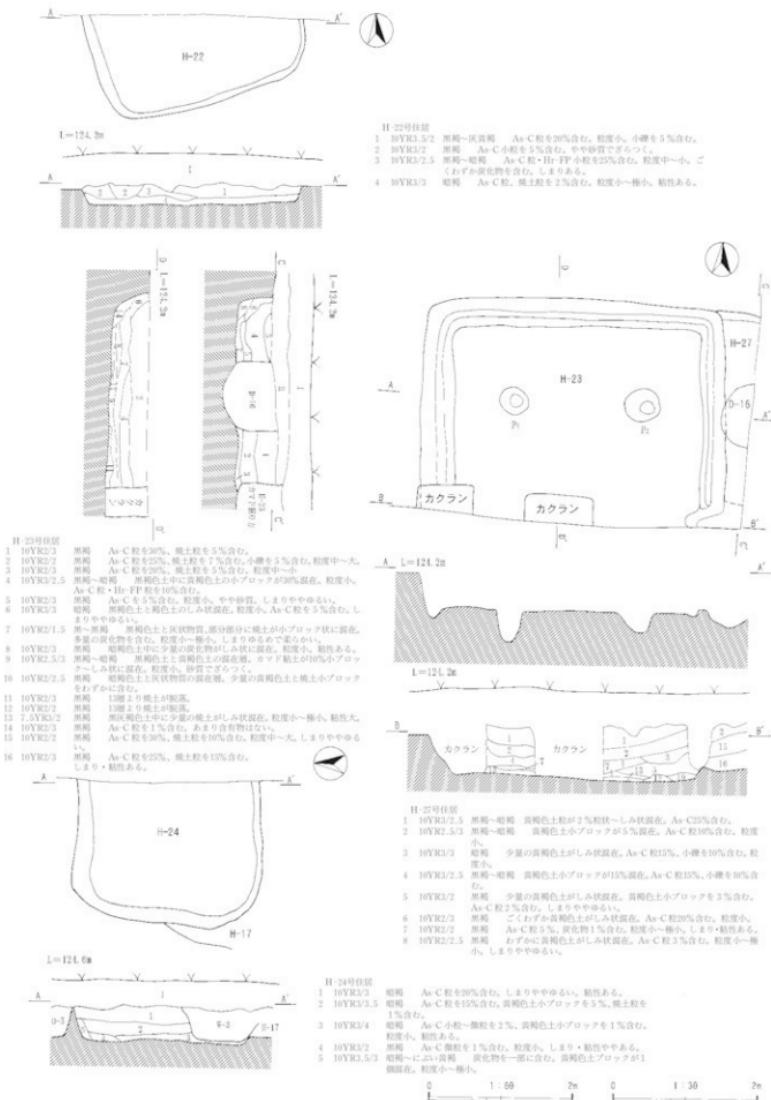


Fig.16 2トレンチ H-22~24, 27号住居

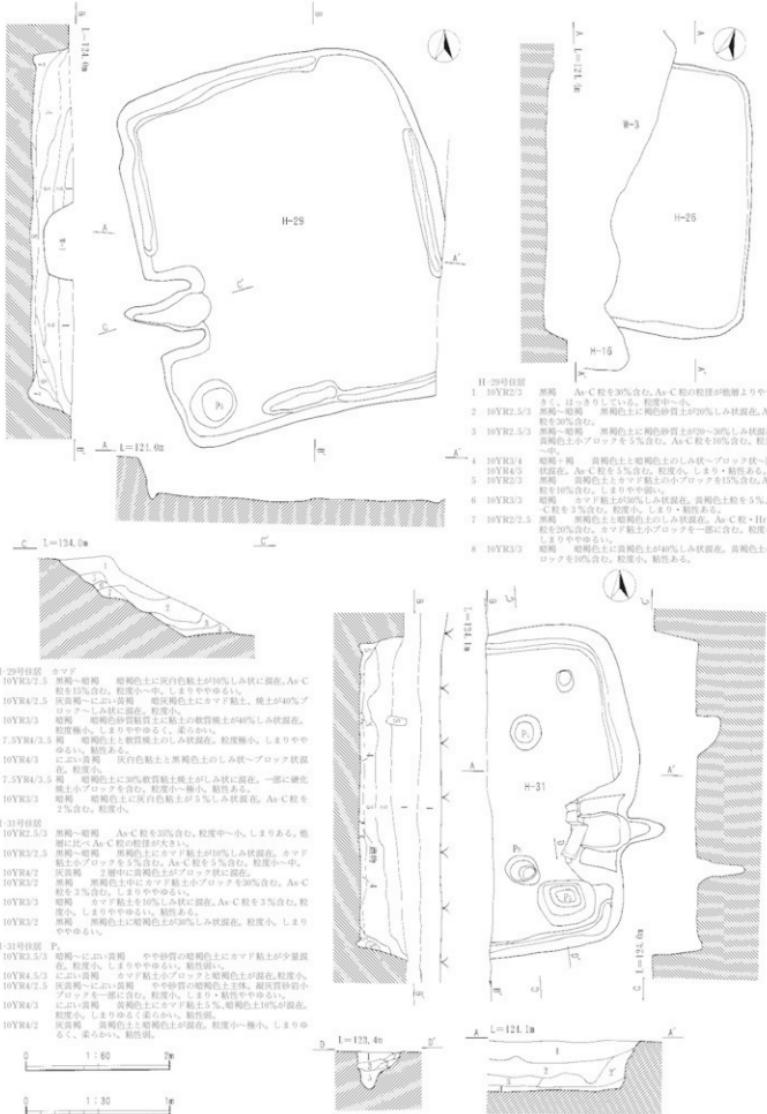


Fig.17 2トレンチ H-26, 29, 31号住居

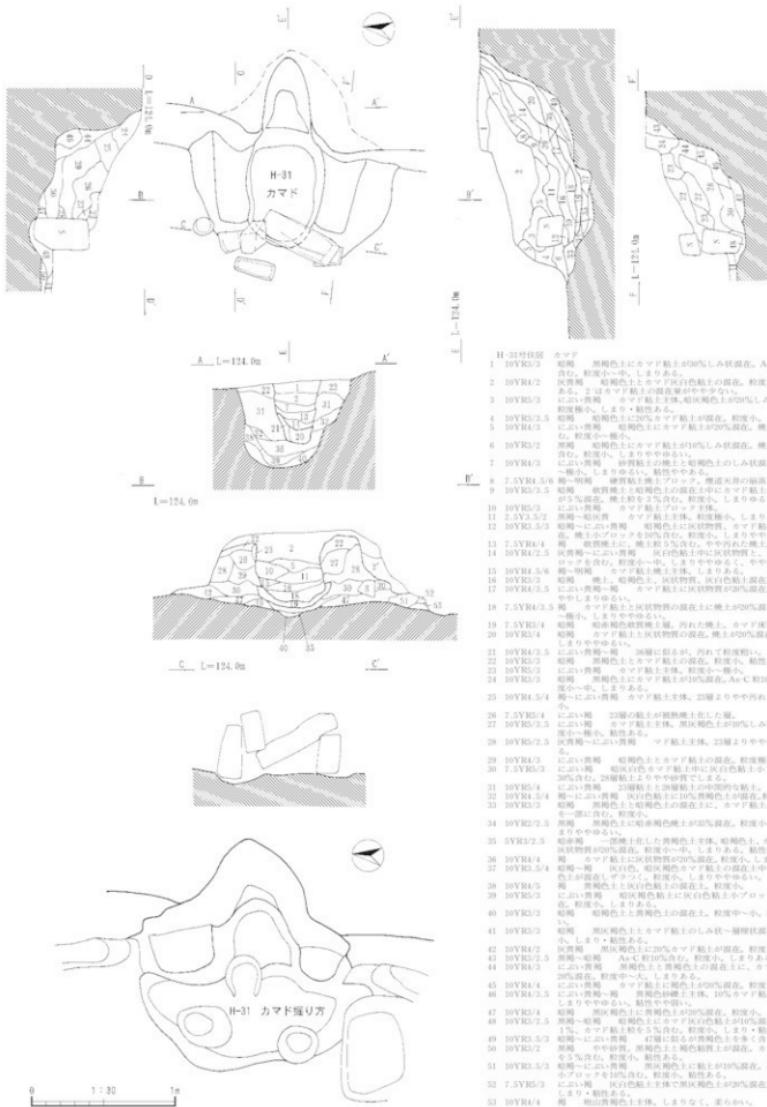


Fig.18 2トレンチ H-31号住居カマド

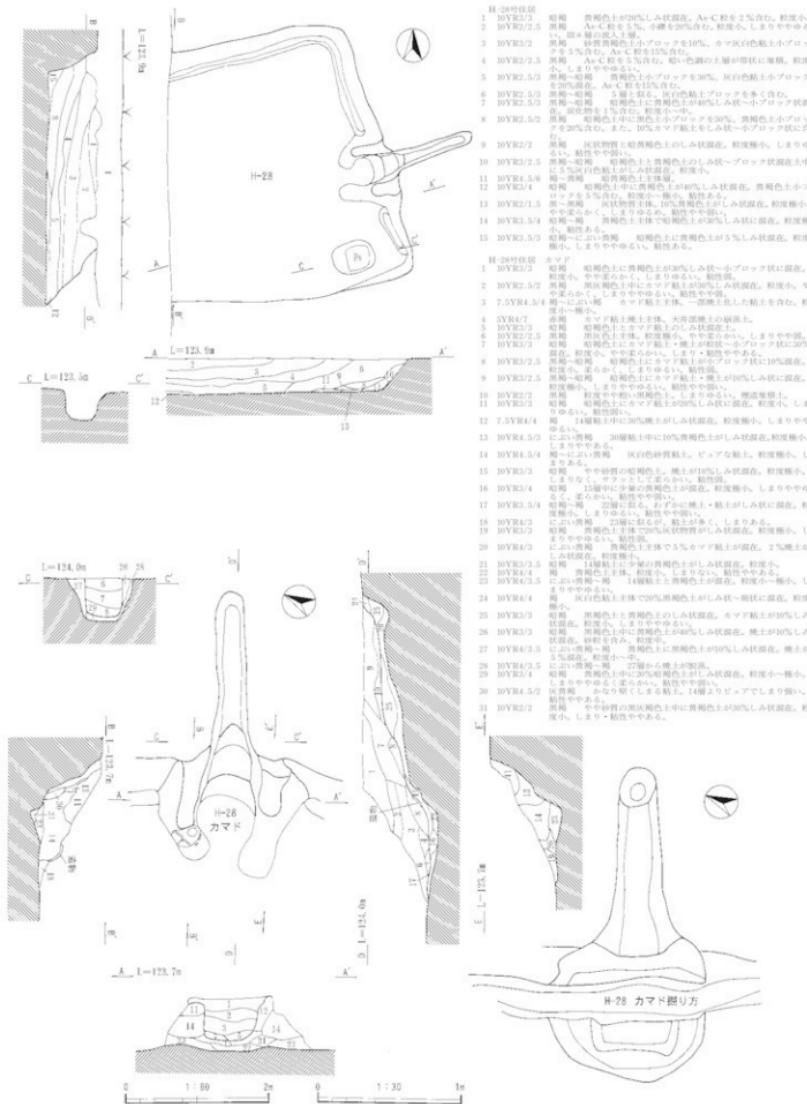
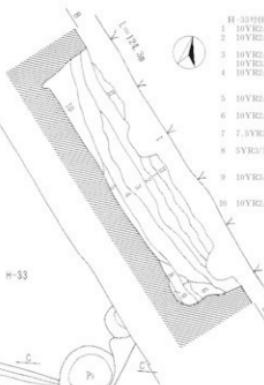
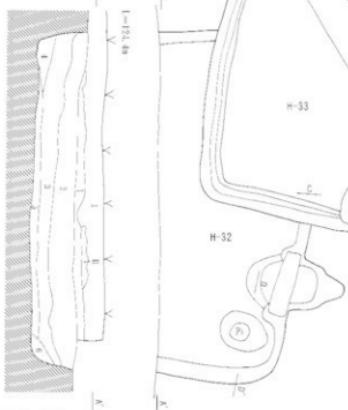


Fig.19 2トレンチ H-28号住居

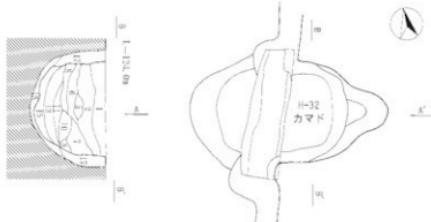
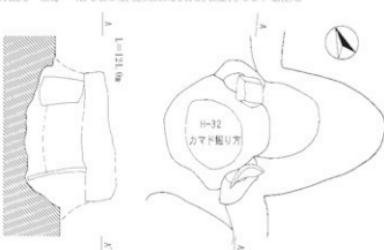
- H-32号探査
1. HYR2/2 黒褐色。As-C 板を35%含む。粒度小。しまり粘性。
  2. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を20%、Hg-PF 板を5%含む。他層に比してAs-C板の粒度がやや大きい。しまりある。粒度中。
  3. 7SYR2/1.5 黒褐色。中に10~20mmの大粒鉄物質土が混入。しまりある。粒度大。
  4. 10YR2/2.5 黒褐色。As-C 板に10%含む。粒度中。
  5. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を5%含む。粒度中。
  6. 10YR2/1.5 黒褐色。As-C 板を3%含む。粒度小。粘性ある。



- H-33号探査
1. 10YR2/2.5 黒褐色。H-32 1層とは同質。但しA層の底層。
  2. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を5%、Hg-PF 板を10%含む。2mm 大粒の鉄物質土が混入。粒度中。
  3. 10YR2/2 黒褐色。2層中に20~40mmの大粒鉄物質土のブロックが混入。粒度中。
  4. 10YR2/2 黒褐色。中に10~20mmの大粒鉄物質土の30%が混入。As-C 板を5%含む。粒度中。
  5. 10YR2/2.5 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  6. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  7. 7.SYR2/1.5 黑褐色。底層に10~20mmの大粒鉄物質土が混入。粒度中。
  8. SYR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  9. 10YR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  10. 10YR2/1.5 黑褐色。As-C 板を10%含む。粒度中。



- H-32号探査 カマド
1. 10YR2/2 黒褐色。中に10%鉄物質土が混入。10%鉄物質土。5mm 大粒土塊。As-C 板を5%含む。粒度小。しまりある。粘性。
  2. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄物質土が混入。粒度中。
  3. 7.SYR2/2 黑褐色。As-C 板を10%、3mmの大粒土塊を15%含む。粒度小。しまりある。粘性。
  4. 7.SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に鉄物質土の15%含む。5mmの大粒鉄物質土を5%含む。粒度小。しまりある。粘性。
  5. 7.SYR2/2.5 黑褐色。鉄物質土中に鉄物質土の15%含む。5mmの大粒鉄物質土を5%含む。粒度小。しまりある。粘性。
  6. 10YR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  7. 7.SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄物質土が混入。粒度中。
  8. 7.SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄物質土が混入。粒度中。
  9. 10YR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  10. 7.SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  11. SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  12. 10YR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  13. 10YR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  14. SYR2/2 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  15. 7.SYR2/2.5 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  16. 7.SYR2/2 黑褐色。As-C 板を3%、土塊を10%含む。粒度小。しまり・粘性。



- H-33号探査
1. 10YR2/2.5 黒褐色。底層は1層とは同質。但しA層の底層。
  2. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を5%、Hg-PF 板を10%含む。2mm 大粒の鉄物質土が混入。粒度中。
  3. 10YR2/2 黒褐色。2層中に20~40mmの大粒鉄物質土のブロックが混入。粒度中。
  4. 10YR2/2 黒褐色。中に10~20mmの大粒鉄物質土の30%が混入。As-C 板を5%含む。粒度中。
  5. 10YR2/2.5 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  6. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  7. 7.SYR2/1.5 黑褐色。底層に10~20mmの大粒鉄物質土が混入。粒度中。
  8. SYR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  9. 10YR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  10. 10YR2/1.5 黑褐色。As-C 板を10%含む。粒度中。
- H-32号探査 カマド
1. 10YR2/2 黒褐色。底層は1層とは同質。但しA層の底層。
  2. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を5%、Hg-PF 板を10%含む。2mm 大粒の鉄物質土が混入。粒度中。
  3. 10YR2/2 黒褐色。2層中に20~40mmの大粒鉄物質土のブロックが混入。粒度中。
  4. 10YR2/2.5 黒褐色。底層は1層とは同質。但しA層の底層。
  5. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  6. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  7. 7.SYR2/1.5 黑褐色。底層に10~20mmの大粒鉄物質土が混入。粒度中。
  8. SYR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  9. 10YR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  10. 10YR2/1.5 黑褐色。As-C 板を10%含む。粒度中。
- H-33号探査
1. 10YR2/2.5 黒褐色。底層は1層とは同質。但しA層の底層。
  2. 10YR2/2 黒褐色。As-C 板を5%、Hg-PF 板を10%含む。2mm 大粒の鉄物質土が混入。粒度中。
  3. 10YR2/2 黒褐色。2層中に20~40mmの大粒鉄物質土のブロックが混入。粒度中。
  4. 10YR2/2 黒褐色。底層は1層とは同質。但しA層の底層。
  5. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  6. 10YR2/2 黒褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  7. 7.SYR2/1.5 黑褐色。底層に10~20mmの大粒鉄物質土が混入。粒度中。
  8. SYR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に10%鉄物質土が混入。粒度中。
  9. 10YR2/1.5 黑褐色。鉄物質土中に20%鉄色土がみ状に混在。As-C 板を5%含む。粒度中。
  10. 10YR2/1.5 黑褐色。As-C 板を10%含む。粒度中。

Fig.20 2トレンチ H-32、33号住居

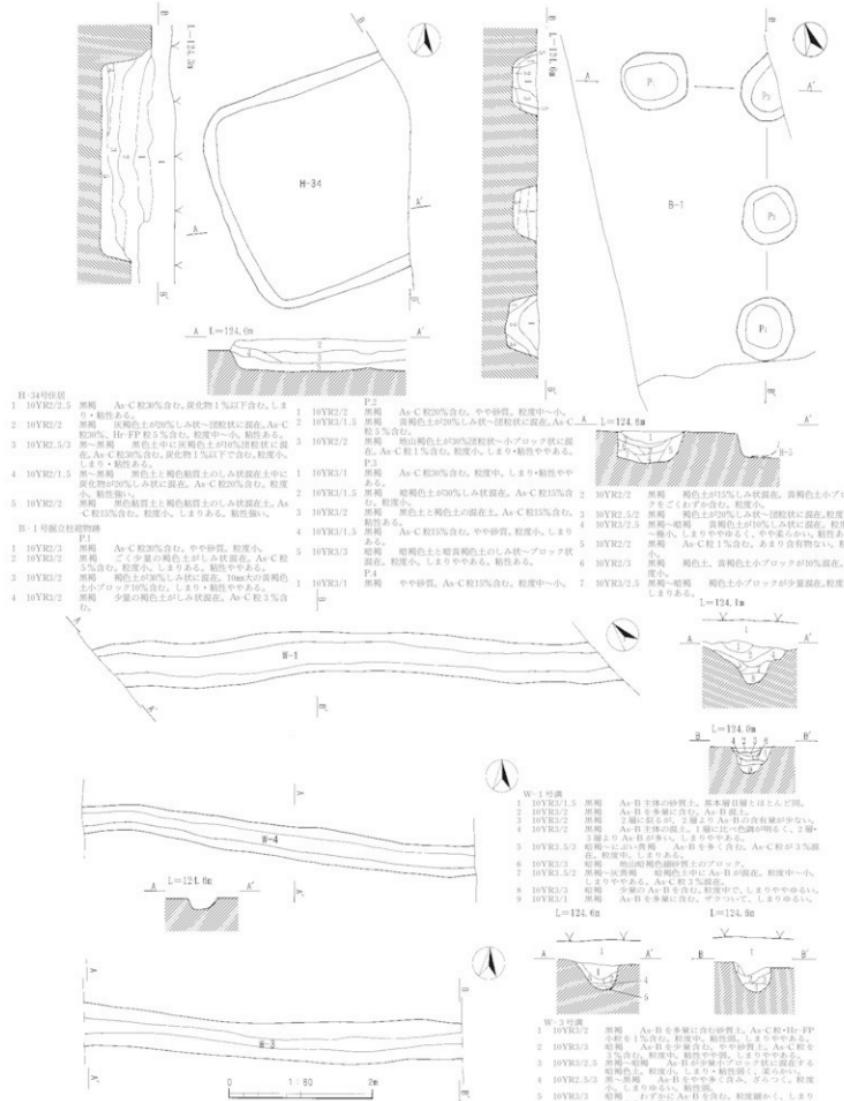


Fig.21 2 トレンチ H-34号住居・B-1号掘立柱建物・W-1、3、4号窓

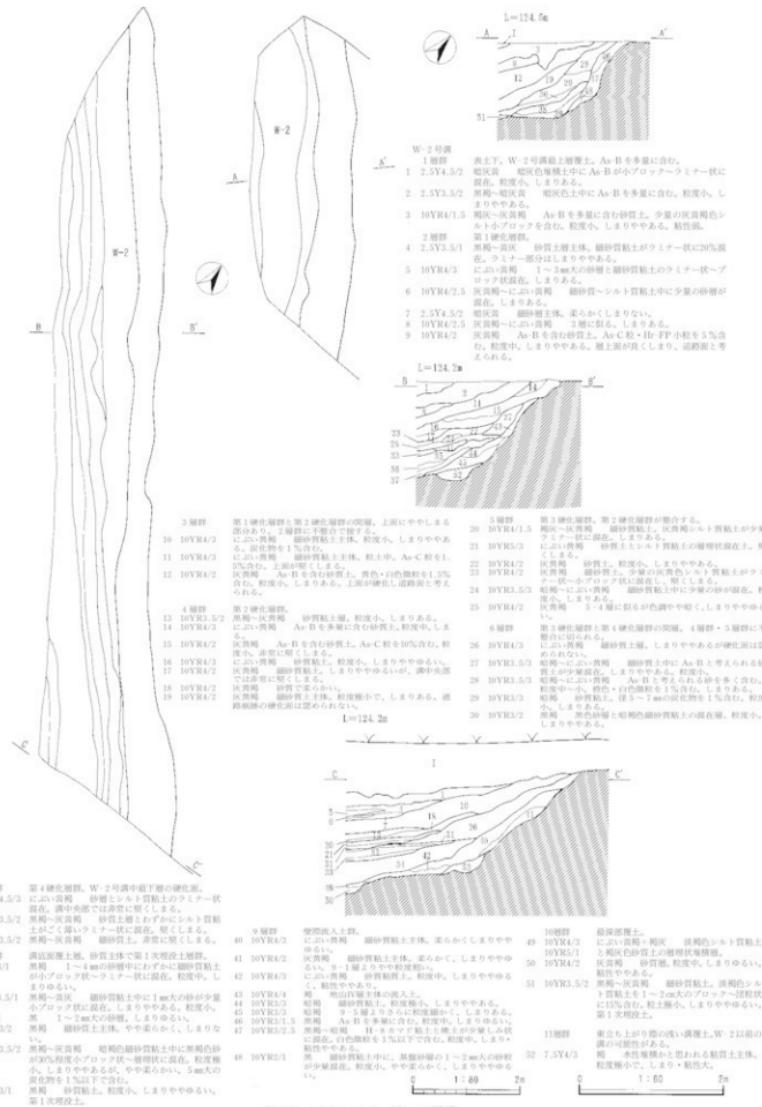


Fig.22 2トレンチ W-2号溝

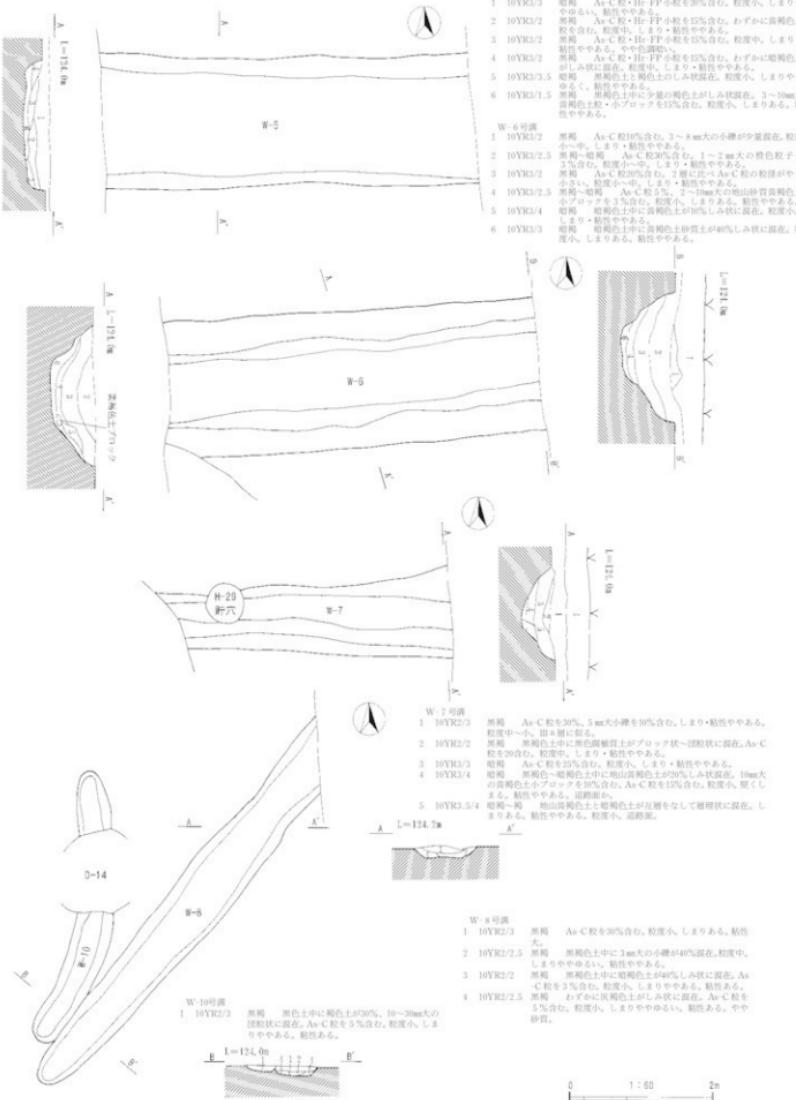


Fig.23 2 トレンチ W-5~8、10号溝

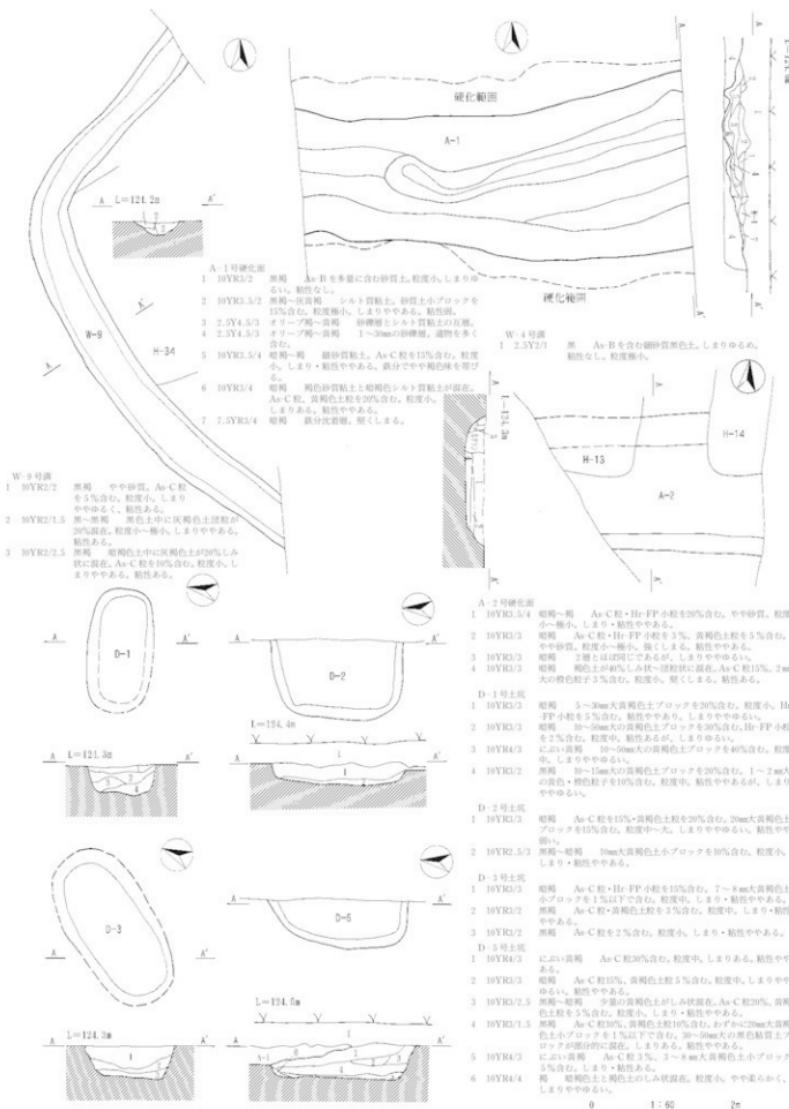


Fig.24 2 トレンチ W-9号溝・A-1、2号硬化面・D-1～3、5号土坑

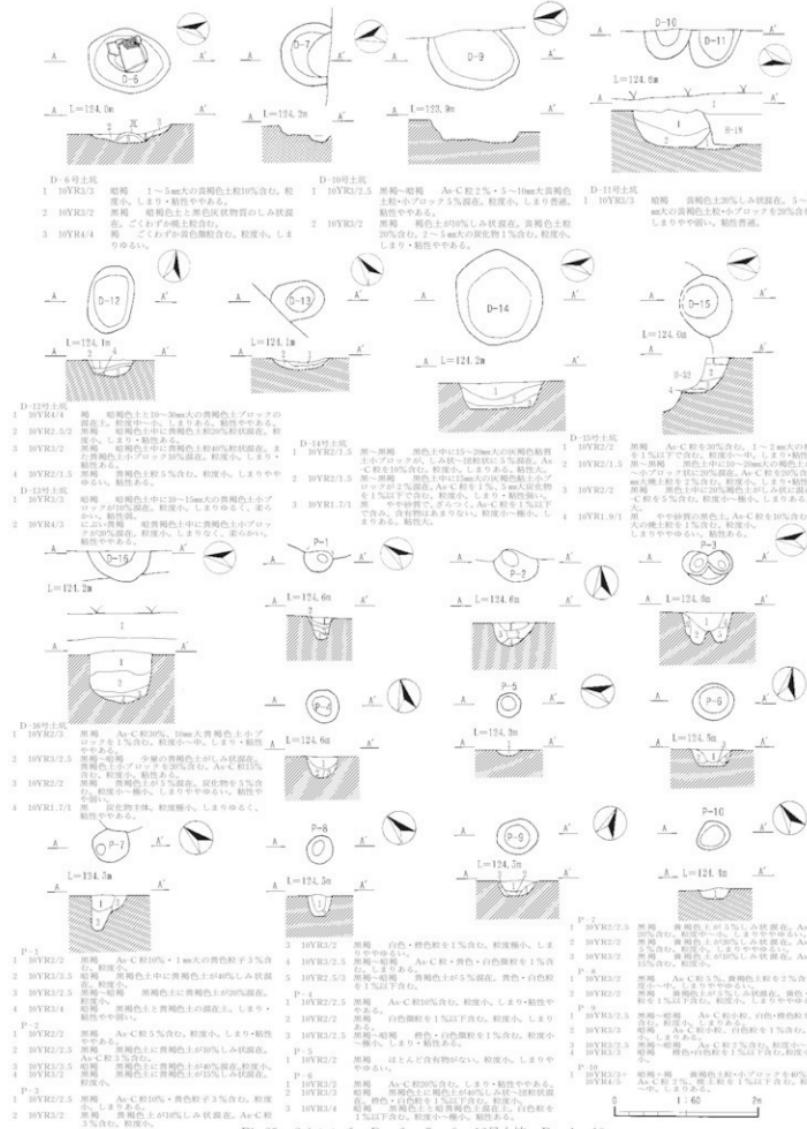


Fig.25 2トレンチ D-6、7、9~16号土坑・P-1~10

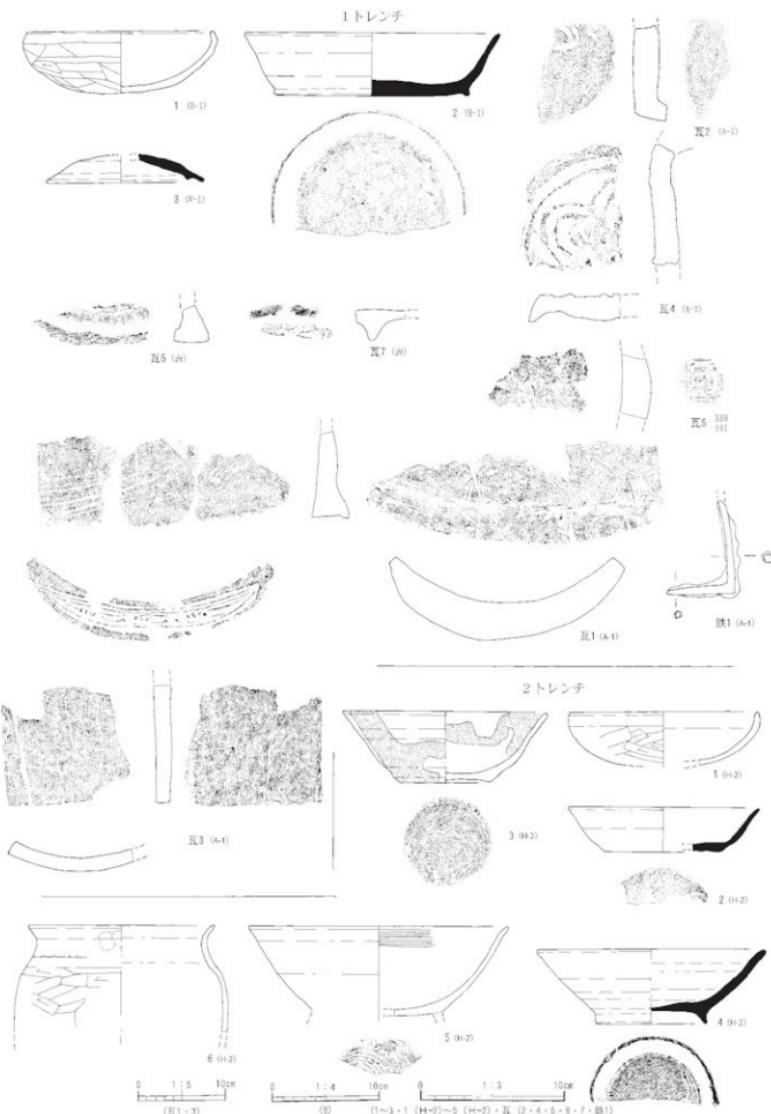


Fig.30 1トレンチ出土の土器・瓦・鉄器および2トレンチH-2号住居出土の土器

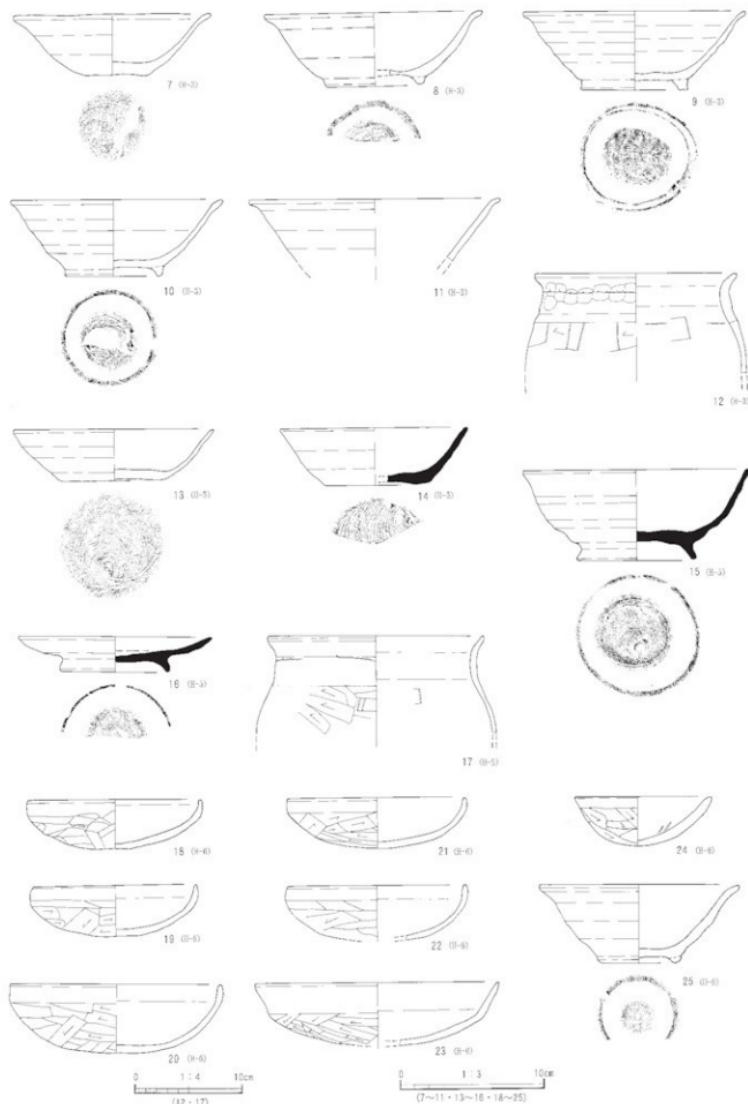


Fig.31 2 トレンチH-3、5～6号住居出土の土器

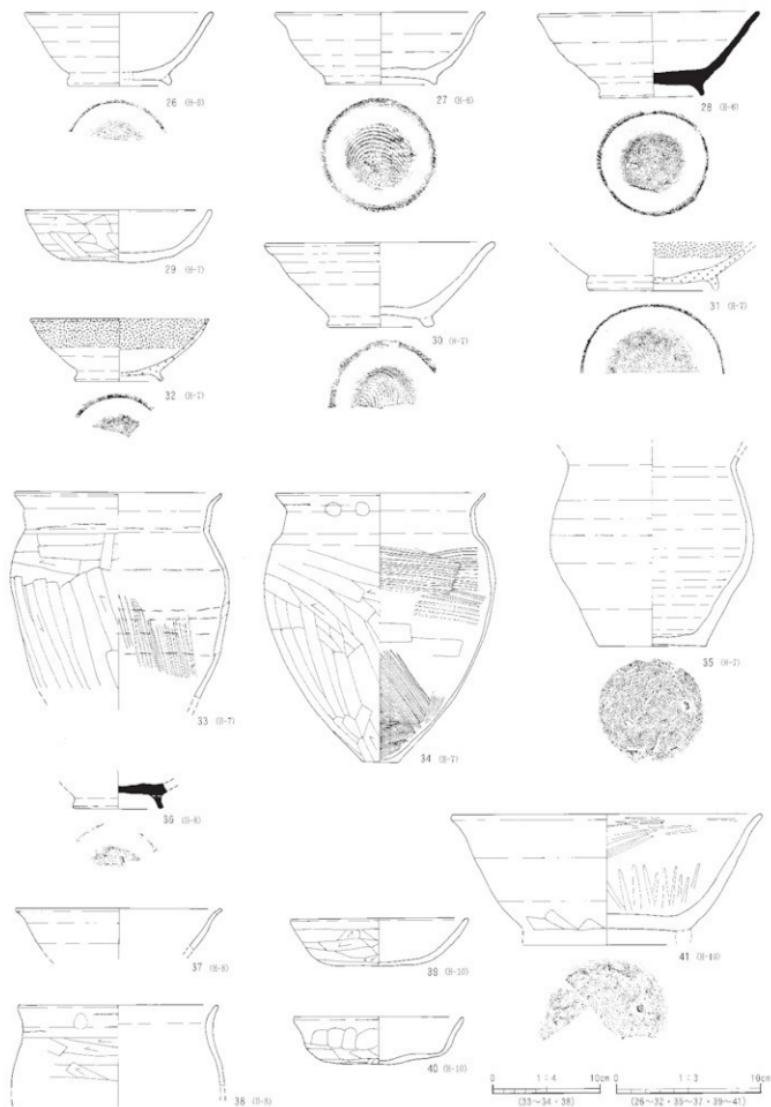


Fig.32-2 トレンチH-6～8、10号住居出土の土器

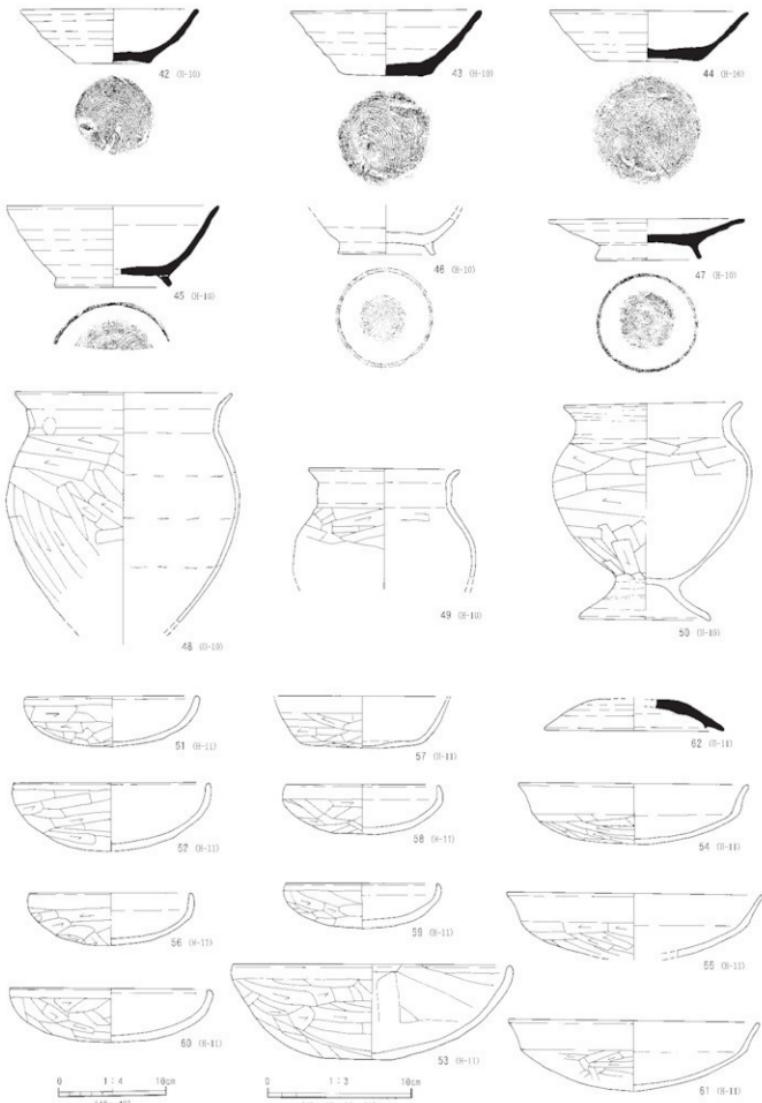


Fig.33-2 トレンチH-10、11号住居出土の土器

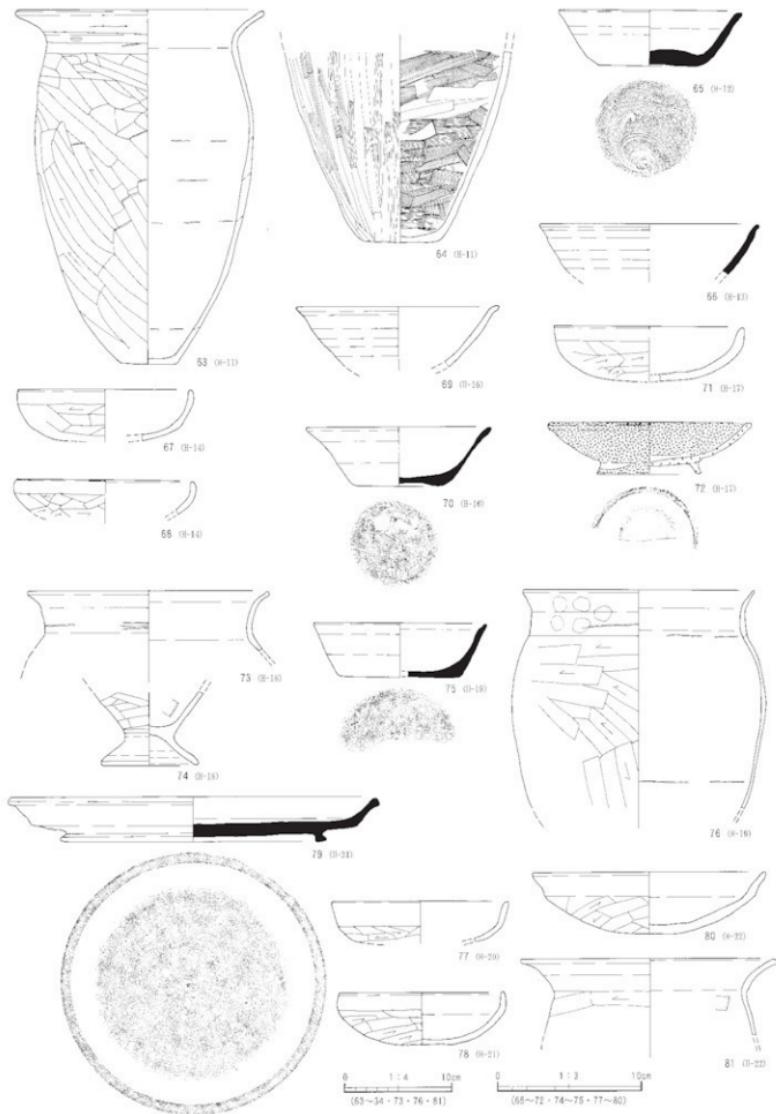


Fig.34-2 トレンチH-11~14、16~22号住居出土の土器

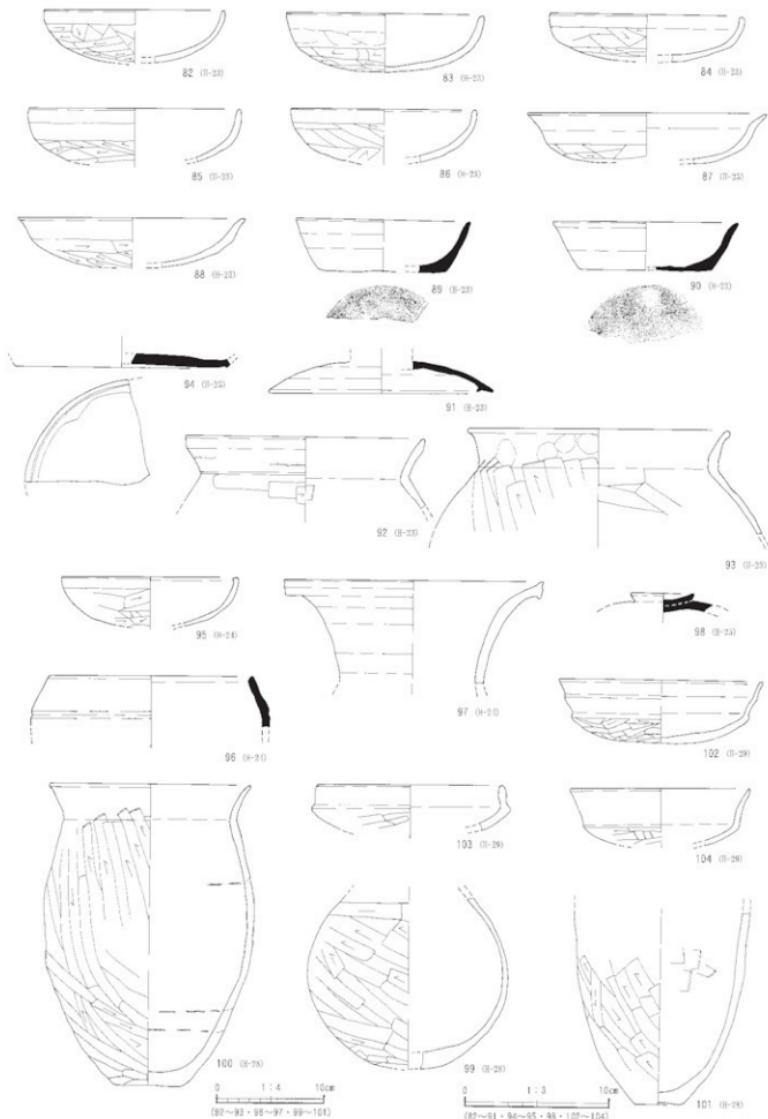


Fig.35 2 トレンチH-23~25, 28, 29号住居出土の土器

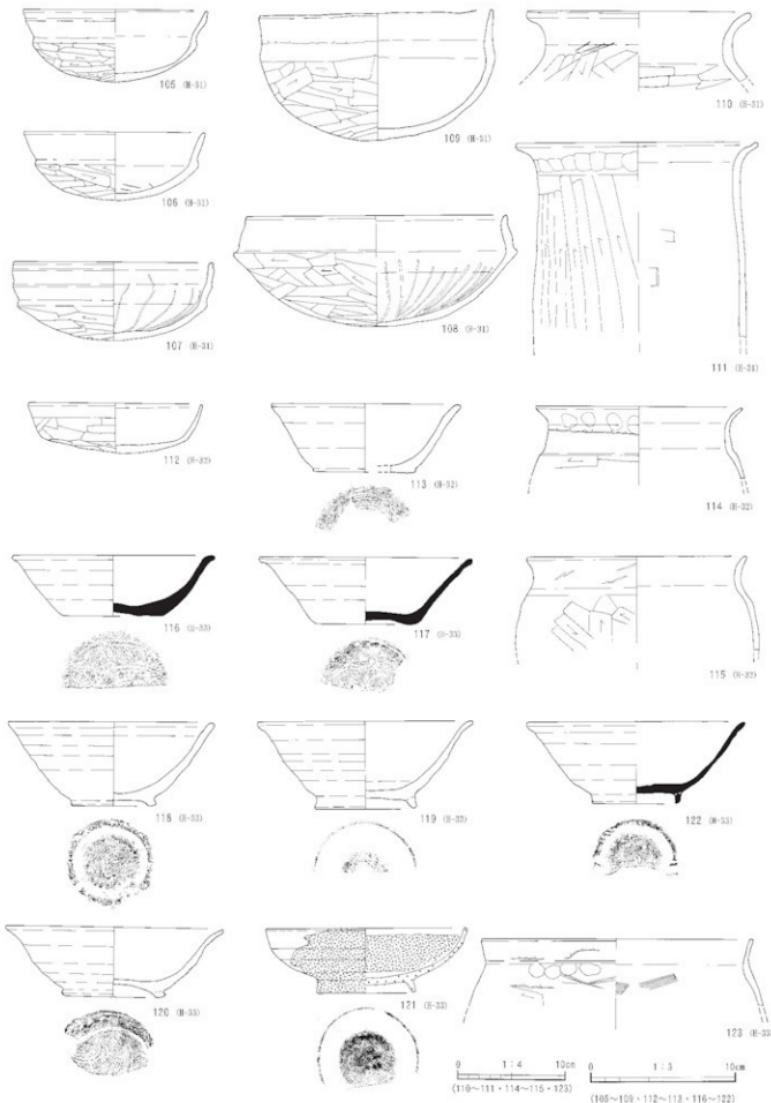


Fig.36-2 トレンチH-31~33号住居出土の土器

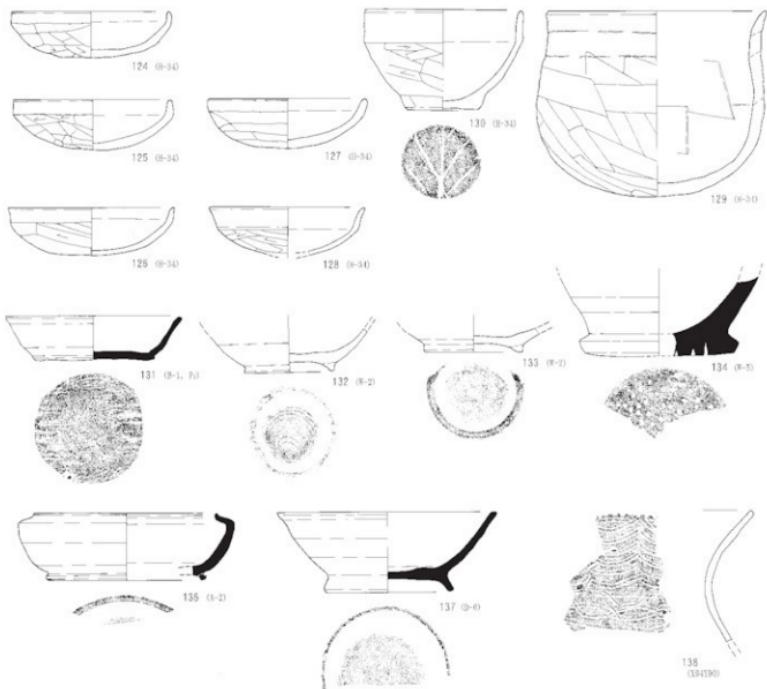


Fig.37 2 トレンチH-34号住居・B-1号掘立柱建物・溝・土坑・遺構外出土の土器およびH-3、7号住居出土の瓦

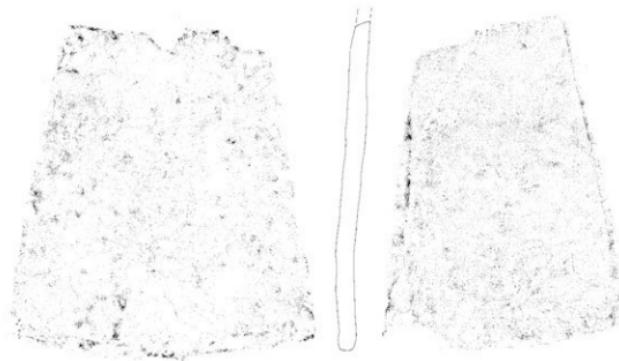


図3 (a-d)

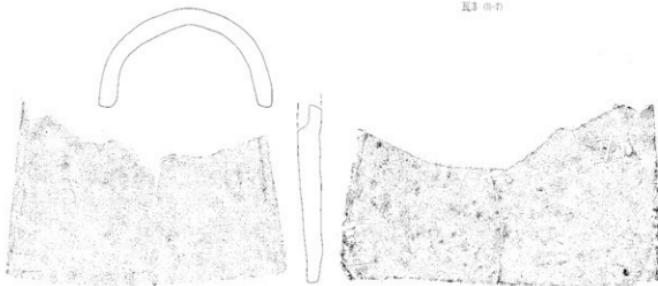


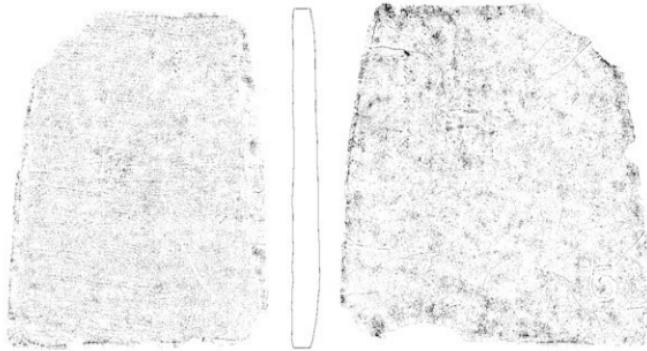
図5 (e-f)



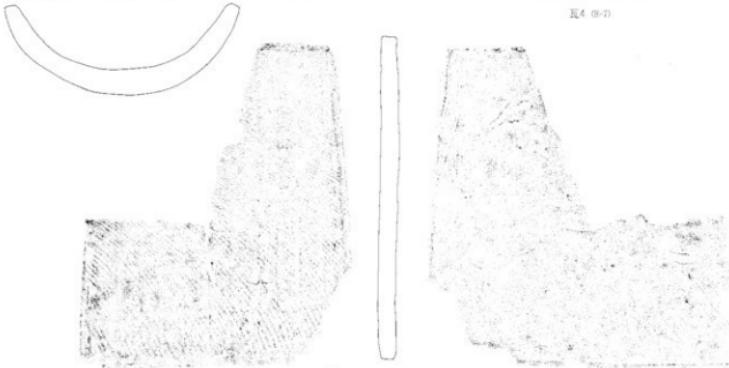
図6 (g-h)

0  
1  
5  
10cm  
(図3・5・6)

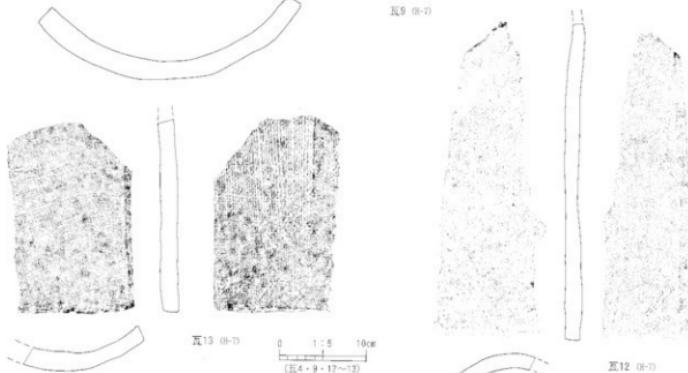
Fig.38 2トレンチH-7号住居出土の瓦



瓦4 (H-7)



瓦5 (H-7)



比例尺  
(H4・9・17～12)

Fig.39 2トレンチH-7号住居出土の瓦

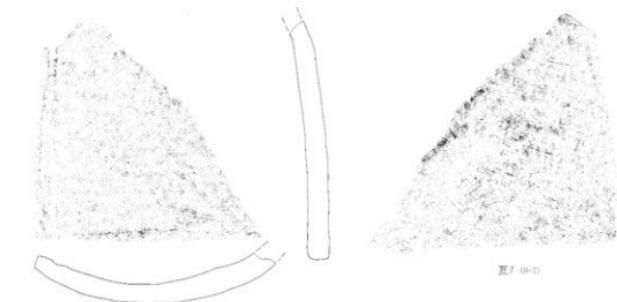


図7 (B-D)

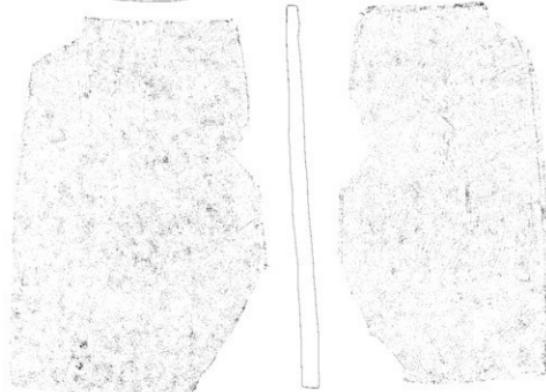


図8 (B-D)

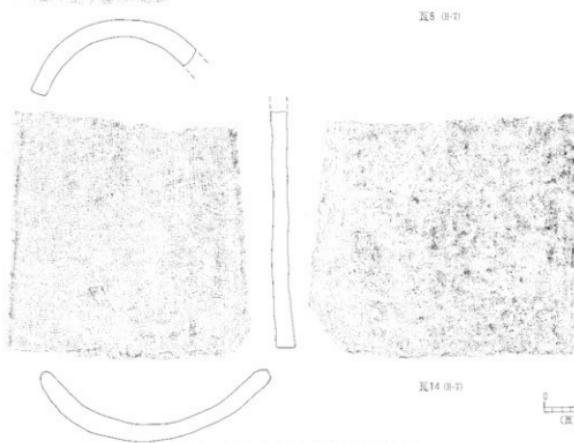


図14 (B-D)

0 1:5 10cm  
(図7-8・14)

Fig.40-2 トレンチH-7号住居出土の瓦

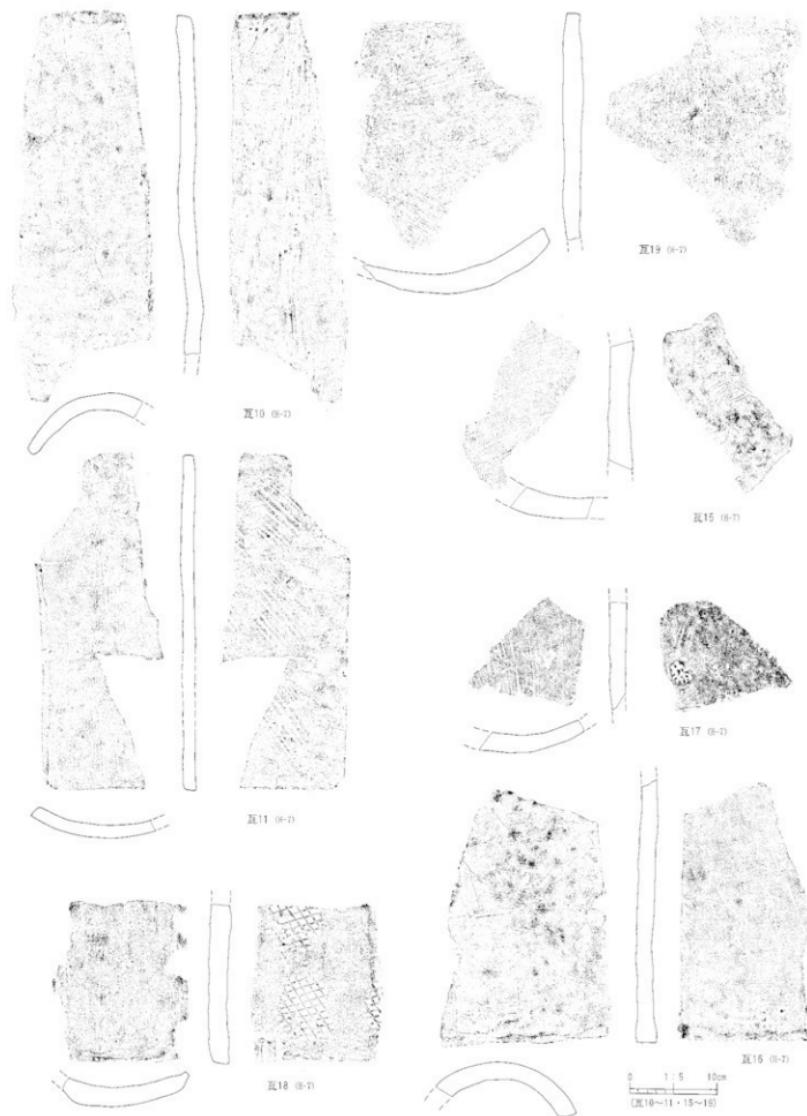


Fig.41 2トレンチH-7号住居出土の瓦

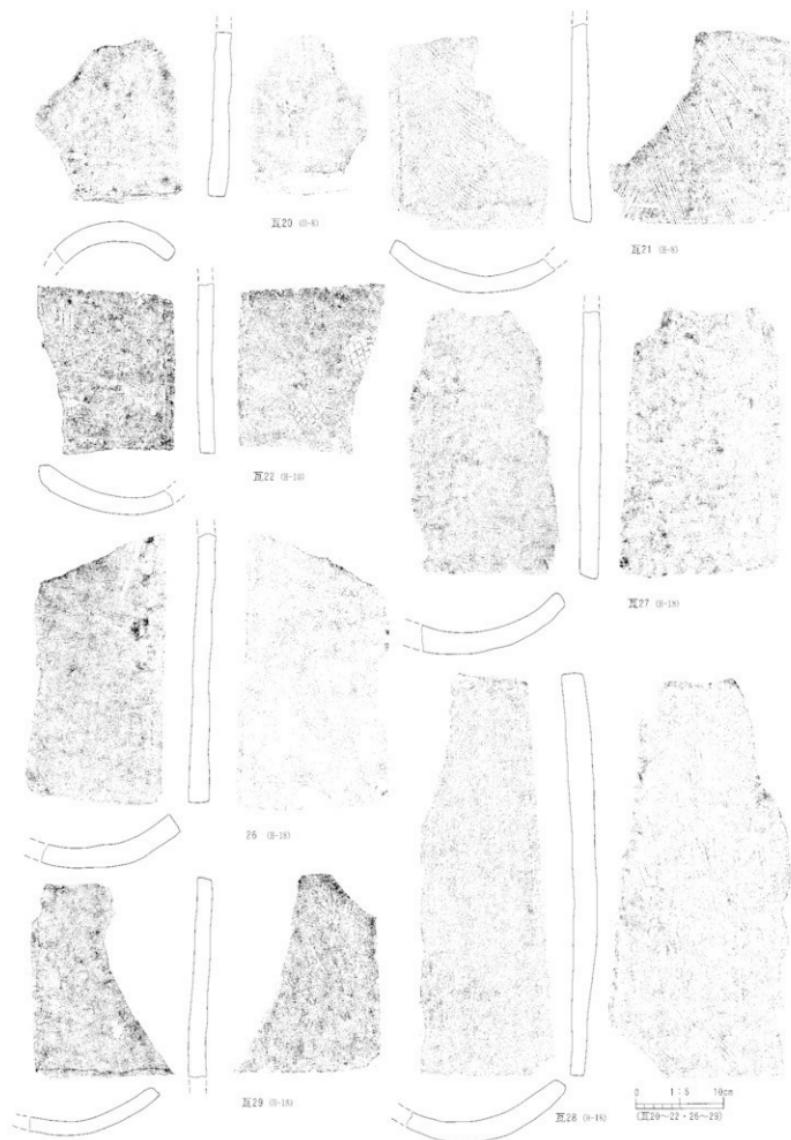


Fig.42 2トレンチH-8、10、18号住居出土の瓦

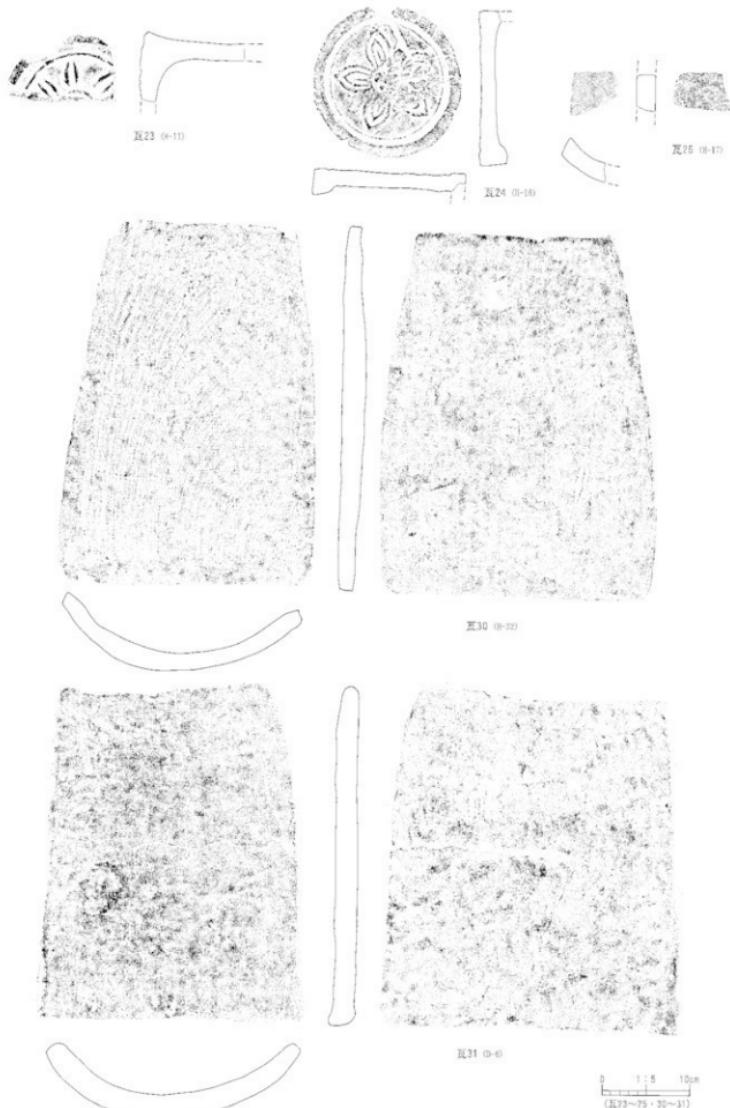
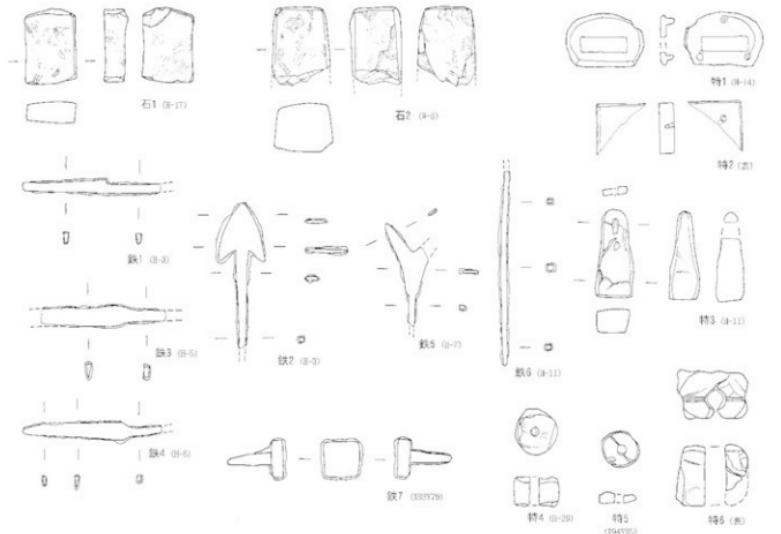


Fig.43 2 トレンチH-11、16、17、32号住居・D-6号土坑出土の瓦



3トレンチ

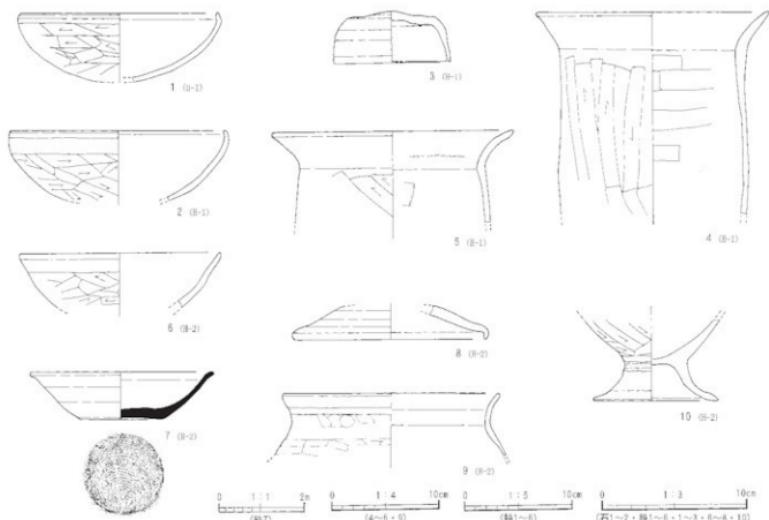
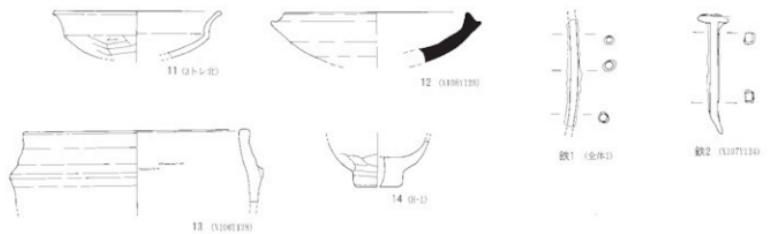


Fig.44 2トレンチ出土の石製品・鉄器・特殊遺物および3トレンチH-1、2号住居出土の土器



4 トレンチ

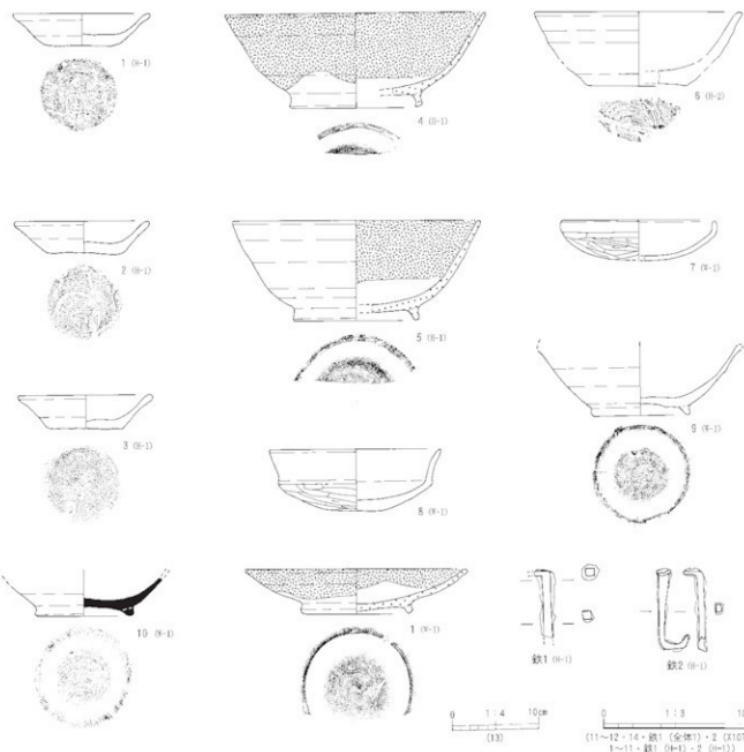


Fig.45 3 トレンチ遺構外出土の土器・鉄器および4 トレンチ出土の土器・鉄器

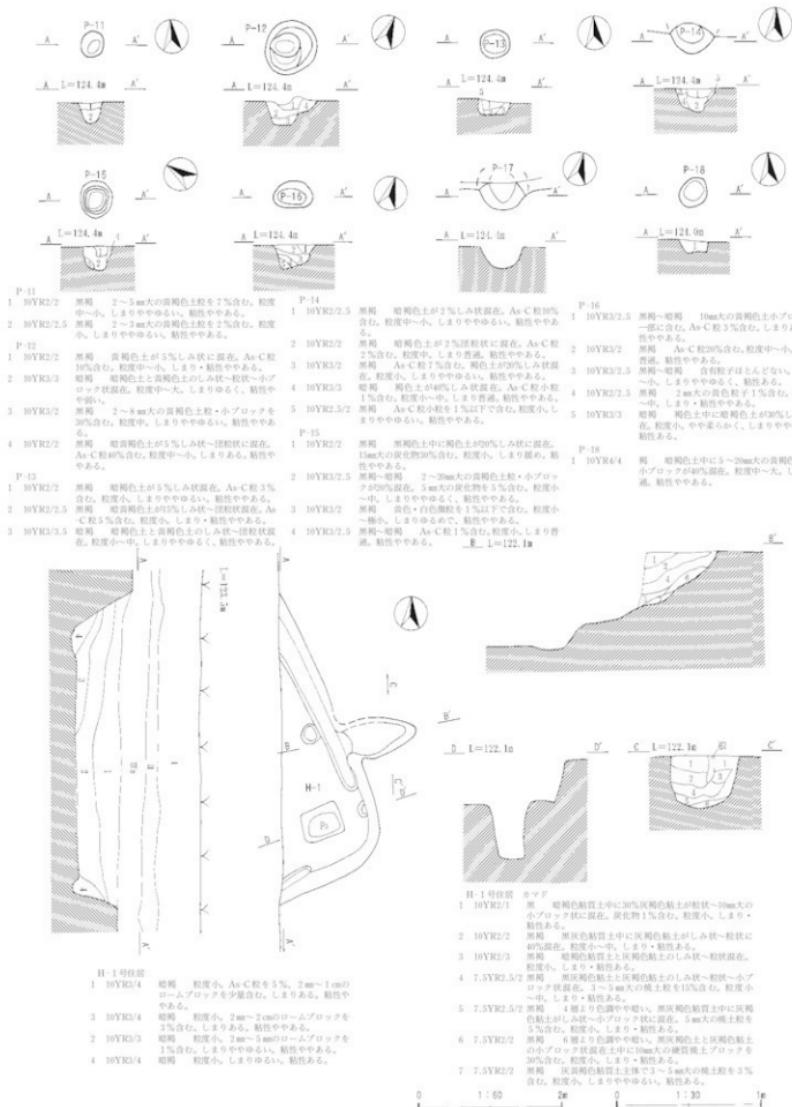


Fig.26 2トレンチ P-11~18 3トレンチH-1号住居

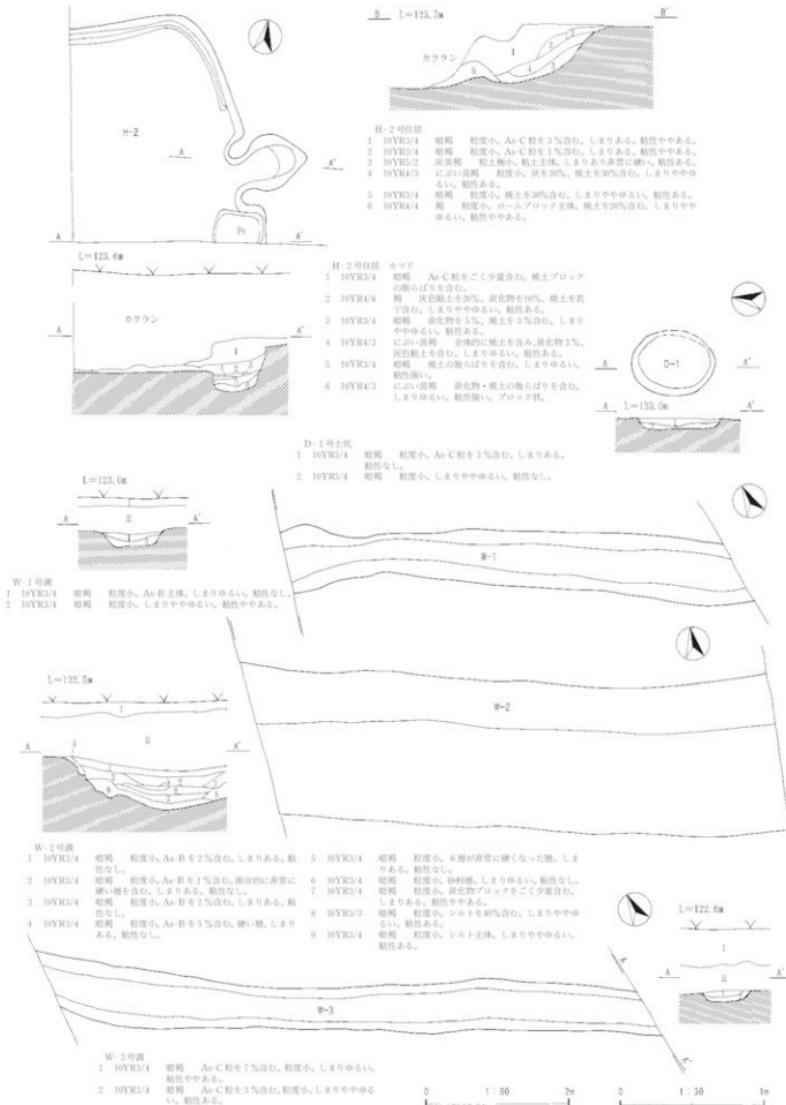


Fig.27 3トレンチH-2号住居・W-1～3号溝・D-1号土坑

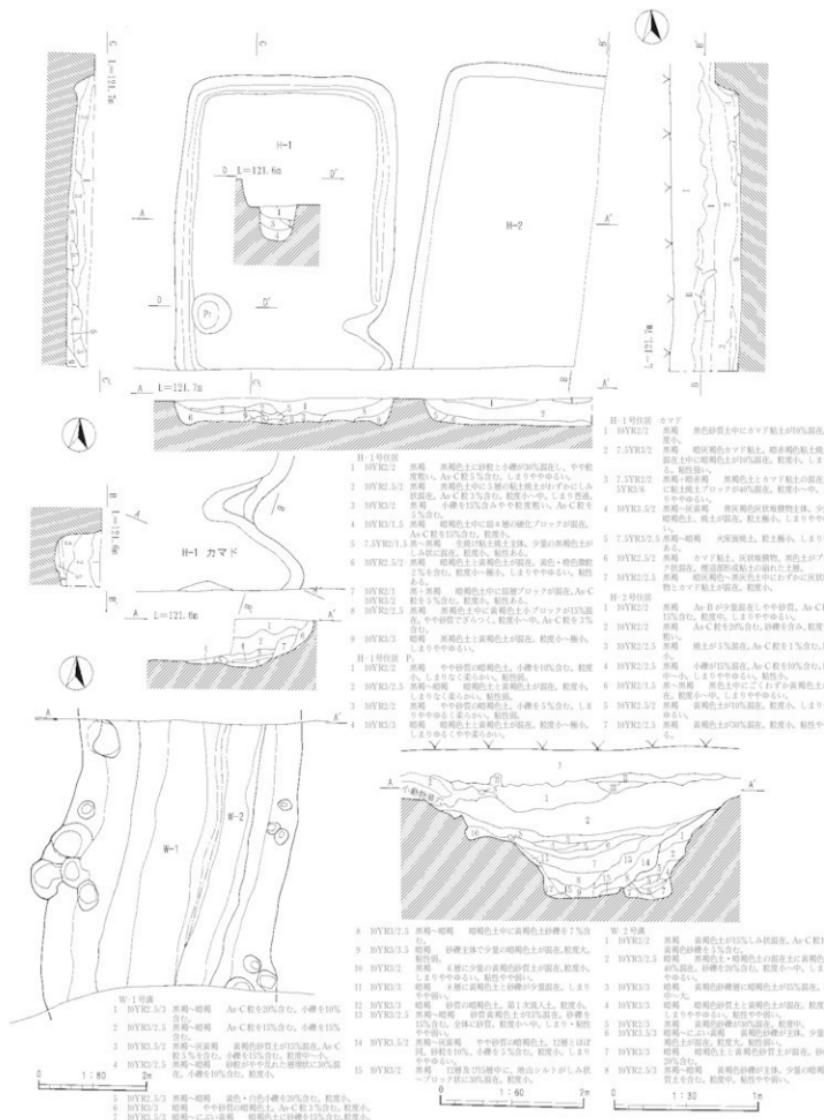


Fig.28 4 トレンチ H-1、2号住居・W-1、2号溝

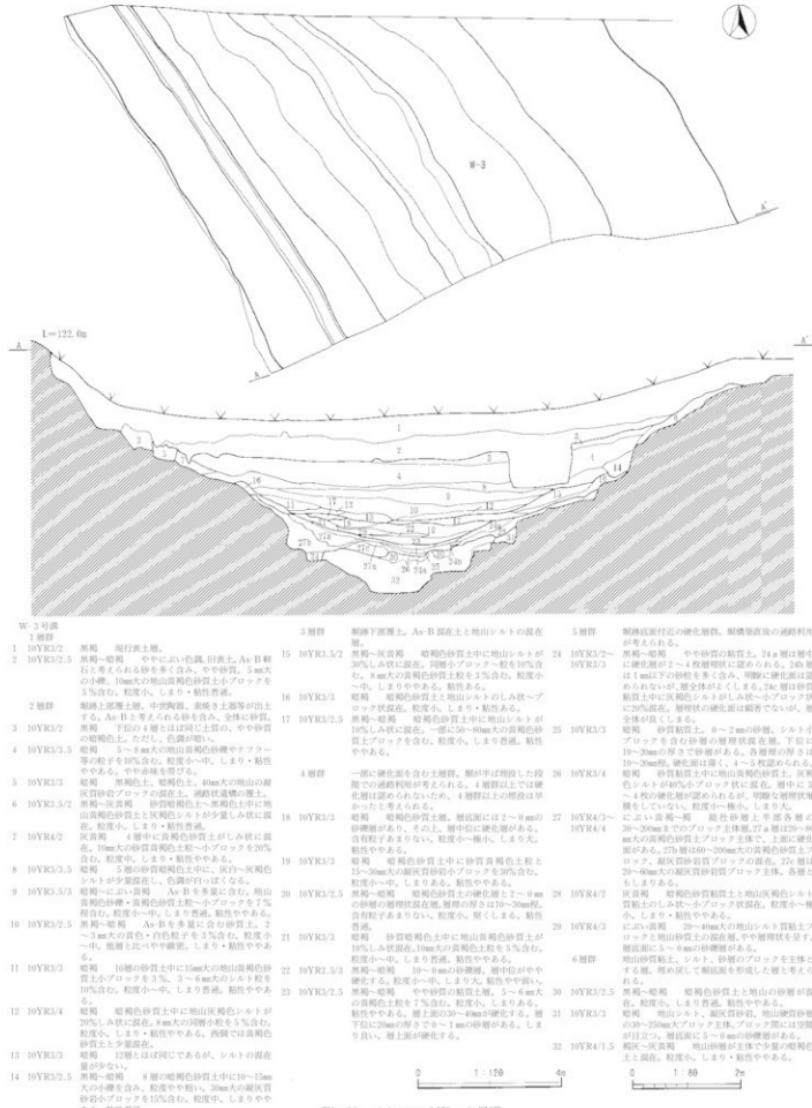


Fig.29 4 Trenche W - 3号溝

## 元總社舊海遺跡群(1) 1 トレンチ



1 トレンチ全景（北から）



H-1号住居全景（東から）



H-1号住居遺物出土状態（西から）



B-1号掘立柱建物跡全景（東から）



W-1号塚全景（西から）



W-2号满塗全景 (北西から)



A-1号硬化面確認状況 (西から)



A-1号硬化面検出状況 (西から)



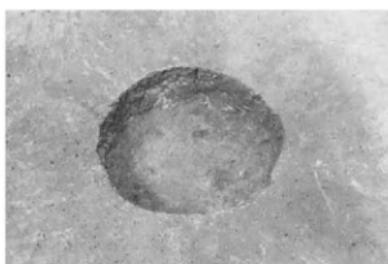
A-1号硬化面土削断面 (東から)



A-2号硬化面検出状況 (南東から)



D-1号土坑全景 (西から)



D-3号土坑全景 (南西から)



D-4・5号土坑全景 (北西から)

元總社舊海遺跡群(1) 2 トレンチ



2 トレンチ北全景 (南から)



2 トレンチ南全景 (南西から)



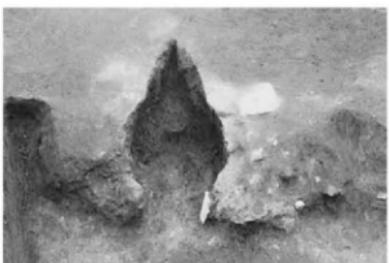
H-2・18号住居全貌（西から）



H-2号住居カマド検出状況（西から）



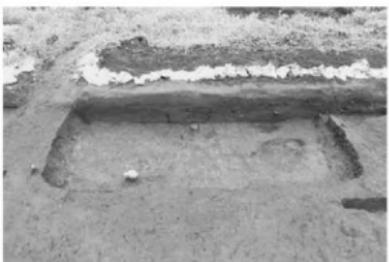
H-3号住居全貌（西から）



H-3号住居カマド検出状況（西から）



H-4号住居確認状況（北西から）



H-5号住居全貌（西から）



H-6・15号住居全貌（西から）



H-7・13号住居全貌（西から）



H-7号住居瓦出土状態（西から）



H-7号住居カマド検出状況（西から）



H-8号住居全貌（西から）



H-8号住居カマド検出状況（西から）



H-10号住居全貌（西から）



H-11号住居全貌（西から）



H-11号住居カマド検出状況（西から）



H-11号住居カマド内遺物出土状態（西から）



H-11号住居カマド補強材構築状況（西から）



H-11号住居カマド補強材検出状況（北西から）



H-12号住居全貌（西から）



H-14号住居全景（西から）



H-16号住居全景（西から）



H-16号住居カマド内遺物出土状況（西から）



H-17号住居全景（北西から）



H-18号住居カマド検出状況（西から）



H-19号住居全景 (西から)



H-20号住居全景 (南から)



H-21号住居全景 (西から)



H-22号住居全景 (南東から)



H-23・27号住居全景 (西から)



H-24号住居全景 (西から)



H-25号住居全景 (西から)



H-26号住居全景 (西から)



H-28号住居全景（南西から）



H-28号住居カマド検出状況（南西から）



H-29号住居全景（北東から）



H-29号住居カマド検出状況（東から）



H-31号住居全景（西から）



H-31号住居カマド検出状況（西から）



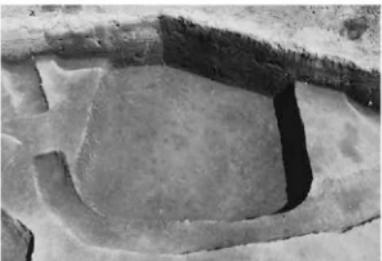
H-32号住居全景（西から）



H-32号住居カマド検出状況



H-33号住居全景 (西から)



H-34号住居全景 (南西から)



B-I 捩立柱建物跡全景 (西から)



W-1号溝全景 (南東から)



W-2号溝南北半全景 (北西から)



W-2号溝土層断面 (北から)



W-3号溝全景 (西から)



W-4号溝全景 (西から)



W-5号溝全景 (南から)



W-6号溝全景 (北から)



W-7号溝全景 (北から)



W-8・10号溝全景 (北西から)



W-9号溝全景 (南西から)



D-5号土坑全景 (西から)



D-12号土坑全景 (西から)



D-14号土坑全景 (北から)

## 元總社舊海遺跡群(1) 3トレンチ



3トレンチ北全景（北から）



3トレンチ南全景（南から）



H-1号住居全景（北東から）



H-1号住居カマド検出状況



H-2号住居全景（南西から）



H-2号住居カマド検出状況（西から）



W-1号溝全景（北東から）



W-2号溝全景（東から）



W-3号溝全景（南東から）



D-1号土坑全景（西から）

## 元總社蒼海遺跡群(1) 4 トレンチ



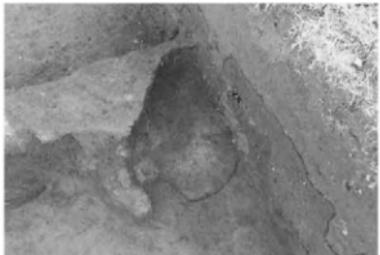
4 トレンチ全景 (西から)



W-1・2・3号調査状況 (東から)



H-1号住居全景（西から）



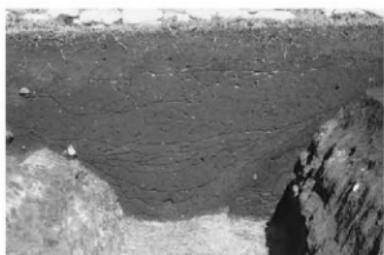
H-1号住居カマド突出状況（西から）



H-2号住居全景（西から）



W-1・2号溝全景（南から）



W-1・2号溝土層断面（南から）



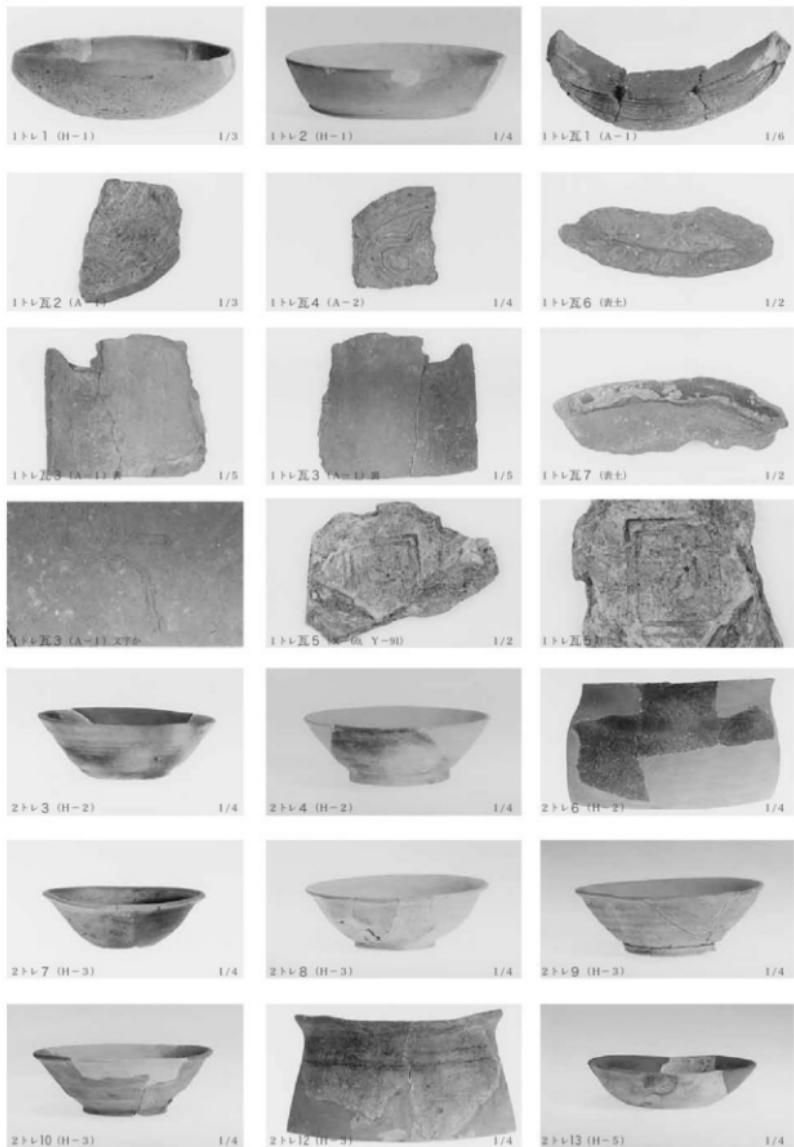
W-3号溝全景（南東から）

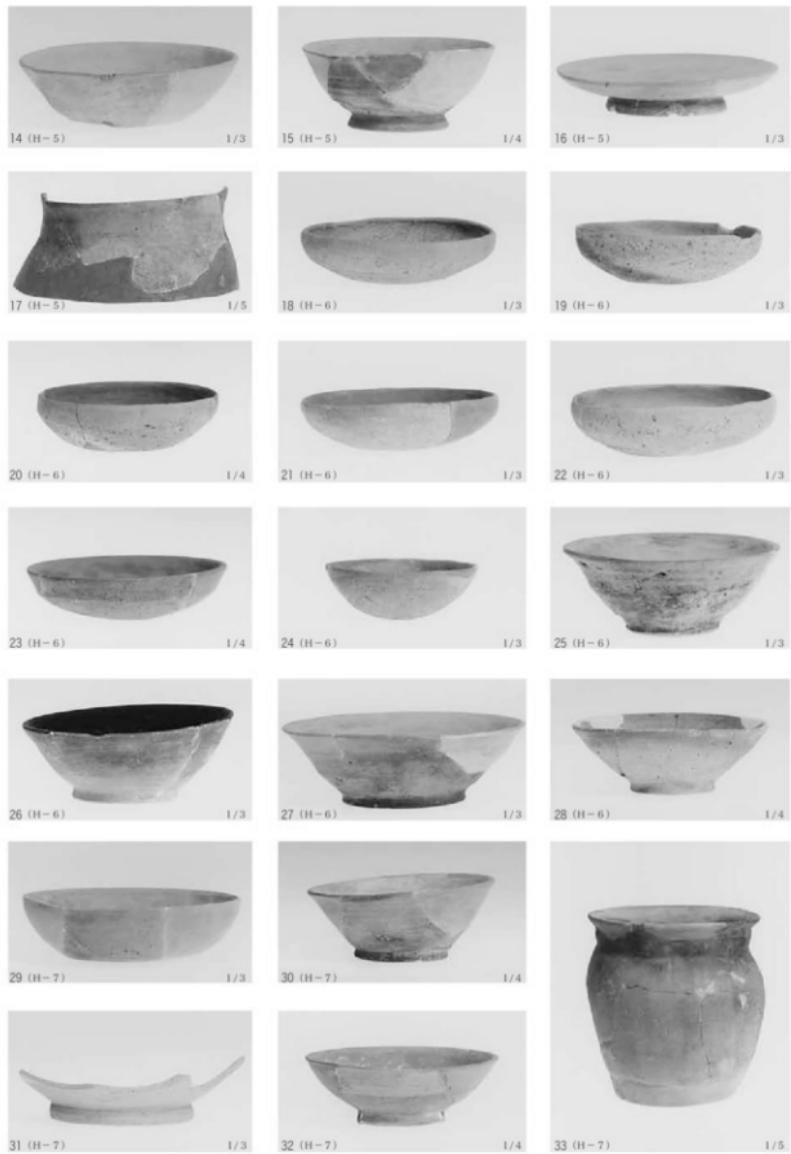


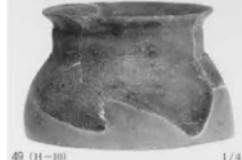
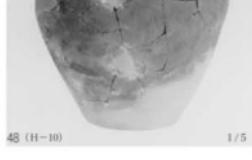
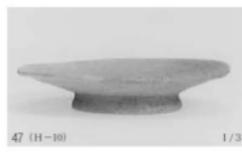
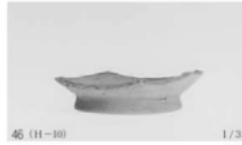
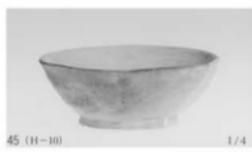
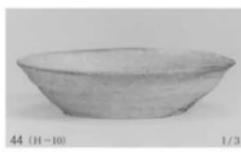
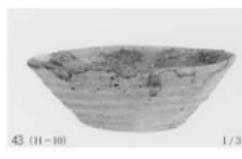
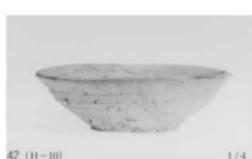
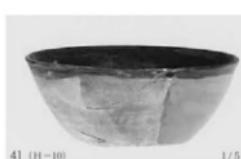
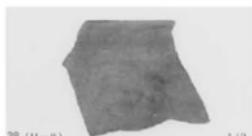
W-3号溝全景（北西から）

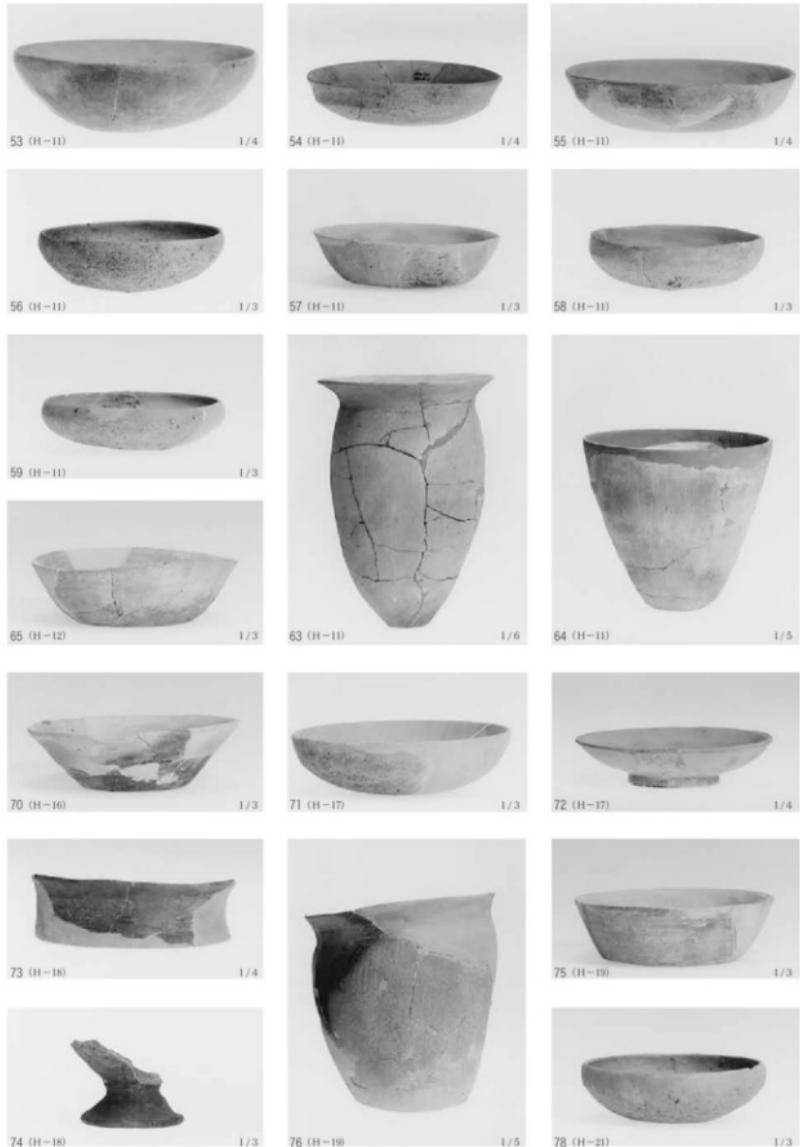


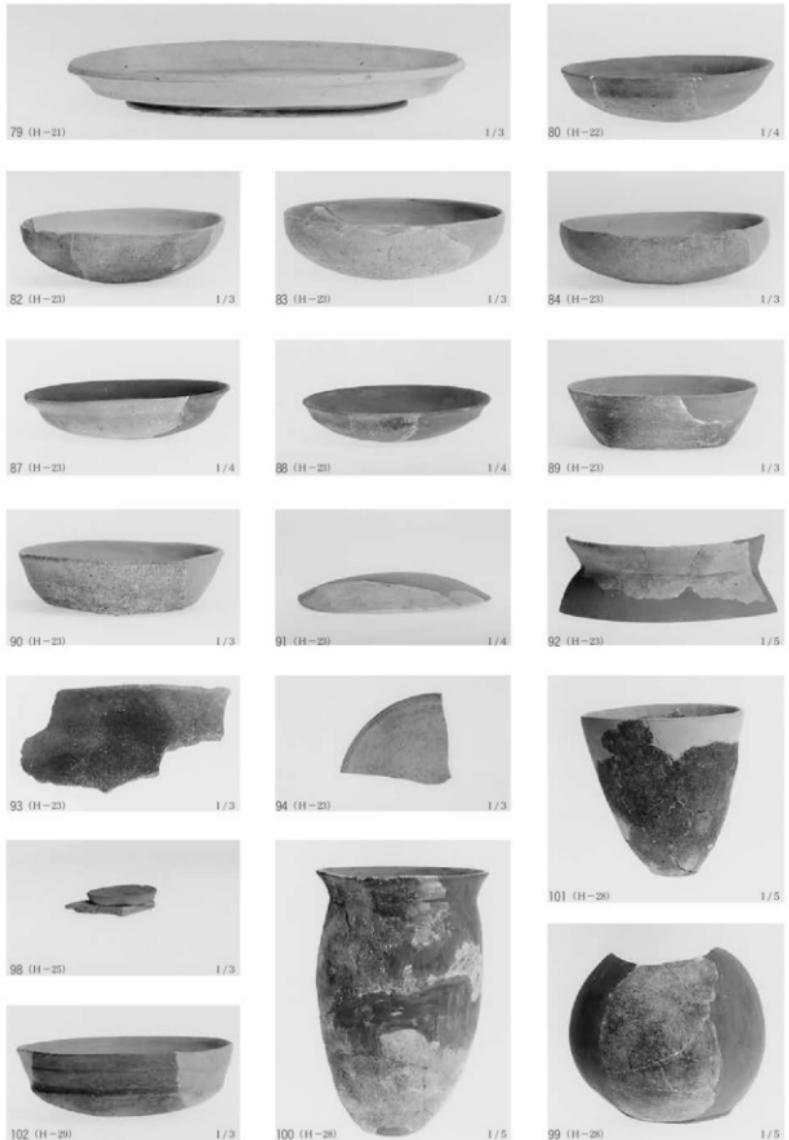
W-3号溝土層断面（北から）



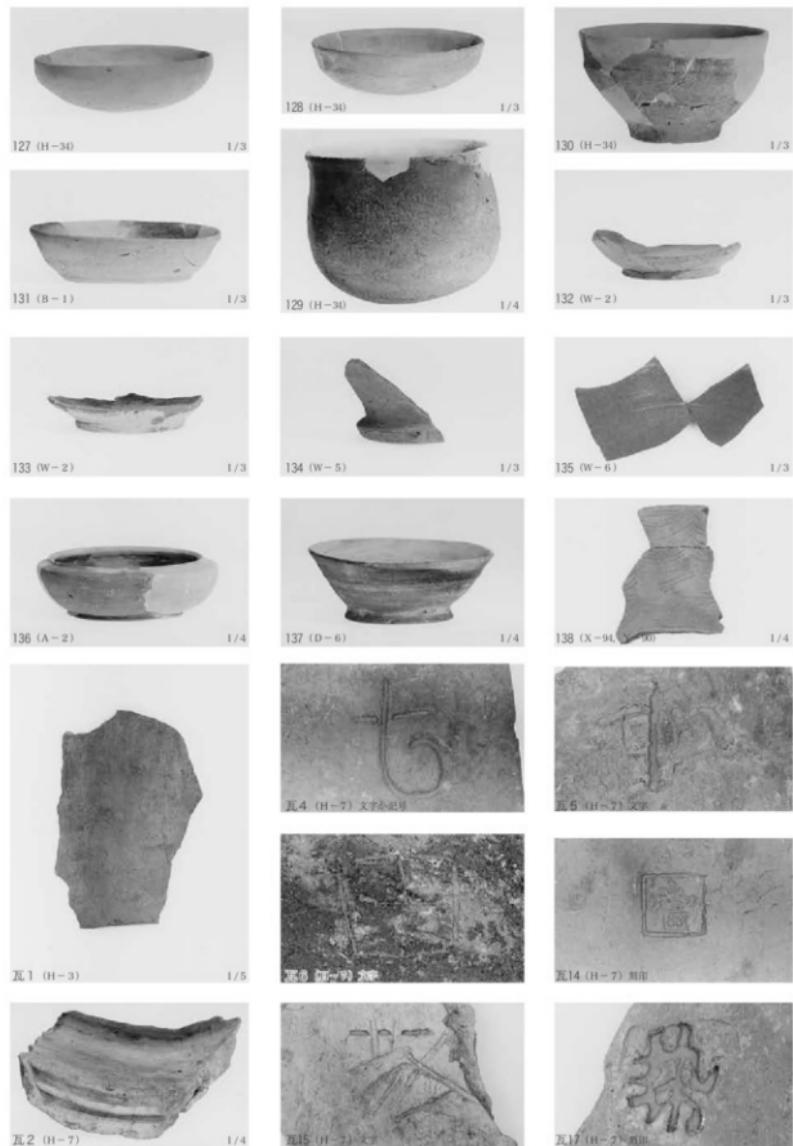


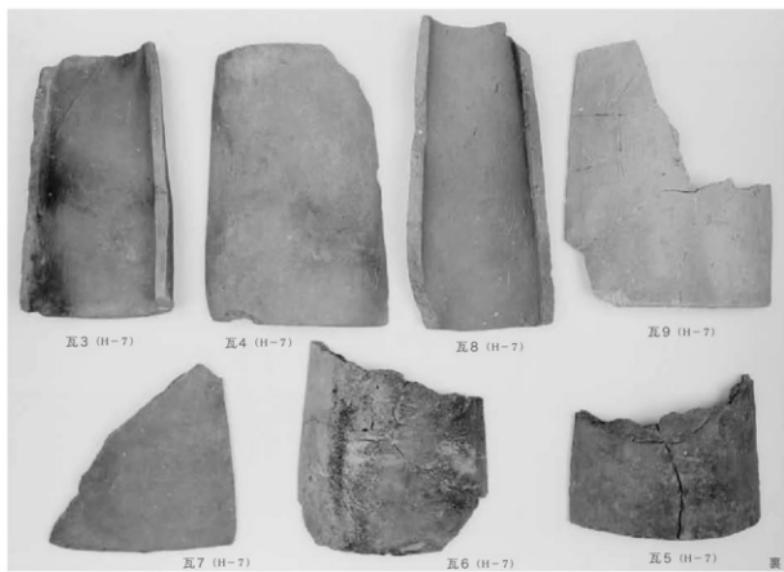
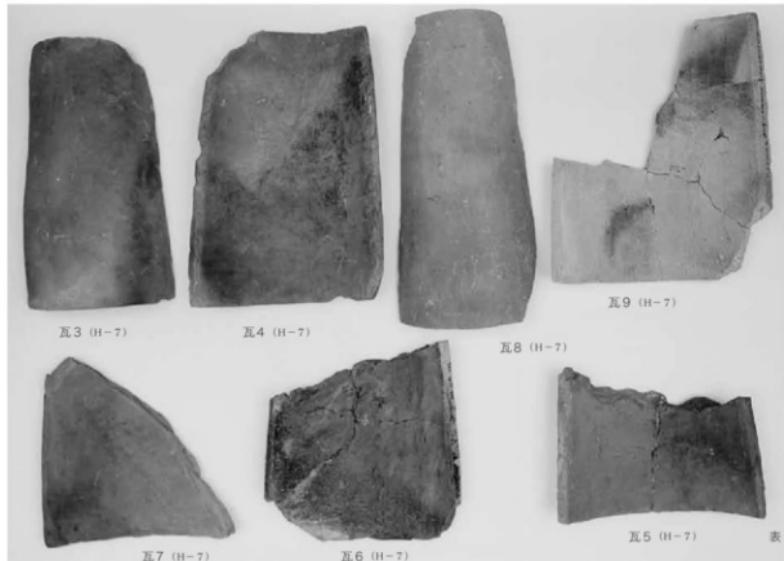


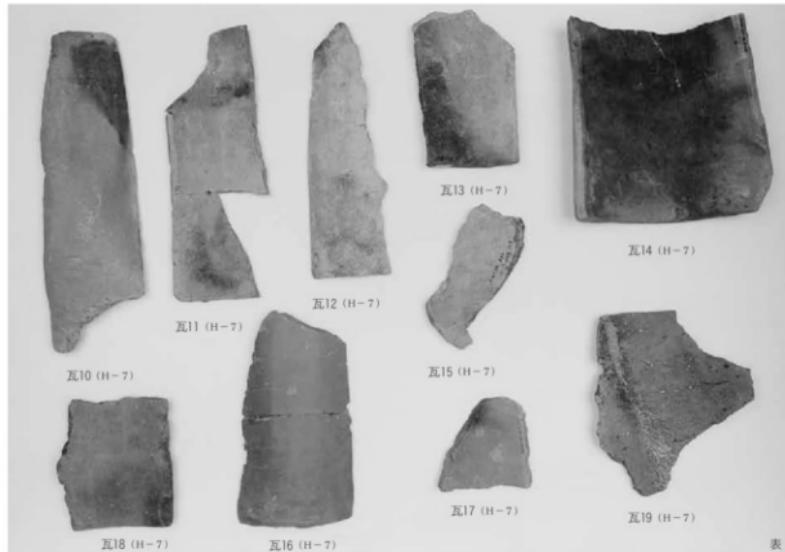




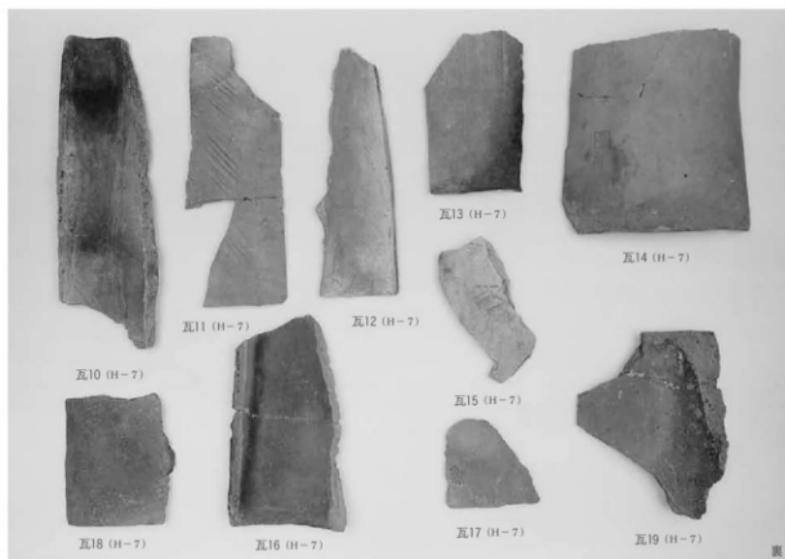




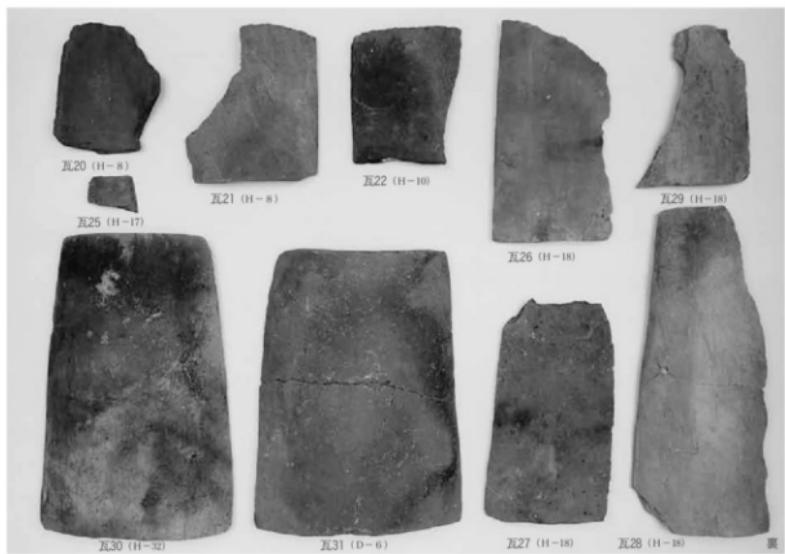
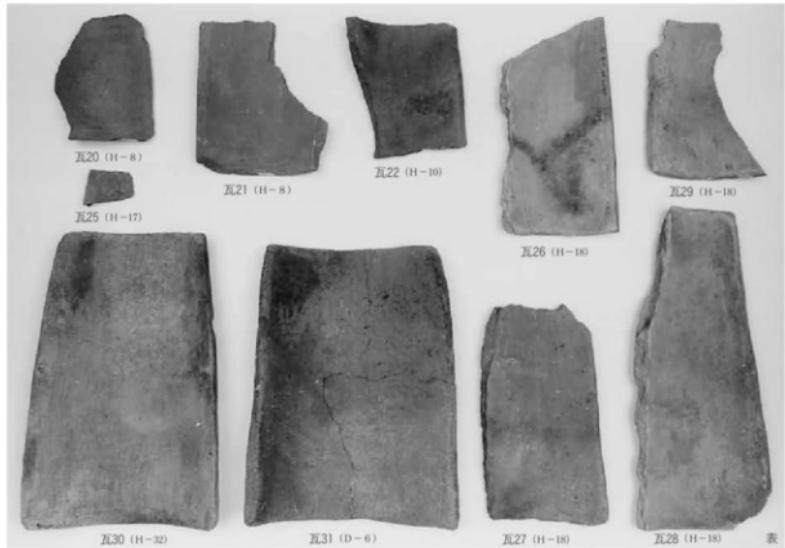


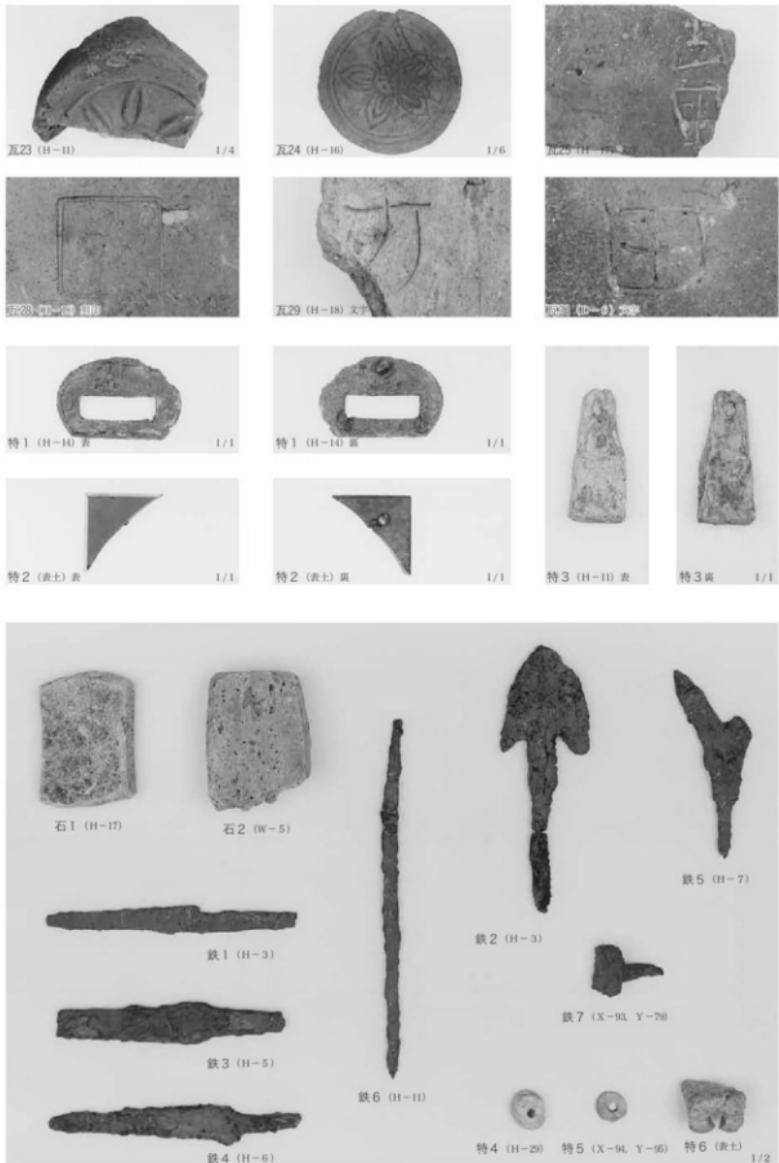


表



圖







## 抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミセキグン1
書名	元総社蒼海遺跡群（1）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	梅澤 克典・井上 登
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2006年3月17日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード			位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経				
モトソウジャオウミセキグン1 元総社蒼海遺跡群（1）	前橋市元総社 町1743番地1 ほか	10201	17A130 -1~4	36°23'38"	139°01'45"	20050516 ~ 20051219	約1,263m <sup>2</sup>	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（1）	集落跡	古墳	竪穴住居4軒 他	土師器、須恵器等	なし
		奈良・平安	竪穴住居跡32軒、掘建柱建物跡2棟、溝跡11条 他	土師器、須恵器、鉄器、石製品、瓦等	なし
		中世以降	溝跡7条	かわらけ、陶磁器片等	蒼海城関連堀跡

### 元総社蒼海遺跡群（1）

2006年2月24日 印刷  
2006年3月17日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三保町二丁目10-2  
TEL 027-231-9531  
印刷所 朝日印刷工業株式会社